

コラボレーション エンドポイント ソフトウェア 8.0
2015 年 11 月



Application Programmer Interface (API) リファレンス ガイド

Cisco TelePresence MX200 G2 および MX300 G2

このリファレンス ガイドの内容

上部メニュー バーと目次のエントリはすべてハイパーリンクになっており、クリックするだけでトピックに移動できます。

定期的にシスコの Web サイトにアクセスし、ユーザ マニュアルの更新バージョンについて確認することを推奨します。

URL: <http://www.cisco.com/go/mx-docs>

目次

はじめに.....	3	HTTP の使用.....	27
このマニュアルについて.....	4	ステータスとコンフィギュレーションの取得.....	27
ユーザ ドキュメンテーションのダウンロード.....	4	コマンドとコンフィギュレーションの送信.....	27
このバージョンの新機能.....	5	HTTP POST の使用.....	27
新機能および改善点.....	5	HTTP を介したコーデックからのフィードバック.....	28
CE8.0 における xConfiguration の変更.....	7	フィードバックの登録.....	28
CE8.0 における xCommand の変更.....	11	terminal モードから XML への変換.....	29
CE8.0 における xStatus の変更.....	14	推奨事項と禁止事項.....	30
API について.....	17	xConfiguration コマンド.....	31
API の基礎.....	18	xCommand コマンド.....	78
API への接続.....	18	xStatus コマンド.....	115
パスワード.....	18	付録.....	157
RS-232 シリアル接続.....	18	起動スクリプトについて.....	158
Telnet.....	19	SystemTools コマンド.....	159
SSH.....	19	接続解除原因タイプについて.....	161
HTTP/HTTPS.....	19	シスコ Web サイト内のユーザ マニュアル.....	162
API の出力.....	20		
出力モード.....	20		
コマンド ラインの使用.....	21		
API コマンド.....	21		
その他のコマンド.....	21		
コマンド ラインのショートカット.....	22		
検索.....	22		
値のタイプと形式.....	22		
コマンド.....	23		
コンフィギュレーション.....	23		
ステータス.....	23		
イベント.....	24		
フィードバックのメカニズム.....	25		
フィードバック表現式.....	25		
端末接続.....	26		



第 1 章 はじめに

このマニュアルについて

このマニュアルは、コラボレーション エンドポイント ソフトウェアのアプリケーション プログラミング インターフェイス (API) を紹介するものであり、次に示す製品のコマンドライン コマンドのリファレンス ガイドとして役立ちます。

- Cisco TelePresence MX200 G2 および MX300 G2

ユーザ ドキュメンテーションのダウンロード

次のシスコ Web サイトからユーザ マニュアルをダウンロードできます: ▶ <http://www.cisco.com/go/mx-docs>

シスコ Web サイトでのマニュアルの検索方法については、付録の ▶『[シスコ Web サイト内のユーザ マニュアル](#)』を参照してください。

このバージョンの新機能

ここでは新規および変更されたシステム設定の概要を説明し、シスコ コラボレーション エンドポイント ソフトウェア バージョン 8.0 (CE8.0) における新機能と改善点を TC7.3 と比較して概説します。

CE ソフトウェアは TC7 に基づいているため、構造および主要機能は TC ソフトウェアと同じです。

詳細については、ソフトウェアのリリース ノートをご覧ください。

▶ <http://www.cisco.com/c/en/us/support/collaborationendpoints/telepresence-mx-series/tsd-productssupport-series-home.html>



アップグレードする前に CE8.0 のアップグレード要件を検討しておくことが重要です。これを行わずに CE8.0 にアップグレードすると、展開が機能せず、ダウングレードが必要になることがあります。

新機能および改善点

製品

CE8.0 は以下の製品をサポートしています。

- MX200 G2
- MX300 G2
- MX700
- MX800
- SX10 Quick Set
- SX20 Quick Set
- SX80

EX シリーズ、C シリーズ、および Profile シリーズの Cisco TelePresence 製品は CE ソフトウェアでサポートされません。これらの製品に対しては TC7.3 以前のソフトウェア バージョンを使用してください。

ユーザ インターフェイス

CE ソフトウェアを実行する製品は、次のユーザ インターフェイスを使用する必要があります。

- Touch 10 コントローラ (すべてのシスコ製品で利用可能)。
- TRC6 リモート コントロール (SX10 および SX20 で使用可能)。

Touch 8 コントローラおよび TRC5 リモート コントロールはサポートされていません。

API の変更

API コマンドの数が削減されました。基本的なアーキテクチャ上の変更に合わせて、一部のコマンドが完全に削除され、他のコマンドでも構文上の変化が生じています。

新しい API を使用するには、API を使用している現在の統合環境を再プログラミングする必要があるかどうかを検討することが大切です。

この章には、新規コマンドのリストに加えて、変更の全リストが記載されています。

コンテンツ共有用のインテリジェント プロキシシティ

Cisco Proximity を使用すると、デバイス (スマートフォン、タブレット、ラップトップ) が圏内に入ったときに、デバイスを自動的にビデオ システムにペアリングできます。デフォルトでは、この機能は有効になっています。

Cisco Proximity は 3 つのサービスを提供します (クライアントへのコンテンツ共有、クライアントからのコンテンツ共有、基本的なコール制御)。デフォルトでは、これらのサービスは無効になっています。

スマートフォンとタブレット (Android/iOS) 用およびラップトップ (Windows/OS X) 用の Cisco Proximity クライアントは、[▶ http://proximity.cisco.com](http://proximity.cisco.com) からダウンロードできます。スマートフォンおよびタブレット用のクライアントは、Google Play (Android) や Apple アプリ ストア (iOS) から入手可能です。

マルチストリーム

マルチストリーム 機能は、ビデオ システムが複数のビデオ ストリームをさまざまな解像度で同時に送受信できるようにする機能です。ビデオ システムはレイアウトをローカルに作成して、レイアウトがすべての利用可能な画面に適切に適合するようにします。

複数の参加者がいる会議でこの機能を使用すると、レイアウトの制御面でユーザ エクスペリエンスが向上します。マルチストリーム が有効な会議では、マルチスクリーン システムですべての画面を利用できます。また、すべてのシステムでコンテンツを提供して共有する場合のレイアウトが向上します。

このリリースでは、マルチストリーム はデフォルトでオフになっています。最適なエクスペリエンスを得るために、Cisco UCM 11.0.0 以降、および TelePresence Server と TelePresenceConductor の最新バージョンを使用することを推奨します。

マイク LED の動作

マイクおよび Touch 10 の LED の動作が変更されました。以下の状況では、マイク LED が点灯し、ミュート ボタンがアクティブになります。

- ・ 発信コールを開始してからコールが切断されるまで。
- ・ 着信コールを受信してからコールが切断されるまで。
- ・ Web インターフェイスで VU メーターをアクティブ化して音量レベルをテストするとき。

色の表示 (緑色がアクティブ、赤色がミュート) は変更されていません。

解像度の変更

コラボレーション エンドポイント ソフトウェアは、16:9 の解像度に対応したディスプレイだけをサポートしています。

リモート モニタリング

セキュリティ強化のために、リモート モニタリング オプション キーがビデオ システムにインストールされている場合にのみ、ビデオ システムの Web インターフェイスからローカルや遠端のビデオ ストリームのスナップショットを作成できます。

オプション キーを追加してビデオ システムを再起動すると、リモート モニタリングが有効になります。

ビデオ システムのユーザに対して警告メッセージやインジケータは送信されません。システム管理者によってカメラや画面が監視され制御される場合があることを十分にユーザに通知してください。

削除された機能

- ・ MultiWay はサポートされなくなりました。代わりに、CUC アドホック会議やホステッド会議を使用できます。
- ・ Cisco CTMS はサポートされなくなりました。代わりに、他のマルチポイント会議ソリューション (Cisco TelePresence Server、Cisco TelePresence MCU、Cisco TelePresence Conductor など) を使用できます。
- ・ MediaNet はサポートされなくなりました。



CE8.0 における xConfiguration の変更

新しい構成

Audio Output InternalSpeaker Mode
Conference MultiStream Mode
Proximity Mode
Proximity Services CallControl
Proximity Services ContentShare FromClients
Proximity Services ContentShare ToClients
Video DefaultMainSource

削除された設定

<path> * は、<path> の後ろに続くコンフィギュレーションがすべて削除されたことを意味します。

Audio Microphones Mute Enabled
Cameras PowerLine Frequency
Conference [1] ActiveControl Mode
Conference [1] CallProtocolIPStack
Conference [1] FarEndControl SignalCapability
Conference [1] IncomingMultisiteCall Mode
Conference [1] MicUnmuteOnDisconnect Mode
Conference [1] Multipoint Mode
Conference [1] Presentation *
Conference [1] VideoBandwidth *
Experimental *
FacilityService *
H323 Profile [1] Gatekeeper Discovery
H323 Profile [1] PortAllocation
Logging Mode
Network [1] DHCP RequestTFTPServerAddress

Network [1] TrafficControl Mode
NetworkServices CTMS Encryption
NetworkServices CTMS Mode
NetworkServices HTTPS Mode
NetworkServices HTTPS OCSP *
NetworkServices HTTPS VerifyClientCertificate
NetworkServices HTTPS VerifyServerCertificate
NetworkServices Medianet Metadata
NetworkServices MultiWay *
NetworkServices SSH AllowPublicKey
NetworkServices XMLAPI Mode
Peripherals Pairing *
RTP *
Security *
SIP ANAT
SIP AuthenticateTransferError
SIP OCSP *
SIP PreferredIPMedia
SIP PreferredIPSignaling
SIP Profile [1] Line
SIP Profile [1] Mailbox
SIP Profile [1] Outbound
SIP Profile [1] Proxy [n] Discovery
SIP Profile [1] TlsVerify
SIP Profile [1] Turn BandwidthProbe
SIP Profile [1] Turn DiscoverMode
SIP Profile [1] Turn DropRflx
SIP Profile [1] Type

SystemUnit CallLogging Mode
 SystemUnit MenuLanguage
 Time OlsonZone
 UserInterface OSD EncryptionIndicator
 UserInterface OSD LanguageSelection
 UserInterface OSD LoginRequired
 UserInterface TouchPanel DefaultPanel
 UserInterface UserPreferences
 UserInterface Wallpaper
 Video AllowWebSnapshots
 Video Input Connector [n] DviType
 Video Input Connector [n] OptimalDefinition *
 Video Input Connector [n] RGBQuantizationRange
 Video Layout DisableDisconnectedLocalOutputs
 Video Layout LocalLayoutFamily
 Video Layout PresentationDefault View
 Video Layout RemoteLayoutFamily
 Video Layout ScaleToFrame
 Video Layout ScaleToFrameThreshold
 Video Layout Scaling
 Video OSD EncryptionIndicator
 Video OSD LanguageSelection
 Video OSD LoginRequired
 Video OSD Output
 Video Output Connector [1] Brightness
 Video Output Connector [1] Whitebalance Level
 Video Output Connector [n] Location HorizontalOffset
 Video Output Connector [n] Location VerticalOffset

Video Output Connector [n] RGBQuantizationRange
 Video PIP *
 Video Wallpaper

変更された設定

NetworkServices HTTP Mode

旧: <Off/On>
 デフォルト値: On

新: <Off/HTTP+HTTPS/HTTPS>
 デフォルト値: HTTP+HTTPS

Phonebook Server [n] Type

旧: <VCS/TMS/Callway/CUCM>
 デフォルト値: TMS

新: <Off/VCS/TMS/CUCM>
 デフォルト値: Off

Provisioning Mode

旧: <Off/TMS/VCS/Callway/CUCM/Auto/Edge>

新: <Off/TMS/VCS/CUCM/Auto/Edge>

Standby BootAction

旧: <None/Preset1/Preset2/Preset3/Preset4/Preset5/Preset6/Preset7/Preset8/Preset9/
 Preset10/Preset11/Preset12/Preset13/Preset14/Preset15/RestoreCameraPosition/
 DefaultCameraPosition>

新: <None/RestoreCameraPosition/DefaultCameraPosition>

Standby WakeupAction

旧: <None/Preset1/Preset2/Preset3/Preset4/Preset5/Preset6/Preset7/Preset8/Preset9/
 Preset10/Preset11/Preset12/Preset13/Preset14/Preset15/RestoreCameraPosition/
 DefaultCameraPosition>

新: <None/RestoreCameraPosition/DefaultCameraPosition>

Time Zone

変更: タイム ゾーンのリストが更新されました。値スペースの情報は、tz データベース (別名: IANA
 タイムゾーン データベース) から取得しています。

Video Input Connector [n] InputSourceType

旧: <other/camera/PC/DVD/document_camera/whiteboard>

新: <other/camera/PC/mediaplayer/document_camera/whiteboard>

Video Input Connector [n] PresentationSelection

旧: <Manual/Automatic/OnConnect>

新: <Manual/OnConnect>

Video Output Connector [n] Resolution

旧: <Auto/1024_768_60/1280_1024_60/1280_720_50/1280_720_60/1920_1080_50/1920_1080_60/1280_768_60/1360_768_60/1366_768_60>

新: <Auto/1280_720_50/1280_720_60/1920_1080_50/1920_1080_60>

名前が変更された設定

Audio SoundsAndAlerts KeyTones Mode

新しい名前: UserInterface KeyTones Mode

Cameras Camera [n] Backlight

新しい名前: Cameras Camera [n] Backlight DefaultMode

Cameras Camera [n] Brightness Level

新しい名前: Cameras Camera [n] Brightness DefaultLevel

Conference [1] AutoAnswer Delay

新しい名前: Conference AutoAnswer Delay

Conference [1] AutoAnswer Mode

新しい名前: Conference AutoAnswer Mode

Conference [1] AutoAnswer Mute

新しい名前: Conference AutoAnswer Mute

Conference [1] DefaultCall Protocol

新しい名前: Conference DefaultCall Protocol

Conference [1] DefaultCall Rate

新しい名前: Conference DefaultCall Rate

Conference [1] DoNotDisturb DefaultTimeout

新しい名前: Conference DoNotDisturb DefaultTimeout

Conference [1] Encryption Mode

新しい名前: Conference Encryption Mode

Conference [1] FarEndControl Mode

新しい名前: Conference FarEndControl Mode

Conference [1] MaxReceiveCallRate

新しい名前: Conference MaxReceiveCallRate

Conference [1] MaxTotalReceiveCallRate

新しい名前: Conference MaxTotalReceiveCallRate

Conference [1] MaxTotalTransmitCallRate

新しい名前: Conference MaxTotalTransmitCallRate

Conference [1] MaxTransmitCallRate

新しい名前: Conference MaxTransmitCallRate

H323 Profile [1] Authentication LoginName

新しい名前: H323 Authentication LoginName

H323 Profile [1] Authentication Mode

新しい名前: H323 Authentication Mode

H323 Profile [1] Authentication Password

新しい名前: H323 Authentication Password

H323 Profile [1] CallSetup Mode

新しい名前: H323 CallSetup Mode

H323 Profile [1] Encryption KeySize

新しい名前: H323 Encryption KeySize

H323 Profile [1] Gatekeeper Address

新しい名前: H323 Gatekeeper Address

H323 Profile [1] H323Alias E164

新しい名前: H323 H323Alias E164

H323 Profile [1] H323Alias ID

新しい名前: H323 H323Alias ID

NetworkServices NTP Address

新しい名前: NetworkServices NTP Server [n] Address

SIP Profile [1] Authentication [1] LoginName

新しい名前: SIP Authentication UserName

SIP Profile [1] Authentication [1] Password

新しい名前: SIP Authentication Password



SIP Profile [1] DefaultTransport

新しい名前:SIP DefaultTransport

SIP Profile [1] DisplayName

新しい名前:SIP DisplayName

SIP Profile [1] Ice DefaultCandidate

新しい名前:SIP Ice DefaultCandidate

SIP Profile [1] Ice Mode

新しい名前:SIP Ice Mode

SIP Profile [1] Proxy [n] Address

新しい名前:SIP Proxy [n] Address

SIP Profile [1] Turn Password

新しい名前:SIP Turn Password

SIP Profile [1] Turn Server

新しい名前:SIP Turn Server

SIP Profile [1] Turn UserName

新しい名前:SIP Turn UserName

SIP Profile [1] URI

新しい名前:SIP URI

SystemUnit ContactInfo Type

新しい名前:UserInterface ContactInfo Type

Video CamCtrlPip CallSetup Duration

新しい名前:Video Selfview OnCall Duration

Video CamCtrlPip CallSetup Mode

新しい名前:Video Selfview OnCall Mode

Video DefaultPresentationSource

新しい名前:Video Presentation DefaultSource

Video SelfviewDefault FullscreenMode

新しい名前:Video Selfview Default FullscreenMode

Video SelfviewDefault Mode

新しい名前:Video Selfview Default Mode

Video SelfviewDefault OnMonitorRole

新しい名前:Video Selfview Default OnMonitorRole

Video SelfviewDefault PIPPosition

新しい名前:Video Selfview Default PIPPosition

CE8.0 における xCommand の変更

新しいコマンド

Camera Preset ActivateDefaultPosition
 Camera Preset Show
 Proximity Services Activate
 Proximity Services Deactivate
 SystemUnit OptionKey Remove
 SystemUnit OptionKey RemoveAll
 UserManagement User Passphrase Change
 UserManagement User Passphrase Set

削除されたコマンド

*xCommand <path> ** は、*xCommand <path>* の後ろに続くコンフィギュレーションがすべて削除されたことを意味します。

Audio Sound Play
 Audio Sound Stop
 Audio VuMeter *
 Camera PanTiltReset
 Camera PositionActivateFromPreset
 Camera PositionSet
 Camera Preset Snapshot *
 CamCtrlPip
 Experimental *
 FacilityService Dial
 FarEndControl Preset Store
 Key *
 Logging ExtendedLogging *
 Message Echo
 Message FarendMessage

Presentation Byod *
 Provisioning CUCM CAPF OperationStart
 Provisioning CUCM ExtensionMobility *
 Provisioning CUCM ITL Show
 Security FIPSMODE Activate
 SystemUnit AdminPassword Set
 SystemUnit ConfigurationProfile *
 UserInterface OSD Close
 UserInterface ScreenShot *
 Video AutoPresentationStart *
 Video Layout SetPresentationView
 Video OSD Close

変更されたコマンド

Call Accept
 削除: CallType
 Call Disconnect
 旧: CallId (r): <0 - 65534>
 新: CallId: <0 - 65534>
 Call Hold
 旧: CallId (r): <0 - 65534>
 新: CallId: <0 - 65534>
 Camera PositionReset
 新: Axis: <All/Focus/PanTilt/Zoom>
 Camera Preset Edit
 新: DefaultPosition: <False/True>
 Camera Preset List
 新: CameralId: <1 - 7>
 新: DefaultPosition: <False/True>
 削除: PresetId

Camera Preset Store

新: DefaultPosition: <False/True>

HttpFeedback Deregister

旧: 必要なユーザ ロール: ADMIN

新: 必要なユーザ ロール: USER

HttpFeedback Register

旧: 必要なユーザ ロール: ADMIN

新: 必要なユーザ ロール: USER

Peripherals List

旧: Type: <All/BluetoothHeadset/ControlSystem/ISDNLink/Other/TouchPanel>

新: Type: <All/ControlSystem/ISDNLink/Other/TouchPanel>

Presentation Stop

新: PresentationSource: <1 - 4>

UserInterface Message Alert Clear

旧: 必要なユーザ ロール: ADMIN

新: 必要なユーザ ロール: USER

UserInterface Message Prompt Clear

旧: 必要なユーザ ロール: ADMIN

新: 必要なユーザ ロール: USER

UserInterface Message TextLine Clear

旧: 必要なユーザ ロール: ADMIN

新: 必要なユーザ ロール: USER

UserManagement User Passphrase Set

新: YourPassphrase: <S: 0, 255>

名前変更されたコマンド、または置き換えられたコマンド

Boot

新しい名前: SystemUnit Boot

Call DisconnectAll

統合先: Call Disconnect

Call HoldAll

統合先: Call Hold

Conference ActiveSpeaker Reset

新しい名前: Conference SpeakerLock Release

Conference ActiveSpeaker Set

新しい名前: Conference SpeakerLock Set

DTMF Send

新しい名前: Call DTMFSend

FarEndControl Camera Move

新しい名前: Call FarEndControl Camera Move

FarEndControl Camera Stop

新しい名前: Call FarEndControl Camera Stop

FarEndControl Preset Activate

新しい名前: Call FarEndControl RoomPreset Activate

FarEndControl Source Select

新しい名前: Call FarEndControl Source Select

Message *

新しい名前: UserInterface Message *

Preset *

新しい名前: RoomPreset *

SystemUnit DateTime Get

新しい名前: Time DateTime Get

SystemUnit DateTime Set

新しい名前: Time DateTime Set

旧: Year: <2008..2037>

新: Year: <2015..2037>

xCommand SystemUnit Diagnostics Run

新しい名前: xCommand Diagnostics Run

xCommand Video Presentation Set

新しい名前: xCommand Video PresentationPIP Set

xCommand Video PictureLayoutSet

新しい名前: xCommand Video Layout LayoutFamily Set

xCommand Video PIP ActiveSpeaker Set

新しい名前: xCommand Video ActiveSpeakerPIP Set



xCommand Video PIP Presentation Set

新しい名前: xCommand Video Presentation PIP Set

CE8.0 における xStatus の変更

新しいステータス

Call [n] HoldReason
 Conference Call [n] Capabilities FarendMessage Mode
 Conference Call [n] Capabilities IxChannel Status
 H323 Mode Reason
 Proximity Services Availability
 Standby State
 SIP Mailbox URI
 SystemUnit Software OptionKeys RemoteMonitoring
 UserInterface ContactInfo ContactMethod [n] Number
 UserInterface ContactInfo Name

削除されたステータス

*xStatus <path> ** は、*xStatus <path>* の後ろに続くコンフィギュレーションがすべて削除されたことを意味します。

Call [n] CallPriority
 Call [n] ModifyState
 Call [n] SecurityStatus
 CallDiagnostics [n] * (旧: Diagnostics Call [n] *)
 Cameras Camera [n] DownloadProgress (旧: Camera [n] DownloadProgress)
 Cameras Camera [n] HardwareID (旧: Camera [n] HardwareID)
 Cameras Camera [n] Position * (旧: Camera [n] Position *)
 Cameras Camera [n] UpgradeStatus (旧: Camera [n] UpgradeStatus)
 Conference Call [n] Appearance (旧: Conference Site [n] Appearance)
 Conference Call [n] AttendedTransfer (旧: Conference Site [n] AttendedTransfer)
 Conference Call [n] CalText (旧: Conference Site [n] CalText)
 Conference Call [n] Preserved (旧: Conference Site [n] Preserved)
 Conference Call [n] SecurityStatus (旧: Conference Site [n] SecurityStatus)

Conference Call [n] UnattendedTransfer (旧: Conference Site [n] UnattendedTransfer)
 Conference Line [n] Appearance [n] *
 Conference LoudestSite
 Conference Presentation LastLocalSource
 Conference Presentation LocalSendingMode
 Conference Presentation LocalSource
 Conference Presentation Protocol
 Conference Presentation Resolution *
 Conference SelectedCallProtocol
 Conference Site [n] ConferenceExtended
 Diagnostics LastRun (旧: SystemUnit Diagnostics LastRun)
 Experimental *
 H320 *
 ICE *
 Logging *
 MediaChannels Call [n] *
 Network [n] IPv4 DHCP *
 Network [n] IPv4 DNS *
 Network [n] MTU
 Peripherals ConnectProgress [n] *
 Peripherals ControllableDevice [n] *
 Provisioning CUCM *
 Provisioning NextRetry
 Provisioning Reason
 Provisioning Server
 Provisioning Software PreviousUpgrade *
 Provisioning Software UpgradeStatus SecondsUntilUpgrade
 RoomPreset [n] * (旧: Preset [n] *)

Security Audit Server Port

SystemUnit Hardware BootSoftware

SystemUnit Hardware MainBoard *

SystemUnit Hardware Module CompatibilityLevel

SystemUnit Hardware Module Identifier

SystemUnit Hardware MonitoringSoftware

SystemUnit Hardware TemperatureThreshold

SystemUnit Hardware UDI

SystemUnit MenuLogo

SystemUnit Software Application

SystemUnit State Subsystem Application

SystemUnit State System

Time ZoneOlson

UserInterface OSD Mode

UserInterface OSD Output

Video Layout *

変更されたステータス

Call [n] Protocol

旧: 文字列

新: <H320/H323/SIP>

Conference Multipoint Mode

旧: <Auto/CUCMMediaResourceGroupList/MultiSite/MultiWay/Off>

新: <Auto/CUCMMediaResourceGroupList/MultiSite/Off>

Diagnostics Message [n] Type

新: TemperatureCheck、AudioInternalSpeakerDisabled、ContactInfoMismatch を値スペースに追加

H323 Mode Status

旧: 文字列

新: <Enabled/Disabled>

Peripherals ConnectedDevice [n] Status

旧: <Connected/ResponseTimedOut>

新: <Connected/ResponseTimedOut/Unpairing/LostConnection>

Peripherals ConnectedDevice [n] Type

旧: <BluetoothHeadset/Byod/Camera/ControlSystem/ISDNLink/Other/SpeakerTrack Byod/TouchPanel>

新: <Byod/Camera/ControlSystem/ISDNLink/Other/SpeakerTrack Byod/TouchPanel>

Peripherals ConnectedDevice [n] UpgradeStatus

旧: <Downloading/Failed/Installing/None/Succeeded>

新: <Downloading/Failed/Installing/InstallationReady/None/Succeeded/Rebooting/Retrying/Aborted/Paused>

Provisioning Status

旧: <AuthenticationFailed/ConfigError/Failed/Idle/NeedConfig/Provisioned>

新: <AuthenticationFailed/ConfigError/Failed/Idle/NeedConfig/Provisioning/Provisioned>

SystemUnit Software OptionKeys Encryption

旧: 文字列

新: <False/True>

SystemUnit Software OptionKeys MultiSite

旧: 文字列

新: <False/True>

SystemUnit Software OptionKeys PremiumResolution

旧: 文字列

新: <False/True>

名前が変更されたステータス

xStatus <path> * は、*xStatus <path>* の後ろに続くコンフィギュレーションがすべて削除されたことを意味します。

Camera [n] *

新しい名前: Cameras Camera [n] *

Conference ActiveSpeaker Manual SiteId

新しい名前: Conference SpeakerLock CallId

Conference ActiveSpeaker Mode

新しい名前: Conference SpeakerLock Mode

Conference ActiveSpeaker Siteld

新しい名前:Conference ActiveSpeaker Callld

Conference Presentation Instance[n] LocalSendingMode

新しい名前:Conference Presentation LocalInstance[n] SendingMode

Conference Presentation Instance[n] LocalSource

新しい名前:Conference Presentation LocalInstance[n] Source

Conference Presentation Siteld

新しい名前:Conference Presentation Callld

Conference Site [n] *

新しい名前:Conference Call [n] *

Conference Site [n] Hold

新しい名前:Conference Call [n] Capabilities Hold

NetworkServices NTP Address

新しい名前:NetworkServices NTP Server [n] Address

SIP Profile [n] *

新しい名前:SIP *

SIP Profile [n] DirectoryURI Alias [n] URI

新しい名前:SIP AlternateURI Alias [n] URI

SIP Profile [n] DirectoryURI Primary URI

新しい名前:SIP AlternateURI Primary URI

SystemUnit ContactInfo

新しい名前:UserInterface ContactInfo ContactMethod [n] Number

SystemUnit ContactName

新しい名前:UserInterface ContactInfo Name

SystemUnit Diagnostics Message [n] *

新しい名前:Diagnostics Message [n] *

SystemUnit Software MaxAudioCalls

新しい名前:Capabilities Conference MaxAudioCalls

SystemUnit Software MaxVideoCalls

新しい名前:Capabilities Conference MaxVideoCalls

SystemUnit State MaxNumberOfActiveCalls

新しい名前:Capabilities Conference MaxActiveCalls

SystemUnit State MaxNumberOfCalls

新しい名前:Capabilities Conference MaxCalls

Video Input Source [n] Resolution FormatStatus

新しい名前:Video Input Source [n] FormatStatus

Video Input Source [n] Resolution FormatType

新しい名前:Video Input Source [n] FormatType

Video PIP ActiveSpeaker Position

新しい名前:Video ActiveSpeaker PIPPosition

Video PIP Presentation Position

新しい名前:Video Presentation PIPPosition

第 2 章

API について

API の基礎

この章では、コーデック API でサポートされるメカニズムが概説されます。

API へのアクセス方法、コマンド ラインの使用方法、および API 各部の用途を知ることができます。また、コーデックで利用可能なフィードバック機能の使用方法も記載されています。

API は主に次の 4 つのグループから構成されています。

- ・ コマンド
- ・ コンフィギュレーション
- ・ ステータス
- ・ イベント

これら 4 つのグループは階層化されているため、関連する機能を簡単に見つけることができます。すべてのコマンド、コンフィギュレーション、ステータスの全リストについては、以降の章を参照してください。

API への接続

コーデック API には複数の方法でアクセスできます。どの方法を選択した場合でも、API の構造は同じです。ご使用のアプリケーションに最も適した接続方法を選択してください。接続方法によっては、有効化するためにさらに設定変更が必要なことがあるので、開始する前に、この項に記載されている各種の方法を理解しておいてください。

パスワードを除き、以下の設定は Web インターフェイスの **System Configuration** メニューまたはコマンドライン インターフェイスから設定できます。例はすべてコマンドライン インターフェイス用です。

パスワード

ビデオ システムは完全な資格情報を持つデフォルトのユーザ アカウントに提供されます。ユーザ名は **admin** です。当初、デフォルトユーザのパスワードは設定されていません。

システム設定へのアクセスを制限するために、**admin** ユーザのパスワードの設定は必須です。さらに、同様のクレデンシャルを持つ他のユーザのパスワードも設定する必要があります。

コーデックの Web インターフェイスでパスワードを設定できます。Web ブラウザを開き、アドレス バーにビデオ システムの IP アドレスを入力してログインします。右上隅のユーザ名をクリックし、ドロップダウン メニューから **Change password** を選択します。

RS-232 シリアル接続

この接続は IP アドレス、DNS、ネットワークがなくても使用できるため、インテグレータ向けシスコ製品で最も使用される接続の 1 つです。

コーデックの設定

シリアル接続に対しては、ボー レート、およびログインの必要性の 2 つの項目を変更できます。

```
xConfiguration SerialPort BaudRate:
<9600/19200/38400/57600/115200>
xConfiguration SerialPort LoginRequired: <Off/On>
```

接続中

注:

- ・ セキュリティ上の理由から、デフォルトではパスワードの入力要求がオンになっていますが、必要に応じてオフにできます。
- ・ デフォルトのボーレートは に設定されます。コーデックから非常に大量のフィードバックが返される場合があります。そのため、接続はこの速度に保つことを推奨します。

Telnet

Telnet は、TCP/IP におけるシリアル プロトコルと同等のプロトコルと見なすことができます。デフォルトでは、Telnet は無効になっています。コーデックに接続する前に、Telnet を有効にする必要があります。

コーデックの設定

Telnet サービスを有効にするには、コーデックで次の設定を行います。この設定を変更する際にはデバイスの再起動は必要ありませんが、変更が有効になるまでに少し時間がかかる場合があります。

```
xConfiguration NetworkServices Telnet Mode: On
```

SSH

SSH は安全な TCP/IP 接続であり、コーデックのデフォルトでは有効になっています。これは無効にすることもできます。SSH を介して API にアクセスするには、PuTTY などの SSH クライアントが必要です。

HTTP/HTTPS

HTTP/HTTPS はコネクションレス型プロトコルなので、永続的接続はありません。HTTP を介して API と通信するには、複数の方法があります。

コーデックの設定

HTTP および HTTPS サービスを有効または無効にするには、コーデックで次の設定を行います。

```
xConfiguration NetworkServices HTTP Mode:
<Off/On>

xConfiguration NetworkServices HTTPS Mode:
<Off/On>
```

接続中

好みの Web ブラウザでコーデックの IP アドレスまたはホスト名を入力することによって、API を確認できます。Web インターフェイスでは、[System Configuration > API > XML API](#) メニュー セクションで API のマニュアルを参照できます。HTTP POST および GET メソッドを使用し、コマンドを実行してコーデックからフィードバックを取得します。これについては、本書の ▶ [「HTTP の使用」、27 ページ](#) に記載されています。

API の出力

xPreferences は、RS 232、Telnet、SSH のセッションのプリファレンスを設定するために使用されます。

出力モード

- **terminal**: 回線ベースの制御システム用の回線ベース出力。
- **XML**: XML 対応の制御システム用の XML 出力。
- **JSON**: JSON 形式は Web ベースのシステムと統合する場合に役立ちます。

デフォルトの出力モードは **terminal** です。これを変更するには、各セッションの設定を個別に定義する必要があります。このマニュアルに記載されている例は **terminal** モードです。

出力モードを XML に設定するには、次のコマンドを発行します。

```
xPreferences outputmode xml
```

terminal モードに戻すには、次のコマンドを発行します。

```
xPreferences outputmode terminal
```

例: terminal モードでのレイアウト コマンド

```
xCommand Video Layout AssignCall CallId: 2 LayoutId: 1
```

例: XML モードでのレイアウト コマンド

```
<Command>
<Video>
<Layout>
<AssignCall command="True">
<CallId>2</CallId>
<LayoutId>1</LayoutId>
</AssignCall>
</Layout>
</Video>
</Command>
```

コマンド ラインの使用

ヘルプ

サポートされているすべての最上位コマンドを一覧表示するには、RS-232、Telnet、または SSH を使用して TelePresence System システムに接続した後、[?](#) または [help](#) を入力します (例 1)。

Bye

`bye` コマンドを入力すると、コマンドライン インターフェイスが終了します。

API コマンド

xConfiguration

Configuration を使ってシステムの設定 (システム名やネットワーク設定など) を行います。これらはブートしても維持されます。▶ [「コンフィギュレーション」、23 ページ](#) を参照してください。

xCommand

Command によって、アクション (番号へのダイヤルや電話帳の検索など) を実行するようにコーデックに指示します。▶ [「コマンド」、23 ページ](#) を参照してください。

xStatus

ステータスには、接続しているコール、ゲートキーパー登録のステータス、接続している入出力ソースなど、コーデックの現在の状態が含まれています。▶ [「ステータス」、23 ページ](#) を参照してください。

xFeedback

Feedback コマンドは、コンフィギュレーション階層やステータス階層におけるモニタ対象部分を指定するために使用されます。Feedback は、指定された RS 232/Telnet/SSH セッションに対してのみ発行されます。複数のセッションがあるコーデックに接続している場合は、セッションごとに個別にフィードバックを定義する必要があります。▶ [「フィードバックのメカニズム」、25 ページ](#) を参照してください。

例 1:

?

- User Commands -

help	xcommand	xconfiguration	xevent	xfeedback
xgetxml	xdocument	xpreferences	xtransaction	xstatus
bye	echo	log	systemtools	
OK				

xPreferences

xPreferences コマンドは、RS 232、Telnet、SSH のセッションのプリファレンスを設定するために使用されます。▶ [「API の出力」、20 ページ](#) を参照してください。

Echo <on/off>

エコーが [On](#) に設定されている場合は、コマンドライン インターフェイスにテキストを入力すると、キー入力の内容が表示されます。

エコーが [Off](#) に設定されている場合は、コマンドライン インターフェイスにテキストを入力しても、ユーザ入力は表示されません。

xEvent

xEvent コマンドは、フィードバックで使用可能なイベントに関する情報を返します。▶ [「イベント」、24 ページ](#) を参照してください。

xGetxml

xGetxml 要求は、要求に添付されているロケーション パラメータに基づいて XML ドキュメントを返します。表現式と一致する要素 (またはドキュメント全体) が返されます。▶ [「フィードバックのメカニズム」、25 ページ](#) を参照してください。

その他のコマンド

Systemtools

Systemtools コマンドは、管理制御と診断のためのコマンドライン ツールのセットです。このコマンドをシステム テクニカル サポートと併用することで、高度なトラブルシューティングを行うことができます。Systemtools はプログラミング API の一部ではありません。▶ [「SystemTools コマンド」、159 ページ](#) を参照してください。

Log

ログ コマンドは、詳細ログを有効にするために使用されます。システムのデバッグ専用です。

コマンド ラインのショートカット

クライアントでサポートされている場合は、時間を短縮するために次のショートカットを使用できます。

- ・ コマンドや引数を補完するためのタブ補完機能。
- ・ コマンド履歴内を移動するための↑↓。
- ・ **<CTRL-a>**: 行の先頭にジャンプします。
- ・ **<CTRL-e>**: 行の最後にジャンプします。
- ・ **<CTRL-r>**: コマンド履歴をインクリメンタル検索します。
- ・ **<CTRL-w>**: 現在の行を消去します。

検索

// を使用すると、ステータスやコンフィギュレーション階層のあらゆる場所で要素を検索できます (例 1)。

また、複数の // を組み合わせることもできます (例 2)。

注: 検索ショートカットは API のチェックに適していますが、アプリケーションで使用すべきではありません。新しいファームウェア リリースにアップグレードする際は、コマンドが不明確になるのを避けるために、完全なパスを使用することを推奨します。

例 1:

OUT と HDMI から始まる単語を含むすべてのコンフィギュレーションを一覧表示します。

```
xconfiguration //out//hdmi
*c xConfiguration Audio Output HDMI 1 Level: 0
*c xConfiguration Audio Output HDMI 1 Mode: On
*c xConfiguration Audio Output HDMI 2 Level: 0
*c xConfiguration Audio Output HDMI 2 Mode: Off
** end
```

例 2:

入力と出力の両方について、すべての接続しているソースの解像度の幅を取得します。

```
xStatus //vid//res//wid
*s Video Input Source 1 Resolution Width: 1920
*s Video Input Source 2 Resolution Width: 0
*s Video Input Source 3 Resolution Width: 0
*s Video Input Source 4 Resolution Width: 0
*s Video Output Connector 1 Resolution Width: 1920
*s Video Output Connector 2 Resolution Width: 1280
*s Video Output Connector 3 Resolution Width: 1280
** end
```

値のタイプと形式

システムは次の値タイプをサポートしています。

- ・ **整数値:** `<x..y>`
整数入力の有効範囲を定義します。x = 最小値、y = 最大値。
- ・ **リテラル値:** `<X/Y/./Z>`
特定のコンフィギュレーションに対して使用可能な値を定義します。
- ・ **文字列値:** `<S: x, y>`
このコンフィギュレーションに対して有効な入力が、最短 x 文字、最長 y 文字の文字列であることを定義します。文字列には、さらに形式と長さを指定するルールも定義できます。

スペースを含む入力値は、引用符で囲む必要があります。

コンフィギュレーションやコマンドの値にスペースが含まれている場合は、それらの値を引用符で囲む必要があります。スペースを含まない値には引用符は不要です。

例:

```
正:xCommand dial number: "my number contains spaces"
正:xCommand dial number: 12345
誤:xCommand dial number: my number contains spaces
```

大文字と小文字の区別

どのコマンドでも大文字と小文字は区別されません。以下のコマンドはすべて機能します。

```
XCOMMAND DIAL NUMBER: foo@bar.org
xcommand dial number: foo@bar.org
xCommand Dial Number: foo@bar.org
```

コマンド

Command によって、アクション（番号へのダイヤルや電話帳の検索など）を実行するようにコーデックに指示します。すべてのコマンドは、プレフィックス `xCommand` から始まり、その後ろにコマンドパスが続きます。

コマンドラインで `xCommand ?` と入力すると、最上位コマンドがすべて一覧表示されます。

コマンドとそのパラメータの全リストを表示するには、コマンドラインで `xCommand ??` と入力します。

コマンドの引数はキーと値のペアです。

`xCommand` を発行する場合、コマンドは 1 つの引数と 1 つの必須パラメータという構成になります。このマニュアルには、必須とオプションの両方のパラメータとともに、すべての `xCommand` コマンドの使用法が記載されています。オプション パラメータは角カッコで囲まれています。

例: `xCommand Dial Number: 123`

- `xCommand` はコマンド プレフィックスです。実行されるコマンドは `Dial` です。
- この例には、1 つの引数 (Number: 123) が含まれています。Number はキー、123 はその値です。キーと値のペアは「:」で区切ります。

コンフィギュレーション

コンフィギュレーションは、ブートしても維持されるシステム設定です。コマンドと同様に、コンフィギュレーションは階層として構成されます。

コマンドラインで `xConfiguration ?` と入力すると、最上位のコンフィギュレーションがすべて一覧表示されます。

`xConfiguration ??` と入力すると、コンフィギュレーションとその値スペースが一覧表示されます。

`xConfiguration` と入力すると、すべてのコンフィギュレーションとその現在の値がすべて一覧表示されます。一部のコンフィギュレーションだけを表示するには、`xConfiguration` の後ろにコンフィギュレーションパスの一部を 1 つ以上入力します。

例: H323 エイリアス ID の設定

入力:

```
xConfiguration H323 Profile 1 H323Alias ID:
"changed@company.com"
```

例: H323 エイリアス ID の取得

入力:

```
xConfiguration H323 Profile 1 H323Alias ID
```

結果:

```
*c xConfiguration H323 Profile 1 H323Alias ID:
"changed@company.com"
**end
```

ステータス

ステータスには、接続しているコール、ゲートキーパー登録のステータス、接続している入出力ソースなど、コーデックの現在の状態が含まれています。

コマンドラインで `xStatus ?` と入力すると、すべての最上位のステータスが一覧表示されます。

`xStatus` と入力すると、すべてのステータスとその現在の値が一覧表示されます。

ステータスの一部だけを表示するには、次のように、`xStatus` の後ろにステータスパスの関連部分（アドレス表現）を入力します。

```
xStatus <address expression>
```

イベント

Event は、フィードバックに使用できるイベントに関する情報を返します。この概要では、API で使用可能なイベントについていくつかの例を示します。

サポートされるイベントの概要を表示するには、xEvent の後ろに `??` または `help` を入力します。

- `xEvent ?`: 最上位のイベントを一覧表示
- `xEvent ??`: 使用可能なすべてのイベントを一覧表示
- `xEvent help`: 最上位のイベントを一覧表示

イベントの結果はコーデックの状態に応じて異なります。

例 1: 発信コールの通知

発信コールの通知は、発信コールがダイヤルされるときに報告されるイベントです。コールが割り当てられている CallId を返します。

```
*e OutgoingCallIndication CallId: x
** end
```

例 2: コールの切断

コールの切断は、コールが切断されたときに報告されるイベントです。切断されたコールの CallId と切断の理由を返します。

```
*e CallDisconnect CallId: x CauseValue: 0
CauseString: "" CauseType: LocalDisconnect
OrigCallDirection: "outgoing"
** end
```

例 3: コールの成功

コールの成功は、コールが正常に接続されたとき（つまり、すべてのチャンネルが起動し、確立されたとき）に報告されるイベントです。

```
*e CallSuccessful CallId: 132 Protocol: "h223"
Direction: "outgoing" CallRate: 768 RemoteURI:
"h223:integratorHQ@company.com" EncryptionIn:
"Off" EncryptionOut: "Off"
** end
```

例 4: FECC アクション要求

FECC アクション要求は、遠端から FECC コマンドが送信されるときに報告されるイベントです。

```
*e FeccActionInd Id: 132 Req: 1 Pan: 1 PanRight:
1 Tilt: 0 TiltUp: 0 Zoom: 0 ZoomIn: 0 Focus: 0
FocusIn: 0 Timeout: 300 VideoSrc: 0 m: 0
** end
```

例 5: TString メッセージの受信

TString メッセージの受信は、遠端から TString メッセージが送信されたときに報告されるイベントです。

```
*e TString CallId: 132 Message: "ee"
** end
```

例 6: SString メッセージの受信

SString メッセージの受信は、遠端から SString メッセージが送信されたときに報告されるイベントです。

```
*e SString String: "ee" Id: 132
** end
```


フィードバックのメカニズム

アプリケーションとコーデックの同期状態を確実に維持できるソリューションを構築するには、コーデックの状態の変化を報告する通知システムを設定する必要があります。

API は以下に関する通知をサポートしています。

- ・ コンフィギュレーションの変更
- ・ ステータスの変更
- ・ イベント通知

ユーザが明示的にコーデックに指示しない限り、これらの通知は送信されません。ユーザはアプリケーションに必要なすべてのフィードバックをサブスクライブする必要があります。これはフィードバック表現式を登録することによって行われます。フィードバック表現式の登録方法は、使用する接続方式に応じて異なります。

HTTP を使用する場合は、フィードバックの処理方法がこの項の説明と若干異なります。詳細については、[▶「HTTP を介したコーデックからのフィードバック」、28 ページ](#)を参照してください。

警告: コーデックから非常に大量のフィードバックが返されることがあります (特に、コールが接続後に切断された場合)。したがって、必要なフィードバックのみをサブスクライブするようにしてください。

`xFeedback register /Status` を発行して、すべてのステータスのフィードバックを取得するように登録しないでください。そのように登録すると、大量のデータが発生して制御アプリケーションで処理できなくなり、動作の低下や予期しない動作が引き起こされる可能性があります。

フィードバック表現式

フィードバックの登録に使用される表現は、XPath 言語の派生言語です。XML ドキュメントからノードを選択する方法をこの言語で記述します。CE ソフトウェアには、3 つの主要なフィードバック ドキュメントが含まれています。

マニュアル	API コマンド	パス
ステータス	<code>xStatus</code>	<code>/Status</code>
設定	<code>xConfiguration</code>	<code>/Configuration</code>
イベント	<code>xEvent</code>	<code>/Event</code>

フィードバックの登録に使用する構文は次のとおりです。

`xFeedback register <path>`

`xFeedback register /Status` を発行して、すべてのステータスのフィードバックを取得するように登録しないでください。

コンフィギュレーションの変更は頻繁には生じない可能性が高いので、`xFeedback register /Configuration` を使用して、すべてのコンフィギュレーションの変更を取得するように登録するほうが安全です。

いくつかの例を検討することにより、フィードバック表現式の作成でこの情報がどのように使用されるかを理解できます。表現式を検証する簡単な方法は、ブラウザで <http://<ip-address>/getxml?location=path> を指定するか、端末から `xgetxml <path>` を実行して、その出力がフィードバックを必要とするノードと一致するかどうかを確認することです。

例 1:マイクのミュート状態

端末での照会

```
xStatus Audio Microphones Mute
*s Audio Microphones Mute: Off
** end
```

同等のフィードバック表現式

```
xFeedback register /Status/Audio/Microphones/Mute
```

例 2:すべてのビデオ入力コネクタの名前

端末での照会

```
xConfiguration Video Input Connector Name
*c xConfiguration Video Input Connector 1 Name:
  "NameA"
*c xConfiguration Video Input Connector 2 Name:
  "NameB"
*c xConfiguration Video Input Connector 3 Name:
  "NameC"
*c xConfiguration Video Input Connector 4 Name:
  "NameD"
*c xConfiguration Video Input Connector 5 Name:
  "NameE"
** end
```

同等のフィードバック表現式

```
xFeedback register /Configuration/Video/Input/
Connector/Name
```

例 3:ビデオ入力コネクタ 3 の名前

端末での照会

```
xConfiguration Video Input Connector 3 Name
*c xConfiguration Video Input Connector 3 Name:
  "NameC"
** end
```

同等のフィードバック表現式

```
xFeedback register /Configuration/Video/Input/
Connector[@item='3']/Name
```

端末接続

フィードバックのサブスクリプションの管理

フィードバック表現式の登録、リスト化、登録解除を行うには、`xFeedback` コマンドとそれに対応するサブ コマンドを使用します。

登録した表現式は、現在アクティブな接続に対してのみ有効です。2 つの Telnet セッションを開き、一方のセッションでフィードバックの取得を登録すると、もう一方のセッションでフィードバックを受信できなくなります。つまり、セッションとの接続を切断した場合は、再接続した後にすべての表現式を再登録する必要があります。

最大 38 個の表現式を登録できます。

フィードバックの出力

フィードバックの出力は、`xConfiguration` や `xStatus` コマンドを使用してシステムに照会したときの出力とまったく同じです。たとえば、コマンド ラインで `xStatus Standby Active` コマンドを発行した場合、結果は次のようになります。

```
*s Standby Active: On
** end
```

ステータスの変更に関するフィードバックの取得を登録済みの場合は、システムがスタンバイ モードに移行すると、次のようにまったく同じフィードバックが返されます。

```
*s Standby Active: On
** end
```

つまり、デバイスに対してプログラミングする際は、1 つのフォーマットだけで対処できます。

例:フィードバックのサブスクリプションの管理

A:フィードバック表現式の登録

入力: `xFeedback register /Status/Audio`

結果: `** end`

OK

入力: `xFeedback register /Event/CallDisconnect`

結果: `** end`

OK

入力: `xFeedback register /Configuration/Video/MainVideoSource`

結果: `** end`

OK

B:現在登録されている表現式の一覧表示

入力: `xFeedback list`

結果: `/Configuration/Video/MainVideoSource`

`/Event/CallDisconnect`

`/Status/Audio`

`** end`

OK

C:フィードバック表現式の登録解除

入力: `xFeedback deregister /Event/CallDisconnect`

結果: `** end`

OK

入力: `xFeedback deregister /Status/Audio`

結果: `** end`

OK

D:新しいフィードバック表現式の一覧表示

入力: `xFeedback list`

結果: `/Configuration/Video/MainVideoSource`

`** end`

OK



HTTP の使用

コーデックは、HTTP および HTTPS を介したコマンドやコンフィギュレーションの送信をサポートしています。また、この方法でコンフィギュレーションやステータスを取得することもできます。このインターフェイスは、コマンドラインと同じ API を XML 形式で提供します。

URL チートシート

次の表は、HTTP を介して API にアクセスする際に使用される主な URL を示しています。

方法	URL	説明
GET	http://<ip-address>/status.xml	完全なステータス ドキュメント
GET	http://<ip-address>/configuration.xml	完全なコンフィギュレーション ドキュメント
GET	http://<ip-address>/command.xml	完全なコマンド ドキュメント
GET	http://<ip-address>/valuespace.xml	完全な値スペース ドキュメント
GET	http://<ip-address>/getxml?location=<path>	パスに基づいてドキュメントを取得
POST	http://<ip-address>/putxml	HTTP 本文のコンフィギュレーションとコマンド
GET、POST	http://<ip-address>/formputxml?xmldoc=<xml>	コンフィギュレーションとコマンド (www-urlencoded 形式)

ステータスとコンフィギュレーションの取得

例 1: コーデックのすべてのステータス エントリを取得

```
http://<ip-address>/getxml?location=/Status
```

例 2: コーデックのオーディオ ステータスのみを取得

```
http://<ip-address>/getxml?location=/Status/Audio
```

例 3: コーデックのすべてのコンフィギュレーションを取得

```
http://<ip-address>/getxml?location=/
Configuration
```

例 4: コーデックのすべてのビデオ コンフィギュレーションを取得

```
http://<ip-address>/getxml?location=/
Configuration/Video
```

コマンドとコンフィギュレーションの送信

HTTP GET の使用

コマンドやコンフィギュレーションをコーデックに送信するときに、HTTP GET を使用できます。これにより、ブラウザを使用して簡単にコマンドをテストできます。

例 1: カメラ位置の設定

```
http://<ip-address>/formputxml?xmldoc=
<Command><Camera><PositionSet command="True">
<CameraId>1</CameraId><Pan>200</Pan>
<Tilt>200</Tilt></PositionSet></Camera></Command>
```

例 2: システム名の変更

```
http://<ip-address>/formputxml?xmldoc=
<Configuration><SystemUnit>
<Name>newName</Name></SystemUnit></Configuration>
```

例 3: 一度に複数のコンフィギュレーションを変更

```
http://<ip-address>/formputxml?xmldoc=
<Configuration><Audio><DefaultVolume>80</
DefaultVolume></Audio><UserInterface><Wallpaper>C
ustom</Wallpaper></UserInterface></Configuration>
```

HTTP POST の使用

コンフィギュレーションやコマンドをコーデックに送信する場合は、HTTP ヘッダーの Content-Type が text/xml ([Content-Type: text/xml](#)) に設定されていることが重要です。POST の本文には XML コンテンツを含める必要があります。

例 1: システム名の変更

要求

```
POST /putxml HTTP/1.1
Content-Type: text/xml
Connection: close
<Configuration>
  <SystemUnit>
    <Name>newName</Name>
  </SystemUnit>
</Configuration>
```

例 2: カメラ位置の設定

要求

```
POST /putxml HTTP/1.1
Content-Type: text/xml
Connection: close
<Command>
  <Camera>
    <PositionSet command="True">
      <CameraId>1</CameraId>
      <Pan>200</Pan>
      <Tilt>200</Tilt>
    </PositionSet>
  </Camera>
</Command>
```

応答

```
HTTP/1.1 200 OK
Date: <date>
Server: WSGIServer/0.1 Python/2.5.4
Cache-Control: no-cache
Content-Type: text/xml
Content-Length: 91
Connection: close
<?xml version="1.0"?>
<Command>
<CameraPositionSetResult item="1" status="OK"/>
</Command>
```

HTTP を介したコーデックからのフィードバック

コーデックから通知を受信するには、HTTP フィードバック表現式を登録する必要があります。登録すると、コーデックは HTTP POST を使用して、指定された IP アドレスにフィードバック メッセージを送信します。つまり、コーデックからアップデートを受信するには、アプリケーション用の HTTP サーバが実行している必要があります。

フィードバックの登録

登録用のコマンドは `xCommand HttpFeedback Register` です。このコマンドの構文と引数はこの項に記載されています。

HttpFeedback Register の構文:

```
xCommand HttpFeedback Register
FeedbackSlot: <1..4>
ServerUrl(r): <S: 1, 2048>
Expression: <S: 1, 255>
Expression: <S: 1, 255>
Expression: <S: 1, 255>
Expression: <S: 1, 255>
Expression: <S: 1, 255>
Expression: <S: 1, 255>
Expression: <S: 1, 255>
Expression: <S: 1, 255>
Expression: <S: 1, 255>
Expression: <S: 1, 255>
Expression: <S: 1, 255>
Expression: <S: 1, 255>
Expression: <S: 1, 255>
Expression: <S: 1, 255>
```

HttpFeedback Register の引数:

FeedbackSlot: コーデックでは、HTTP フィードバックを要求する最大 4 スロットのサーバを登録できます。それらの 1 つに登録を設定します。

注: Cisco TelePresence Management Suite (TMS) は表現式の登録に FeedbackSlot 3 を使用するので、TMS を使用している環境では FeedbackSlot 3 の使用を避けてください。

ServerUrl: コーデックによって送信する HTTP フィードバック メッセージの宛先 URL。

Expression 1 ~ 15: フィードバックを受信するための表現式を登録します。表現式の形式の詳細については、[「フィードバックのメカニズム」](#)、[25 ページ](#) の項を参照してください。

例: コンフィギュレーションの変更、イベントの切断、コール ステータスの変更に関するフィードバックを登録します。

```
<Command>
<HttpFeedback>
  <Register command="True">
    <FeedbackSlot>1</FeedbackSlot>
    <ServerUrl>http://127.0.0.1/
      myhttppostscripurl</ServerUrl>
    <Expression item="1">/Configuration</
      Expression>
    <Expression item="2">/Event/
      CallDisconnect</Expression>
    <Expression item="3">/Status/Call</
      Expression>
  </Register>
</HttpFeedback>
</Command>
```

フィードバックの出力

コーデックから登録済み HTTP サーバに変更通知が送信される際には、ポーリングの場合と同じ XML が本文に含まれます。ただし、小さな相違点が 1 つあります。ルートノードには、通知の発信元コーデックを示す子ノード付きの [Identification](#) ノードが含まれています。つまり、1 つの HTTP サーバ URI で複数のコーデックを処理できます。

例: 音量の変更

```
<Configuration xmlns="http://www.company.com/XML/
  CUIL/2.0">
  <Identification>
    <SystemName>integrator</SystemName>
    <MACAddress>00:00:de:ad:be:ef</MACAddress>
    <IPAddress>192.168.1.100</IPAddress>
    <ProductType>Cisco Codec</ProductType>
    <ProductID>Cisco Codec C90</ProductID>
    <SWVersion>TC6.0.0.199465</SWVersion>
    <HWBoard>101401-5 [08]</HWBoard>
    <SerialNumber>PH0000000</SerialNumber>
  </Identification>
  <Audio item="1">
    <Volume item="1">60</Volume>
  </Audio>
</Configuration>
```

terminal モードから XML への変換

コマンドの変換

XML コマンドでは terminal コマンドと同じ構造が維持されますが、親子関係を使用して階層が示されます。この構造は以下の例で確認できます。

例 1: コールの設定

Terminal

```
xCommand Dial Number: "12345" Protocol: H323
```

XML

```
<Command>
  <Dial command="True">
    <Number>12345</Number>
    <Protocol>H323</Protocol>
  </Dial>
</Command>
```

例 2: コールへのビデオ レイアウトの割り当て

Terminal

```
xCommand Video Layout AssignCall CallId: 2
LayoutId: 1
```

XML

```
<Command>
  <Video>
    <Layout>
      <AssignCall command="True">
        <CallId>2</CallId>
        <LayoutId>1</LayoutId>
      </AssignCall>
    </Layout>
  </Video>
</Command>
```

コンフィギュレーションの変換

xConfiguration から XML への変換はコマンドと同様ですが、インデックスを指定する特別な属性「item="NN"」が配列に付加されます。

例: ビデオ入力コネクタ 2 の入力ソース タイプの設定

Terminal

```
xConfiguration Video Input Connector 2
InputSourceType: camera
```

XML

```
<Configuration>
  <Video>
    <Input>
      <Connector item="2">
        <InputSourceType>camera</InputSourceType>
      </Connector>
    </Input>
  </Video>
</Configuration>
```

推奨事項と禁止事項

ここでは、Cisco MX シリーズの API をプログラミングする際のベストプラクティスについて説明します。

完全なコマンドを使用する

プログラミングする際は必ず完全なコマンドを使用しなければなりません。つまり、`xconf vid` ではなく、`xConfiguration Video` を使用する必要があります。ショートカットは、コマンド ラインで API 内を検索する場合には使用できますが、プログラミングでは使用できません。余分なコマンドを API に追加すると、あいまいなコードが生じる可能性があるからです。

不要なフィードバックをサブスクライブしない

フィードバックのサブスクライブ数が多すぎると、制御アプリケーションが混乱状態になる可能性があります。フィードバックの量は、現行バージョンでは適切でも、今後のリリースで増加する可能性があります。

第 3 章

xConfiguration コマンド

xConfiguration コマンドの説明

この章には、xConfiguration コマンドの全リストが記載されています。例では、デフォルト値または値の例のいずれかを示します。

定期的にシスコの Web サイトにアクセスし、マニュアルの更新バージョンについて確認することを推奨します。

URL: <http://www.cisco.com/go/mx-docs>

Audio configuration	35	xConfiguration Conference DoNotDisturb DefaultTimeout	40
xConfiguration Audio DefaultVolume	35	xConfiguration Conference Encryption Mode	40
xConfiguration Audio SoundsAndAlerts RingTone	35	xConfiguration Conference FarEndControl Mode	40
xConfiguration Audio SoundsAndAlerts RingVolume	35	xConfiguration Conference MaxReceiveCallRate	41
xConfiguration Audio Input Microphone [1] Mode	35	xConfiguration Conference MaxTransmitCallRate	41
xConfiguration Audio Output InternalSpeaker Mode	36	xConfiguration Conference MaxTotalReceiveCallRate	41
		xConfiguration Conference MaxTotalTransmitCallRate	41
		xConfiguration Conference MultiStream Mode	42
Cameras configuration	36		
xConfiguration Cameras Camera [1] Backlight DefaultMode	36	H323 Configuration	42
xConfiguration Cameras Camera [1] Brightness Mode	36	xConfiguration H323 Authentication Mode	42
xConfiguration Cameras Camera [1] Brightness DefaultLevel	37	xConfiguration H323 Authentication LoginName	42
xConfiguration Cameras Camera [1] Focus Mode	37	xConfiguration H323 Authentication Password	43
xConfiguration Cameras Camera [1] Gamma Mode	37	xConfiguration H323 CallSetup Mode	43
xConfiguration Cameras Camera [1] Gamma Level	37	xConfiguration H323 Encryption KeySize	43
xConfiguration Cameras Camera [1] Mirror	38	xConfiguration H323 Gatekeeper Address	43
xConfiguration Cameras Camera [1] Whitebalance Mode	38	xConfiguration H323 H323Alias E164	44
xConfiguration Cameras Camera [1] Whitebalance Level	38	xConfiguration H323 H323Alias ID	44
xConfiguration Cameras Preset TriggerAutofocus	38	xConfiguration H323 NAT Mode	44
		xConfiguration H323 NAT Address	45
Conference configuration	39		
xConfiguration Conference AutoAnswer Mode	39	Network configuration	45
xConfiguration Conference AutoAnswer Mute	39	xConfiguration Network [1] DNS Domain Name	45
xConfiguration Conference AutoAnswer Delay	39	xConfiguration Network [1] DNS Server [1..3] Address	45
xConfiguration Conference DefaultCall Protocol	39	xConfiguration Network [1] IEEE8021X Mode	46
xConfiguration Conference DefaultCall Rate	40		



xConfiguration Network [1] IEEE8021X TlsVerify	46
xConfiguration Network [1] IEEE8021X UseClientCertificate	46
xConfiguration Network [1] IEEE8021X Identity	46
xConfiguration Network [1] IEEE8021X Password	47
xConfiguration Network [1] IEEE8021X AnonymousIdentity	47
xConfiguration Network [1] IEEE8021X Eap Md5	47
xConfiguration Network [1] IEEE8021X Eap Ttls	47
xConfiguration Network [1] IEEE8021X Eap Tls	48
xConfiguration Network [1] IEEE8021X Eap Peap	48
xConfiguration Network [1] IPStack	48
xConfiguration Network [1] IPv4 Assignment	48
xConfiguration Network [1] IPv4 Address	49
xConfiguration Network [1] IPv4 Gateway	49
xConfiguration Network [1] IPv4 SubnetMask	49
xConfiguration Network [1] IPv6 Assignment	49
xConfiguration Network [1] IPv6 Address	50
xConfiguration Network [1] IPv6 Gateway	50
xConfiguration Network [1] IPv6 DHCPOptions	50
xConfiguration Network [1] MTU	50
xConfiguration Network [1] QoS Mode	51
xConfiguration Network [1] QoS Diffserv Audio	51
xConfiguration Network [1] QoS Diffserv Video	51
xConfiguration Network [1] QoS Diffserv Data	51
xConfiguration Network [1] QoS Diffserv Signalling	52
xConfiguration Network [1] QoS Diffserv ICMPv6	52
xConfiguration Network [1] QoS Diffserv NTP	52
xConfiguration Network [1] RemoteAccess Allow	52
xConfiguration Network [1] Speed	53
xConfiguration Network [1] VLAN Voice Mode	53
xConfiguration Network [1] VLAN Voice VlanId	53
NetworkServices	54
xConfiguration NetworkServices CDP Mode	54
xConfiguration NetworkServices H323 Mode	54
xConfiguration NetworkServices HTTP Mode	54

xConfiguration NetworkServices NTP Mode	54
xConfiguration NetworkServices NTP Server [1..3] Address	55
xConfiguration NetworkServices SIP Mode	55
xConfiguration NetworkServices SNMP Mode	55
xConfiguration NetworkServices SNMP Host [1..3] Address	55
xConfiguration NetworkServices SNMP CommunityName	56
xConfiguration NetworkServices SNMP SystemContact	56
xConfiguration NetworkServices SNMP SystemLocation	56
xConfiguration NetworkServices SSH Mode	56
xConfiguration NetworkServices Telnet Mode	57
xConfiguration NetworkServices WelcomeText	57

Peripherals configuration	57
xConfiguration Peripherals Profile TouchPanels	57

Phonebook Configuration	58
xConfiguration Phonebook Server [1] ID	58
xConfiguration Phonebook Server [1] Type	58
xConfiguration Phonebook Server [1] URL	58

Provisioning configuration	59
xConfiguration Provisioning Connectivity	59
xConfiguration Provisioning Mode	59
xConfiguration Provisioning LoginName	60
xConfiguration Provisioning Password	60
xConfiguration Provisioning HttpMethod	60
xConfiguration Provisioning ExternalManager Address	60
xConfiguration Provisioning ExternalManager AlternateAddress	61
xConfiguration Provisioning ExternalManager Protocol	61
xConfiguration Provisioning ExternalManager Path	61
xConfiguration Provisioning ExternalManager Domain	61

Proximity configuration	62
xConfiguration Proximity Mode	62
xConfiguration Proximity Services CallControl	62

xConfiguration Proximity Services ContentShare FromClients	62
xConfiguration Proximity Services ContentShare ToClients	62
SerialPort Configuration	63
xConfiguration SerialPort Mode.....	63
xConfiguration SerialPort LoginRequired	63
SIP Configuration	63
xConfiguration SIP Authentication UserName	63
xConfiguration SIP Authentication Password.....	63
xConfiguration SIP DefaultTransport.....	64
xConfiguration SIP DisplayName	64
xConfiguration SIP Ice Mode.....	64
xConfiguration SIP Ice DefaultCandidate.....	64
xConfiguration SIP ListenPort.....	65
xConfiguration SIP Proxy [1..4] Address.....	65
xConfiguration SIP Turn Server	65
xConfiguration SIP Turn UserName.....	65
xConfiguration SIP Turn Password	65
xConfiguration SIP URI.....	66
Standby Configuration	66
xConfiguration Standby Control	66
xConfiguration Standby Delay	66
xConfiguration Standby BootAction.....	67
xConfiguration Standby StandbyAction	67
xConfiguration Standby WakeupAction	67
SystemUnit Configuration	68
xConfiguration SystemUnit Name	68

Time configuration.....	68
xConfiguration Time TimeFormat	68
xConfiguration Time DateFormat.....	68
xConfiguration Time Zone.....	69
UserInterface Configuration.....	70
xConfiguration UserInterface ContactInfo Type.....	70
xConfiguration UserInterface KeyTones Mode	71
xConfiguration UserInterface Language	71
xConfiguration UserInterface OSD Output.....	71
Video configuration	72
xConfiguration Video DefaultMainSource	72
xConfiguration Video Input Connector [1..4] CameraControl Mode	72
xConfiguration Video Input Connector [1..4] CameraControl Cameramd	72
xConfiguration Video Input Connector [1..4] InputSourceType	72
xConfiguration Video Input Connector [1..4] Name	73
xConfiguration Video Input Connector [2..4] Quality.....	73
xConfiguration Video Input Connector [2..4] PresentationSelection.....	73
xConfiguration Video Input Connector [1..4] Visibility.....	74
xConfiguration Video Monitors	74
xConfiguration Video Output Connector [2] CEC Mode	74
xConfiguration Video Output Connector [2] OverscanLevel	75
xConfiguration Video Output Connector [1..2] Resolution	75
xConfiguration Video Presentation DefaultSource.....	75
xConfiguration Video Selfview Default Mode	76
xConfiguration Video Selfview Default FullscreenMode	76
xConfiguration Video Selfview Default OnMonitorRole.....	76
xConfiguration Video Selfview Default PIPPosition.....	77
xConfiguration Video Selfview OnCall Mode.....	77
xConfiguration Video Selfview OnCall Duration.....	77

Audio configuration

xConfiguration Audio DefaultVolume

スピーカーのデフォルトの音量を定義します。ビデオ システムをオンにするか再起動すると、音量がこの値に設定されます。ビデオ システムの稼働中に音量を変更するには、タッチ コントローラを使用します。また、API コマンド (xCommand Audio Volume) を使用して、ビデオ システムの稼働中に音量を変更したり、デフォルト値にリセットしたりすることもできます。

必要なユーザ ロール: USER

デフォルト値: 50

使用方法:

xConfiguration Audio DefaultVolume: DefaultVolume

説明:

DefaultVolume: 整数 (0 ~ 100)

1 ~ 100 の値を選択します。これは、-34.5 dB ~ 15 dB の範囲内の 0.5 dB 単位に相当します。0 に設定すると、音声が入力になります。

xConfiguration Audio SoundsAndAlerts RingTone

着信コールに使用する着信音を定義します。

必要なユーザ ロール: USER

デフォルト値: Sunrise

使用方法:

xConfiguration Audio SoundsAndAlerts RingTone: RingTone

説明:

RingTone: Sunrise/Mischief/Ripples/Reflections/Vibes/Delight/Evolve/Playful/Ascent/Calculation/Mellow/Ringer

リストから着信音を選択します。

xConfiguration Audio SoundsAndAlerts RingVolume

着信コールの着信音量を定義します。

必要なユーザ ロール: USER

デフォルト値: 40

使用方法:

xConfiguration Audio SoundsAndAlerts RingVolume: RingVolume

説明:

RingVolume: 整数 (0 ~ 100)

値は 5 刻みで 0 ~ 100 (-34.5 dB ~ 15 dB) になります。音量 0 = オフです。

xConfiguration Audio Input Microphone [1] Mode

音声入力マイク モードを定義します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: On

使用方法:

xConfiguration Audio Input Microphone n Mode: Mode

説明:

Mode: Off/On

Off: 音声入力マイク コネクタを無効にします。

On: 音声入力マイク コネクタを有効にします。

xConfiguration Audio Output InternalSpeaker Mode

ビデオ システムの内蔵スピーカーを使用するかどうかを定義します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: On

使用方法:

xConfiguration Audio Output InternalSpeaker Mode: Mode

説明:

Mode: Off/On

Off: ビデオ システムの内蔵スピーカーを無効にします。

On: ビデオ システムの内蔵スピーカーを有効にします。

Cameras configuration

xConfiguration Cameras Camera [1] Backlight DefaultMode

この設定は、逆光補正をオンまたはオフにします。逆光補正は、部屋の中で人物の背後に強い光がある場合に役立ちます。逆光補正がないと、こちらの画像が相手に非常に暗い状態で見えてしまいます。

必要なユーザ ロール: USER

デフォルト値: Off

使用方法:

xConfiguration Cameras Camera n Backlight DefaultMode: DefaultMode

説明:

DefaultMode: Off/On

Off: カメラの逆光補正をオフにします。

On: カメラの逆光補正をオンにします。

xConfiguration Cameras Camera [1] Brightness Mode

カメラの明るさモードを定義します。

必要なユーザ ロール: USER

デフォルト値: Auto

使用方法:

xConfiguration Cameras Camera n Brightness Mode: Mode

説明:

Mode: Auto/Manual

Auto: カメラの明るさはシステムによって自動的に設定されます。

Manual: カメラの明るさの手動設定をイネーブルにします。明るさのレベルは Cameras Camera [n] Brightness DefaultLevel 設定を使用して設定されます。

xConfiguration Cameras Camera [1] Brightness DefaultLevel

明るさのレベルを定義します。カメラの明るさモード Cameras Camera [n] Brightness Mode を Manual に設定する必要があります。

必要なユーザ ロール: USER

デフォルト値: 20

使用方法:

xConfiguration Cameras Camera n Brightness DefaultLevel: DefaultLevel

説明:

DefaultLevel: 整数 (1 ~ 31)
明るさレベル。

xConfiguration Cameras Camera [1] Focus Mode

カメラのフォーカス モードを定義します。

必要なユーザ ロール: USER

デフォルト値: Auto

使用方法:

xConfiguration Cameras Camera n Focus Mode: Mode

説明:

Mode: Auto/Manual

Auto: コールが接続されると、カメラはオートフォーカスになります。カメラの移動 (パン、チルト、ズーム) 後も同様です。システムは、オートフォーカスを数秒間だけ使用して正しい焦点に設定します。その後、オートフォーカスはカメラが焦点調整し続けることを防ぐためオフになります。

Manual: オートフォーカスをオフにし、カメラの焦点を手動で調整します。

xConfiguration Cameras Camera [1] Gamma Mode

この設定は、ガンマ補正をイネーブルにします。ガンマは、画像ピクセルとモニタの明るさとの間の非線形関係を表します。

必要なユーザ ロール: USER

デフォルト値: Auto

使用方法:

xConfiguration Cameras Camera n Gamma Mode: Mode

説明:

Mode: Auto/Manual

Auto: 自動がデフォルトであり、推奨設定です。

Manual: 手動モードでは、ガンマ レベル設定によってガンマ値が変更されます。Cameras Camera [n] Gamma Level を参照してください。

xConfiguration Cameras Camera [1] Gamma Level

ガンマ レベルを設定して、使用するガンマ補正テーブルを選択できます。この設定は、明るさの設定を変更しても十分な結果が得られない困難な光条件に役立つことがあります。カメラのガンマ モード Cameras Camera [n] Gamma Mode を Manual に設定する必要があります。

必要なユーザ ロール: USER

デフォルト値: 0

使用方法:

xConfiguration Cameras Camera n Gamma Level: Level

説明:

Level: 整数 (0 ~ 7)

ガンマ レベルを定義します。

xConfiguration Cameras Camera [1] Mirror

ミラー モード (水平反転) を使用して画面の画像を反転できます。ミラーリングは、セルフビューおよび遠端に送信されるビデオの両方に適用されます

必要なユーザ ロール: USER

デフォルト値: Off

使用方法:

xConfiguration Cameras Camera n Mirror: Mirror

説明:

Mirror: Off/On

Off: 他人から見えている自分のように画像を表示します。

On: 鏡に映っている自分のように画像を表示します。

xConfiguration Cameras Camera [1] Whitebalance Mode

カメラのホワイト バランス モードを定義します。

必要なユーザ ロール: USER

デフォルト値: Auto

使用方法:

xConfiguration Cameras Camera n Whitebalance Mode: Mode

説明:

Mode: Auto/Manual

Auto: カメラはカメラのビューに合わせて常にホワイト バランスを調整します。

Manual: カメラのホワイトバランスの手動設定をイネーブルにします。ホワイトバランスのレベルは Cameras Camera [n] Whitebalance Level 設定を使用して設定します。

xConfiguration Cameras Camera [1] Whitebalance Level

ホワイトバランスのレベルを定義します。Cameras Camera [n] Whitebalance Mode を Manual に設定する必要があります。

必要なユーザ ロール: USER

デフォルト値: 1

使用方法:

xConfiguration Cameras Camera n Whitebalance Level: Level

説明:

Level: 整数 (1 ~ 16)

ホワイト バランスのレベル。

xConfiguration Cameras Preset TriggerAutofocus

現在位置 (パン、チルト)、ズームおよびフォーカスはプリセットで保存されます。この設定を使用して、カメラを再フォーカスするか、プリセットで保存されたフォーカス値を使用するかどうかを指定します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: Auto

使用方法:

xConfiguration Cameras Preset TriggerAutofocus: TriggerAutofocus

説明:

TriggerAutofocus: Auto/Off/On

Auto: プリセットを選択しない場合に、カメラの種類に応じてカメラを再フォーカスするかどうかを指定します。

Off: プリセットで保存されたフォーカス値が使用されます。プリセットを選択する場合、カメラは再フォーカスしません。

On: プリセットを選択する場合、カメラは再フォーカスします。プリセットで保存されたフォーカス値が上書きされる可能性があります。

Conference configuration

xConfiguration Conference AutoAnswer Mode

自動応答モードを定義します。コールに応答する前に数秒間待機する場合は `Conference AutoAnswer Delay` 設定を使用し、コールに応答するときにマイクをミュートする場合は `Conference AutoAnswer Mute` 設定を使用します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: Off

使用方法:

`xConfiguration Conference AutoAnswer Mode: Mode`

説明:

Mode: Off/On

Off: 着信コールに応答するには、タッチ コントローラで `Answer` をタップする必要があります。

On: 通話中でない限り、システムが自動的に着信コールに応答します。通話中の着信コールに対しては、常に手動で応答または拒否する必要があります。

xConfiguration Conference AutoAnswer Mute

着信コールが自動的に応答する場合にマイクをミュートするかどうか定義します。`AutoAnswer Mode` が有効にされている必要があります。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: Off

使用方法:

`xConfiguration Conference AutoAnswer Mute: Mute`

説明:

Mute: Off/On

Off: 着信コールはミュートにされません。

On: 着信コールは自動的に応答されるときミュートにされます。

xConfiguration Conference AutoAnswer Delay

システムによって自動的に応答される前に着信コールがどれくらい待つ必要があるかを定義します (秒単位)。`AutoAnswer Mode` が有効にされている必要があります。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: 0

使用方法:

`xConfiguration Conference AutoAnswer Delay: Delay`

説明:

Delay: 整数 (0 ~ 50)

自動応答遅延 (秒単位)。

xConfiguration Conference DefaultCall Protocol

システムからコールを発信するときに使用されるデフォルトの通信プロトコルを定義します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: Auto

使用方法:

`xConfiguration Conference DefaultCall Protocol: Protocol`

説明:

Protocol: Auto/H323/Sip/H320

Auto: 使用可能なプロトコルに基づいた通信プロトコルの自動選択をイネーブルにします。複数のプロトコルが使用可能な場合、優先順位は次のとおりです: 1) SIP、2) H323、3) H320。システムで登録できない場合や、通信プロトコルがイネーブルになっていない場合、自動選択で H323 が選択されます。

H323: すべてのコールが H.323 コールとして設定されます。

SIP: すべてのコールが SIP コールとして設定されます。

H320: すべてのコールが H.320 コールとしてセットアップされます (Cisco TelePresence ISDN リンクに接続されている場合のみ)。

xConfiguration Conference DefaultCall Rate

システムからコールを発信するときに使用されるデフォルト コール レートを定義します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: 1920

使用方法:

xConfiguration Conference DefaultCall Rate: Rate

説明:

Rate: 整数 (64 ~ 6000)

デフォルト コール レート (kbps) を設定します。

xConfiguration Conference DoNotDisturb DefaultTimeout

この設定はサイレント セッションのデフォルト期間、つまり着信コールが拒否され、不在履歴として登録される時間を決定します。セッションは、ユーザ インターフェイス (タッチ コントローラ) を使用して早期に終了できます。デフォルト値は 60 分です。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: 60

使用方法:

xConfiguration Conference DoNotDisturb DefaultTimeout: DefaultTimeout

説明:

DefaultTimeout: 整数 (0 ~ 1440)

サイレント セッションが自動的にタイム アウトするまでの分数を 0 ~ 1440 (24 時間) の間で設定します。

xConfiguration Conference Encryption Mode

会議の暗号化モードを定義します。会議が開始されると、画面に鍵と「Encryption On」または「Encryption Off」という文字が数秒間表示されます。

注: 暗号化オプション キーがビデオ システムにインストールされていない場合、暗号化モードは常に Off になります。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: BestEffort

使用方法:

xConfiguration Conference Encryption Mode: Mode

説明:

Mode: Off/On/BestEffort

Off: システムは、暗号化を使用しません。

On: システムは、暗号化されたコールだけを許可します。

BestEffort: システムは暗号化を可能な限り使用します。

> ポイント ツー ポイント コール: 遠端システムで暗号化 (AES-128) がサポートされている場合、コールは暗号化されます。そうでない場合は、コールは暗号化なしで送信されます。

> MultiSite コール: 暗号化されたマルチサイト会議を実現するためには、すべてのサイトが暗号化をサポートしている必要があります。そうでない場合は、会議は暗号化されません。

xConfiguration Conference FarEndControl Mode

リモート側 (遠端) にこちら側のビデオ ソースの選択とローカル カメラの制御 (パン、チルト、ズーム) を許可するかどうか決定できます。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: On

使用方法:

xConfiguration Conference FarEndControl Mode: Mode

説明:

Mode: Off/On

Off: 相手先はこちら側のビデオ ソースの選択やローカル カメラの制御 (パン、チルト、ズーム) を許可されません。

On: 相手先はこちら側のビデオ ソースの選択とローカル カメラの制御 (パン、チルト、ズーム) を許可します。カメラの制御とビデオ ソースの選択は、こちら側では通常どおり可能です。

xConfiguration Conference MaxReceiveCallRate

コールを発信または受信するときに使用される最大受信ビット レートを定義します。これは個別のコールの最大ビット レートです。すべての同時アクティブ コールに集約した最大レートを設定するには、Conference MaxTotalReceiveCallRate 設定を使用します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: 6000

使用方法:

xConfiguration Conference MaxReceiveCallRate: MaxReceiveCallRate

説明:

MaxReceiveCallRate: 整数 (64 ~ 6000)

最大受信コール レート (kbps) を設定します。

xConfiguration Conference MaxTransmitCallRate

コールを発信または受信するときに使用される最大送信ビット レートを定義します。これは個別のコールの最大ビット レートです。すべての同時アクティブ コールに集約した最大レートを設定するには、Conference MaxTotalTransmitCallRate 設定を使用します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: 6000

使用方法:

xConfiguration Conference MaxTransmitCallRate: MaxTransmitCallRate

説明:

MaxTransmitCallRate: 整数 (64 ~ 6000)

最大送信コール レート (kbps) を設定します。

xConfiguration Conference MaxTotalReceiveCallRate

この設定は、ビデオ システム内蔵の MultiSite 機能 (オプション) を使用してマルチポイントのビデオ会議をホストする場合に適用されます。

許容される受信全体の最大ビット レートを定義します。ビット レートは任意の時点におけるすべてのアクティブ コール間で均等に分割されます。これは、誰かがマルチポイント会議に参加または退出するとき、またはコールが保留 (中断) されるか再開されるときに個々のコールが適切に高速化または低速化されることを意味します。

個々のコールの最大受信ビット レートは、Conference MaxReceiveCallRate 設定により定義されます。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: 10000

使用方法:

xConfiguration Conference MaxTotalReceiveCallRate: MaxTotalReceiveCallRate

説明:

MaxTotalReceiveCallRate: 整数 (64 ~ 10000)

最大受信コール レート (kbps) を設定します。

xConfiguration Conference MaxTotalTransmitCallRate

この設定は、ビデオ システム内蔵の MultiSite 機能 (オプション) を使用してマルチポイントのビデオ会議をホストする場合に適用されます。

許容される送信全体の最大ビット レートを定義します。ビット レートは任意の時点におけるすべてのアクティブ コール間で均等に分割されます。これは、誰かがマルチポイント会議に参加または退出するとき、またはコールが保留 (中断) されるか再開されるときに個々のコールが適切に高速化または低速化されることを意味します。

個々のコールの最大送信ビット レートは、Conference MaxTransmitCallRate 設定により定義されます。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: 10000

使用方法:

xConfiguration Conference MaxTotalTransmitCallRate: MaxTotalTransmitCallRate

説明:

MaxTotalTransmitCallRate: 整数 (64 ~ 10000)

最大送信コール レート (kbps) を設定します。

xConfiguration Conference MultiStream Mode

会議インフラストラクチャが機能をサポートしていれば (Cisco TelePresence Server 4.2 以降)、ビデオ システムは会議用のマルチストリーム ビデオをサポートします。つまり、ビデオ システムは複数のビデオ ストリームを 1 つの会議レイアウトにローカルに編成して、使用可能なすべての画面を活用します。これにより、ユーザ エクスペリエンスが向上します。

マルチストリーム ビデオは、SIP を介してのみサポートされます。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: Off

使用方法:

xConfiguration Conference MultiStream Mode: Mode

説明:

Mode: Auto/Off

Auto: 機能が会議インフラストラクチャでサポートされていれば、ビデオ ストリームのローカル編成を使用します。

Off: ローカル編成が無効です。レイアウトは会議インフラストラクチャ (Cisco TelePresence Server) によってトランスコードされます。

H323 Configuration

xConfiguration H323 Authentication Mode

H.323 プロファイルの認証モードを定義します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: Off

使用方法:

xConfiguration H323 Authentication Mode: Mode

説明:

Mode: Off/On

Off: システムは H.323 ゲートキーパーに対して自身の認証を試みませんが、通常の登録を試みます。

On: 認証が必要なことを H.323 ゲートキーパーが示している場合、システムはゲートキーパーに対して自身の認証を試みます。コーデックとゲートキーパーの両方で H323 Authentication LoginName 設定と H323 Authentication Password 設定を定義する必要があります。

xConfiguration H323 Authentication LoginName

システムは、認証のために H323 認証ログイン名と H323 認証パスワードを H.323 ゲートキーパーに送信します。認証はコーデックから H.323 ゲートキーパーへの単方向の認証です。つまり、システムはゲートキーパーに認証されます。認証が不要であることを H.323 ゲートキーパーが示している場合でも、システムは登録を試行します。H.323 認証モードを有効にする必要があります。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: ""

使用方法:

xConfiguration H323 Authentication LoginName: "LoginName"

説明:

LoginName: 文字列 (0、50)

認証ログイン名。

xConfiguration H323 Authentication Password

システムは、認証のために H.323 認証ログイン名と H.323 認証パスワードを H.323 ゲートキーパーに送信します。認証はコーデックから H.323 ゲートキーパーへの単方向の認証です。つまり、システムはゲートキーパーに認証されます。認証が不要であることを H.323 ゲートキーパーが示している場合でも、システムは登録を試行します。H.323 認証モードを有効にする必要があります。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: ""

使用方法:

xConfiguration H323 Authentication Password: "Password"

説明:

Password: 文字列 (0, 50)

認証パスワード。

xConfiguration H323 CallSetup Mode

H.323 コールを確立するときにゲートキーパーとダイレクト コールのどちらを使用するかを定義します。

また、H.323 CallSetup Mode が Gatekeeper に設定されている場合にもダイレクト H.323 コールを発信できます。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: Gatekeeper

使用方法:

xConfiguration H323 CallSetup Mode: Mode

説明:

Mode: Direct/Gatekeeper

Direct: IP アドレスを直接ダイヤルすることによってのみ H.323 コールを発信できます。

Gatekeeper: システムはゲートキーパーを使用して H.323 コールを発信します。このオプションを選択する場合は、H.323 Gatekeeper Address も設定する必要があります。

xConfiguration H323 Encryption KeySize

Advanced Encryption Standard (AES) 暗号化キーの確立時に使用する Diffie-Hellman キー交換方式の最小または最大サイズを定義します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: Max1024bit

使用方法:

xConfiguration H323 Encryption KeySize: KeySize

説明:

KeySize: Min1024bit/Max1024bit/Min2048bit

Min1024bit: 最小サイズは 1024 ビットです。

Max1024bit: 最大サイズは 1024 ビットです。

Min2048bit: 最小サイズは 2048 ビットです。

xConfiguration H323 Gatekeeper Address

ゲートキーパーの IP アドレスを定義します。H.323 CallSetup Mode を Gatekeeper に設定する必要があります。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: ""

使用方法:

xConfiguration H323 Gatekeeper Address: "Address"

説明:

Address: 文字列 (0, 255)

有効な IPv4 アドレス、IPv6 アドレス、または DNS 名。

xConfiguration H323 H323Alias E164

H.323 エイリアス E.164 は、H.323 ゲートキーパーに設定された番号計画に従ってシステムのアドレスを定義します。E.164 エイリアスは電話番号と同じであり、アクセス コードと結合される場合もあります。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: ""

使用方法:

xConfiguration H323 H323Alias E164: "E164"

説明:

E164: 文字列 (0, 30)

H.323 エイリアス E.164 アドレス。使用できる文字は、0 ~ 9、*、# です。

xConfiguration H323 H323Alias ID

H.323 ゲートキーパー上のシステムのアドレス指定に使用され、コール リストに表示される H.323 エイリアス ID を定義します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: ""

使用方法:

xConfiguration H323 H323Alias ID: "ID"

説明:

ID: 文字列 (0, 49)

H.323 エイリアス ID。例: 「firstname.lastname@company.com」、 「My H.323 Alias ID」

xConfiguration H323 NAT Mode

ファイアウォールトラバーサル テクノロジーは、ファイアウォール障壁を通過するセキュアなパスを作成し、外部のビデオ会議システムに接続されたときの音声/ビデオ データの正しい交換を可能にします (IP トラフィックが NAT ルータを通過する場合)。注: NAT は、ゲートキーパーとの組み合わせでは動作しません。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: Off

使用方法:

xConfiguration H323 NAT Mode: Mode

説明:

Mode: Auto/Off/On

Auto: H323 NAT アドレスと実際の IP アドレスのどちらをシグナリングに使用するかをシステムが決定します。これにより、LAN 上のエンドポイント、または WAN のエンドポイントにコールを発信できるようになります。H323 NAT アドレスが間違っているか設定されていない場合、実際の IP アドレスが使用されます。

Off: システムは、実際の IP アドレスをシグナリングします。

On: システムは、Q.931 および H.245 内にある実際の IP アドレスの代わりに、設定された H323 NAT アドレスをシグナリングします。NAT サーバ アドレスは、スタートアップ メニューで 「My IP Address: 10.0.2.1」と表示されます。H323 NAT アドレスが間違っているか設定されていない場合、H.323 コールは設定できません。

xConfiguration H323 NAT Address

NAT サポートを備えたルータへの外部/グローバル IP アドレスを定義します。ルータに送信されるパケットは、システムにルーティングされます。ゲートキーパーに登録されている場合は NAT を使用できないことに注意してください。

ルータで、次のポートはシステムの IP アドレスにルーティングする必要があります。

*ポート 1720

*ポート 5555-6555

*ポート 2326-2487

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: " "

使用方法:

xConfiguration H323 NAT Address: "Address"

説明:

Address: 文字列 (0, 64)

有効な IPv4 アドレスまたは IPv6 アドレス。

Network configuration

xConfiguration Network [1] DNS Domain Name

DNS ドメイン名は、非修飾名に追加されるデフォルトのドメイン名サフィックスです。

例: DNS ドメイン名が「company.com」で、ルックアップする名前が「MyVideoSystem」の場合、DNS ルックアップ「MyVideoSystem.company.com」になります。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: " "

使用方法:

xConfiguration Network n DNS Domain Name: "Name"

説明:

n: ネットワークを識別するインデックス。範囲: 1..1

Name: 文字列 (0, 64)

DNS ドメイン名。

xConfiguration Network [1] DNS Server [1..3] Address

DNS サーバのネットワーク アドレスを定義します。最大で 3 つのアドレスを指定できます。ネットワーク アドレスが不明の場合、管理者またはインターネット サービス プロバイダーに問い合わせます。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: " "

使用方法:

xConfiguration Network n DNS Server m Address: "Address"

説明:

n: ネットワークを識別するインデックス。範囲: 1..1

m: DNS サーバを識別するインデックス。最大 3 台の DNS サーバが許可されます。範囲: 1..3

Address: 文字列 (0, 64)

有効な IPv4 アドレスまたは IPv6 アドレス。

xConfiguration Network [1] IEEE8021X Mode

システムは、イーサネット ネットワークに認証済みネットワーク アクセスを提供するために使用される、ポート ベースのネットワーク アクセス コントロールによって、IEEE 802.1X LAN ネットワークに接続できます。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: Off

使用方法:

xConfiguration Network n IEEE8021X Mode: Mode

説明:

n: ネットワークを識別するインデックス。範囲: 1..1

Mode: Off/On

Off: 802.1X 認証がディセーブルになります (デフォルト)。

On: 802.1X 認証がイネーブルになります。

xConfiguration Network [1] IEEE8021X TlsVerify

TLS を使用する場合の、ローカル CA リストの証明書に対する IEEE802.1x 接続のサーバ側証明書の検証です。CA リストはビデオ システムにアップロードする必要があります。これは、Web インターフェイスから実行できます。

この設定は、Network [1] IEEE8021X Eap Tls が有効 (On) の場合にのみ適用されます。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: Off

使用方法:

xConfiguration Network n IEEE8021X TlsVerify: TlsVerify

説明:

n: ネットワークを識別するインデックス。範囲: 1..1

TlsVerify: Off/On

Off: Off に設定する場合、ローカル CA リストに対するサーバ側 X.509 証明書を確認せずに、TLS 接続が許可されます。これは、コーデックに CA リストがアップロードされていない場合、選択する必要があります。

On: On に設定する場合、すべての TLS 接続のローカル CA リストに対して、サーバ側 X.509 証明書が検証されます。有効な証明書を持つサーバだけが許可されます。

xConfiguration Network [1] IEEE8021X UseClientCertificate

IEEE802.1x 接続中の、秘密キーと証明書のペアを使用した認証。認証 X.509 証明書は、ビデオ システムにアップロードされている必要があります。これは、Web インターフェイスから実行できます。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: Off

使用方法:

xConfiguration Network n IEEE8021X UseClientCertificate: UseClientCertificate

説明:

n: ネットワークを識別するインデックス。範囲: 1..1

UseClientCertificate: Off/On

Off: Off に設定した場合、クライアント側の証明書は使用されません (サーバ側のみ)。

On: On に設定した場合、クライアント (ビデオ システム) はサーバと相互認証 TLS ハンドシェイクを実行します。

xConfiguration Network [1] IEEE8021X Identity

802.1X 認証用のユーザ名を定義します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: ""

使用方法:

xConfiguration Network n IEEE8021X Identity: "Identity"

説明:

n: ネットワークを識別するインデックス。範囲: 1..1

Identity: 文字列 (0、64)

802.1X 認証用のユーザ名。

xConfiguration Network [1] IEEE8021X Password

802.1X 認証用のパスワードを定義します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: ""

使用方法:

xConfiguration Network n IEEE8021X Password: "Password"

説明:

n: ネットワークを識別するインデックス。範囲: 1..1

Password: 文字列 (0..32)

802.1X 認証用のパスワード。

xConfiguration Network [1] IEEE8021X AnonymousIdentity

802.1X 匿名 ID 文字列は、別のトンネリングされた ID をサポートする EAP-PEAP および EAP-TTLS などの EAP (Extensible Authentication Protocol) タイプとともに、非暗号化 ID として使用されます。設定された場合、匿名 ID は最初の (非暗号化) EAP ID 要求に使用されます。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: ""

使用方法:

xConfiguration Network n IEEE8021X AnonymousIdentity: "AnonymousIdentity"

説明:

n: ネットワークを識別するインデックス。範囲: 1..1

AnonymousIdentity: 文字列 (0..64)

802.1X 匿名 ID 文字列。

xConfiguration Network [1] IEEE8021X Eap Md5

MD5 (メッセージダイジェスト アルゴリズム 5) モードを定義します。これは、共有秘密に依存するチャレンジ ハンドシェイク認証プロトコルです。MD5 は弱いセキュリティです。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: On

使用方法:

xConfiguration Network n IEEE8021X Eap Md5: Md5

説明:

n: ネットワークを識別するインデックス。範囲: 1..1

Md5: Off/On

Off: EAP-MD5 プロトコルはディセーブルになります。

On: EAP-MD5 プロトコルはイネーブルになります (デフォルト)。

xConfiguration Network [1] IEEE8021X Eap Ttls

TTLS (トンネリングされたトランスポート層セキュリティ) モードを定義します。クライアント証明書の要件なしで LAN クライアントを認証します。Funk Software および Certicom によって開発されました。通常 Agere Systems、Proxim および Avaya でサポートされます。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: On

使用方法:

xConfiguration Network n IEEE8021X Eap Ttls: Ttls

説明:

n: ネットワークを識別するインデックス。範囲: 1..1

Ttls: Off/On

Off: EAP-TTLS プロトコルはディセーブルになります。

On: EAP-TTLS プロトコルはイネーブルになります (デフォルト)。

xConfiguration Network [1] IEEE8021X Eap Tls

IEEE802.1x 接続用の EAP-TLS (トランスポート層セキュリティ) の使用をイネーブルまたはディセーブルにします。RFC 5216 で規定された EAP-TLS プロトコルは最もセキュアな EAP 標準の 1 つと見なされています。LAN クライアントは、クライアント証明書を使用して認証されます。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: On

使用方法:

xConfiguration Network n IEEE8021X Eap Tls: Tls

説明:

n: ネットワークを識別するインデックス。範囲: 1..1

Tls: Off/On

Off: EAP-TLS プロトコルはディセーブルになります。

On: EAP-TLS プロトコルはイネーブルになります (デフォルト)。

xConfiguration Network [1] IEEE8021X Eap Peap

Peap (保護拡張認証プロトコル) モードを定義します。クライアント証明書の要件なしで LAN クライアントを認証します。Microsoft、シスコと RSA Security により開発されました。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: On

使用方法:

xConfiguration Network n IEEE8021X Eap Peap: Peap

説明:

n: ネットワークを識別するインデックス。範囲: 1..1

Peap: Off/On

Off: EAP-PEAP プロトコルはディセーブルになります。

On: EAP-PEAP プロトコルはイネーブルになります (デフォルト)。

xConfiguration Network [1] IPStack

システムのネットワーク インターフェイスで IPv4、IPv6、またはデュアル IP スタックを使用する必要がある場合に選択します。注: この設定を変更した後、反映されるまでに 30 秒間待つ必要があります。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: Dual

使用方法:

xConfiguration Network n IPStack: IPStack

説明:

n: ネットワークを識別するインデックス。範囲: 1..1

IPStack: Dual/IPv4/IPv6

Dual: Dual に設定すると、ネットワーク インターフェイスは両方の IP バージョンで同時に動作することができ、また、IPv4 アドレスと IPv6 アドレスの両方を同時に持つことができます。

IPv4: IPv4 に設定すると、システムのネットワーク インターフェイスで IPv4 が使用されます。

IPv6: IPv6 に設定すると、システムのネットワーク インターフェイスで IPv6 が使用されます。

xConfiguration Network [1] IPv4 Assignment

システムが IPv4 アドレス、サブネット マスク、およびゲートウェイ アドレスを取得する方法を定義します。この設定は IPv4 ネットワーク上のシステムにのみ適用されます。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: DHCP

使用方法:

xConfiguration Network n IPv4 Assignment: Assignment

説明:

n: ネットワークを識別するインデックス。範囲: 1..1

Assignment: Static/DHCP

Static: アドレスは、Network IPv4 Address、Network IPv4 Gateway、Network IPv4 SubnetMask の各設定 (静的アドレス) を使用して手動で設定する必要があります。

DHCP: システム アドレスは DHCP サーバによって自動的に割り当てられます。

xConfiguration Network [1] IPv4 Address

システムのスタティック IPv4 ネットワーク アドレスを定義します。Network IPv4 Assignment が Static に設定されている場合に限り適用できます。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: ""

使用方法:

xConfiguration Network n IPv4 Address: "Address"

説明:

n: ネットワークを識別するインデックス。範囲: 1..1

Address: 文字列 (0、64)

有効な IPv4 アドレス。

xConfiguration Network [1] IPv4 Gateway

IPv4 ネットワーク ゲートウェイ アドレスを定義します。Network IPv4 Assignment が Static に設定されている場合に限り適用されます。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: ""

使用方法:

xConfiguration Network n IPv4 Gateway: "Gateway"

説明:

n: ネットワークを識別するインデックス。範囲: 1..1

Gateway: 文字列 (0、64)

有効な IPv4 アドレス。

xConfiguration Network [1] IPv4 SubnetMask

IPv4 ネットワークのサブネット マスクを定義します。Network IPv4 Assignment が Static に設定されている場合に限り適用されます。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: ""

使用方法:

xConfiguration Network n IPv4 SubnetMask: "SubnetMask"

説明:

n: ネットワークを識別するインデックス。範囲: 1..1

SubnetMask: 文字列 (0、64)

有効な IPv4 アドレス。

xConfiguration Network [1] IPv6 Assignment

システムが IPv6 アドレスおよびデフォルト ゲートウェイ アドレスを取得する方法を定義します。この設定は IPv6 ネットワーク上のシステムにのみ適用されます。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: Autoconf

使用方法:

xConfiguration Network n IPv6 Assignment: Assignment

説明:

n: ネットワークを識別するインデックス。範囲: 1..1

Assignment: Static/DHCPv6/Autoconf

Static: コーデックおよびゲートウェイの IP アドレスは、Network IPv6 Address および Network IPv6 Gateway の各設定を使用して手動で設定する必要があります。NTP アドレスや DNS サーバ アドレスなどのオプションは、手動で設定するか、または DHCPv6 サーバから取得する必要があります。Network IPv6 DHCPOption 設定は、どの方法を使用するかを決定します。

DHCPv6: オプションを含むすべての IPv6 アドレスは、DHCPv6 サーバから取得されます。詳細については RFC 3315 を参照してください。Network IPv6 DHCPOption 設定は無視されます。

Autoconf: IPv6 ネットワーク インターフェイスの IPv6 ステータス自動設定をイネーブルにします。詳細については RFC 4862 を参照してください。NTP アドレスや DNS サーバ アドレスなどのオプションは、手動で設定するか、または DHCPv6 サーバから取得する必要があります。Network IPv6 DHCPOption 設定は、どの方法を使用するかを決定します。

xConfiguration Network [1] IPv6 Address

システムのスタティック IPv6 ネットワーク アドレスを定義します。Network IPv6 Assignment が Static に設定されている場合に限り適用されます。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: ""

使用方法:

xConfiguration Network n IPv6 Address: "Address"

説明:

n: ネットワークを識別するインデックス。範囲: 1..1

Address: 文字列 (0、64)

有効な IPv6 アドレス。

xConfiguration Network [1] IPv6 Gateway

IPv6 ネットワーク ゲートウェイ アドレスを定義します。この設定は、Network IPv6 Assignment が Static に設定されている場合にのみ適用されます。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: ""

使用方法:

xConfiguration Network n IPv6 Gateway: "Gateway"

説明:

n: ネットワークを識別するインデックス。範囲: 1..1

Gateway: 文字列 (0、64)

有効な IPv6 アドレス。

xConfiguration Network [1] IPv6 DHCPOptions

DHCPv6 サーバから一連の DHCP オプション (NTP および DNS サーバ アドレスなど) を取得します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: On

使用方法:

xConfiguration Network n IPv6 DHCPOptions: DHCPOptions

説明:

n: ネットワークを識別するインデックス。範囲: 1..1

DHCPOptions: Off/On

Off: DHCPv6 サーバからの DHCP オプションの取得をディセーブルにします。

On: 選択した DHCP オプションのセットの DHCPv6 サーバからの取得をイネーブルにします。

xConfiguration Network [1] MTU

イーサネット MTU (最大伝送単位) を定義します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: 1500

使用方法:

xConfiguration Network n MTU: MTU

説明:

n: ネットワークを識別するインデックス。範囲: 1..1

MTU: 整数 (576 ~ 1500)

MTU の値 (バイト) を設定します。

xConfiguration Network [1] QoS Mode

QoS (Quality of Service) は、ネットワーク内のオーディオ、ビデオおよびデータの優先順位を操作するメソッドです。QoS 設定はインフラストラクチャでサポートされている必要があります。DiffServ (ディファレンシエーテッド サービス) は、ネットワークトラフィックの分類と管理を行い、現代的 IP ネットワークに QoS 優先順位を提供するためにシンプルかつスケーラブルで粗粒度のメカニズムを指定する、コンピュータ ネットワーキング アーキテクチャです。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: Diffserv

使用方法:

xConfiguration Network n QoS Mode: Mode

説明:

Mode: Off/Diffserv

Off: QoS メソッドは使用されません。

Diffserv: QoS モードを Diffserv に設定すると、Network QoS Diffserv Audio、Network QoS Diffserv Video、Network QoS Diffserv Data、Network QoS Diffserv Signalling、Network QoS Diffserv ICMPv6、および Network QoS Diffserv NTP の各設定を使用してパケットの優先順位が付けられます。

xConfiguration Network [1] QoS Diffserv Audio

この設定は、Network QoS Mode が Diffserv に設定されている場合にのみ有効になります。

IP ネットワーク内で音声パケットに持たせる優先順位を定義します。

パケットのプライオリティは、0 ～ 63 です。数字が大きいほど、優先順位が高くなります。音声に推奨されるクラスは、10 進数値 32 と等しい CS4 です。これを確認するには、ネットワーク管理者に問い合わせてください。

ここで設定された優先順位は、パケットがローカル ネットワークの管理者によって制御されるネットワークを出るときに上書きされる可能性があります。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: 0

使用方法:

xConfiguration Network n QoS Diffserv Audio: Audio

説明:

Audio: 整数 (0 ～ 63)

IP ネットワーク内の音声パケットの優先順位を設定します。数字が大きいほど、優先順位が高くなります。デフォルト値は 0 (ベスト エフォート) です。

xConfiguration Network [1] QoS Diffserv Video

この設定は、Network QoS Mode が Diffserv に設定されている場合にのみ有効になります。

IP ネットワーク内でビデオ パケットに持たせる優先順位を定義します。プレゼンテーション チャネル (共有コンテンツ) 上のパケットも、ビデオ パケットのカテゴリに属します。パケットのプライオリティは、0 ～ 63 です。数字が大きいほど、優先順位が高くなります。ビデオに推奨されるクラスは、10 進数値 32 と等しい CS4 です。これを確認するには、ネットワーク管理者に問い合わせてください。

ここで設定された優先順位は、パケットがローカル ネットワークの管理者によって制御されるネットワークを出るときに上書きされる可能性があります。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: 0

使用方法:

xConfiguration Network n QoS Diffserv Video: Video

説明:

Video: 整数 (0 ～ 63)

IP ネットワーク内のビデオ パケットの優先順位を設定します。数字が大きいほど、優先順位が高くなります。デフォルト値は 0 (ベスト エフォート) です。

xConfiguration Network [1] QoS Diffserv Data

この設定は、Network QoS Mode が Diffserv に設定されている場合にのみ有効になります。

IP ネットワーク内でデータ パケットに持たせる優先順位を定義します。

パケットのプライオリティは、0 ～ 63 です。数字が大きいほど、優先順位が高くなります。データに対する推奨値は 0 (ベスト エフォート) です。これを確認するには、ネットワーク管理者に問い合わせてください。

ここで設定された優先順位は、パケットがローカル ネットワークの管理者によって制御されるネットワークを出るときに上書きされる可能性があります。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: 0

使用方法:

xConfiguration Network n QoS Diffserv Data: Data

説明:

Data: 整数 (0 ～ 63)

IP ネットワーク内のデータ パケットの優先順位を設定します。数字が大きいほど、優先順位が高くなります。デフォルト値は 0 (ベスト エフォート) です。

xConfiguration Network [1] QoS Diffserv Signalling

この設定は、Network QoS Mode が Diffserv に設定されている場合にのみ有効になります。

IP ネットワーク内でリアルタイム処理に不可欠 (時間依存) であると考えられるシグナリング パケットに持たせる優先順位を定義します。

パケットのプライオリティは、0 ～ 63 です。数字が大きいほど、優先順位が高くなります。シグナリングに推奨されるクラスは、10 進数値 24 と等しい CS3 です。これを確認するには、ネットワーク管理者に問い合わせてください。

ここで設定された優先順位は、パケットがローカル ネットワークの管理者によって制御されるネットワークを出るときに上書きされる可能性があります。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: 0

使用方法:

xConfiguration Network n QoS Diffserv Signalling: Signalling

説明:

Signalling: 整数 (0 ～ 63)

IP ネットワーク内のシグナリング パケットの優先順位を設定します。数字が大きいほど、優先順位が高くなります。デフォルト値は 0 (ベスト エフォート) です。

xConfiguration Network [1] QoS Diffserv ICMPv6

この設定は、Network QoS Mode が Diffserv に設定されている場合にのみ有効になります。

IP ネットワーク内で ICMPv6 パケットに持たせる優先順位を定義します。

パケットのプライオリティは、0 ～ 63 です。数字が大きいほど、優先順位が高くなります。ICMPv6 に対する推奨値は 0 (ベスト エフォート) です。これを確認するには、ネットワーク管理者に問い合わせてください。

ここで設定された優先順位は、パケットがローカル ネットワークの管理者によって制御されるネットワークを出るときに上書きされる可能性があります。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: 0

使用方法:

xConfiguration Network n QoS Diffserv ICMPv6: ICMPv6

説明:

ICMPv6: 整数 (0 ～ 63)

IP ネットワーク内の ICMPv6 パケットの優先順位を設定します。数字が大きいほど、優先順位が高くなります。デフォルト値は 0 (ベスト エフォート) です。

xConfiguration Network [1] QoS Diffserv NTP

この設定は、Network QoS Mode が Diffserv に設定されている場合にのみ有効になります。

IP ネットワーク内で NTP パケットに持たせる優先順位を定義します。

パケットのプライオリティは、0 ～ 63 です。数字が大きいほど、優先順位が高くなります。NTP に対する推奨値は 0 (ベスト エフォート) です。これを確認するには、ネットワーク管理者に問い合わせてください。

ここで設定された優先順位は、パケットがローカル ネットワークの管理者によって制御されるネットワークを出るときに上書きされる可能性があります。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: 0

使用方法:

xConfiguration Network n QoS Diffserv NTP: NTP

説明:

NTP: 整数 (0 ～ 63)

IP ネットワーク内の NTP パケットの優先順位を設定します。数字が大きいほど、優先順位が高くなります。デフォルト値は 0 (ベスト エフォート) です。

xConfiguration Network [1] RemoteAccess Allow

リモート アクセスで SSH/Telnet/HTTP/HTTPS からコーデックに許可する IP アドレス (IPv4/IPv6) を定義します。複数の IP アドレスはスペースで区切られます。

ネットワーク マスク (IP 範囲) は <ip address>/N で指定されます。ここで N は IPv4 では 1 ～ 32 の範囲および IPv6 では 1 ～ 128 の範囲を表します。/N は最初の N ビットがセットされたネットワーク マスクの共通インジケータです。たとえば 192.168.0.0/24 は、192.168.0 で開始するどのアドレスとも一致します。これらはアドレスの最初の 24 ビットだからです。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: ""

使用方法:

xConfiguration Network n RemoteAccess Allow: "Allow"

説明:

n: ネットワークを識別するインデックス。範囲: 1..1

Allow: 文字列 (0、255)

有効な IPv4 アドレスまたは IPv6 アドレス。

xConfiguration Network [1] Speed

イーサネット リンク速度を定義します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: Auto

使用方法:

xConfiguration Network n Speed: Speed

説明:

n: ネットワークを識別するインデックス。範囲: 1..1

Speed: Auto/10half/10full/100half/100full/1000full

Auto: リンク速度を自動ネゴシエートします。

10 half: 10 Mbps 半二重に強制リンクします。

10 full: 10 Mbps 全二重に強制リンクします。

100 half: 100 Mbps 半二重に強制リンクします。

100 full: 100 Mbps 全二重に強制リンクします。

1000 full: 1 Gbps 全二重に強制リンクします。

xConfiguration Network [1] VLAN Voice Mode

VLAN 音声モードを定義します。Cisco UCM (Cisco Unified Communications Manager) をプロビジョニング インフラストラクチャとして使用している場合、VLAN Voice Mode が Auto に自動的に設定されます。NetworkServices CDP Mode 設定が Off になっている場合は、Auto モードは機能しないことに注意してください。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: Auto

使用方法:

xConfiguration Network n VLAN Voice Mode: Mode

説明:

n: ネットワークを識別するインデックス。範囲: 1..1

Mode: Auto/Manual/Off

Auto: Cisco Discovery Protocol (CDP) が使用可能な場合は、音声 VLAN に ID を割り当てます。CDP を使用できない場合、VLAN はイネーブルになりません。

Manual: VLAN ID は、Network VLAN Voice VlanId の設定を使用して手動で設定されます。CDP を使用できる場合、手動設定値は、CDP によって割り当てられた値によって置き換えられます。

Off: VLAN はイネーブルになりません。

xConfiguration Network [1] VLAN Voice VlanId

VLAN 音声 ID を定義します。この設定は、Network VLAN Voice Mode が Manual に設定されている場合にのみ有効になります。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: 1

使用方法:

xConfiguration Network n VLAN Voice VlanId: VlanId

説明:

n: ネットワークを識別するインデックス。範囲: 1..1

VlanId: 整数 (1 ~ 4094)

VLAN 音声 ID を設定します。

NetworkServices

xConfiguration NetworkServices CDP Mode

CDP (Cisco Discovery Protocol) デーモンをイネーブルまたはディセーブルにします。CDP をイネーブルにすると、エンドポイントは特定の統計情報とデバイス ID を CDP 対応スイッチにレポートします。CDP をディセーブルにする場合、Network VLAN Voice Mode:Auto 設定は機能しません。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: On

使用方法:

xConfiguration NetworkServices CDP Mode: Mode

説明:

Mode: Off/On

Off: CDP デーモンはディセーブルです。

On: CDP デーモンはイネーブルです。

xConfiguration NetworkServices H323 Mode

システムで H.323 コールの発信および受信を可能にするかどうかを定義します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: On

使用方法:

xConfiguration NetworkServices H323 Mode: Mode

説明:

Mode: Off/On

Off: H.323 コールの発信と受信の可能性をディセーブルにします。

On: H.323 コールの発信と受信の可能性をイネーブルにします (デフォルト)。

xConfiguration NetworkServices HTTP Mode

HTTP または HTTPS (HTTP Secure) プロトコルを使用したビデオ システムへのアクセスを許可するかどうかを定義します。ビデオ システムの Web インターフェイスでは HTTP または HTTPS が使用されることに注意してください。この設定が Off になっている場合は、Web インターフェイスを使用できません。追加のセキュリティ (要求および Web サーバから返されるページの暗号化と復号化) が必要な場合は、HTTPS のみを許可します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: HTTP+HTTPS

使用方法:

xConfiguration NetworkServices HTTP Mode: Mode

説明:

Mode: Off/HTTP+HTTPS/HTTPS

Off: HTTP や HTTPS を介したビデオ システムへのアクセスを許可しません。

HTTP+HTTPS: HTTP と HTTPS の両方を介したビデオ システムへのアクセスを許可します。

HTTPS: HTTPS を介したビデオ システムへのアクセスは許可されますが、HTTP を介したアクセスは許可されません。

xConfiguration NetworkServices NTP Mode

ネットワーク タイム プロトコル (NTP) は、リファレンス タイム サーバにシステムの時刻と日付を同期するために使用されます。時間の更新のために、タイム サーバが定期的に照会されます。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: Auto

使用方法:

xConfiguration NetworkServices NTP Mode: Mode

説明:

Mode: Auto/Manual/Off

Auto: システムは時間を参照するために NTP サーバを使用します。デフォルトでは、サーバアドレスはネットワークの DHCP サーバから取得されます。DHCP サーバが使用されない場合、または DHCP サーバが NTP サーバアドレスを提供しない場合には、NetworkServices NTP Server [n] Address 設定で指定された NTP サーバアドレスが使用されます。

Manual: システムは、NetworkServices NTP Server [n] Address 設定で指定された NTP サーバを使って時間を参照します。

Off: システムは NTP サーバを使用しません。NetworkServices NTP Server [n] Address 設定は無視されます。

xConfiguration NetworkServices NTP Server [1..3] Address

NetworkServices NTP Mode が Manual に設定された場合、および NetworkServices NTP Mode が Auto に設定されアドレスが DHCP サーバから提供されない場合に使用される NTP サーバのアドレスです。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: 0.tandberg.pool.ntp.org

使用方法:

xConfiguration NetworkServices NTP Server n Address: "Address"

説明:

Address: 文字列 (0, 64)

有効な IPv4 アドレス、IPv6 アドレス、または DNS 名。

xConfiguration NetworkServices SIP Mode

システムで SIP コールの発信および受信を可能にするかどうかを定義します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: On

使用方法:

xConfiguration NetworkServices SIP Mode: Mode

説明:

Mode: Off/On

Off: SIP コールの発信と受信の可能性をディセーブルにします。

On: SIP コールの発信と受信の可能性をイネーブルにします (デフォルト)。

xConfiguration NetworkServices SNMP Mode

ネットワーク管理システムでは、管理上の対応を保証する条件についてネットワーク接続デバイス (ルータ、サーバ、スイッチ、プロジェクトなど) を監視するために SNMP (Simple Network Management Protocol) が使用されます。SNMP は、システム設定を説明する管理システム上の変数の形式で管理データを公開します。これらの変数は、その後照会でき (ReadOnly に設定)、管理アプリケーションによって設定できる場合もあります (ReadWrite に設定)。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: ReadOnly

使用方法:

xConfiguration NetworkServices SNMP Mode: Mode

説明:

Mode: Off/ReadOnly/ReadWrite

Off: SNMP ネットワーク サービスをディセーブルにします。

ReadOnly: SNMP ネットワーク サービスを照会のみイネーブルにします。

ReadWrite: SNMP ネットワーク サービスの照会とコマンドの両方をイネーブルにします。

xConfiguration NetworkServices SNMP Host [1..3] Address

最大 3 つの SNMP マネージャのアドレスを定義します。

システムの SNMP エージェント (コーデック内) は、システム ロケーションやシステム接点についてなど、SNMP マネージャ (PC プログラムなど) からの要求に応答します。SNMP トラップはサポートされません。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: " "

使用方法:

xConfiguration NetworkServices SNMP Host n Address: "Address"

説明:

n: SNMP ホストを識別します。最大 3 つの SNMP ホストが許可されます。範囲: 1..3

Address: 文字列 (0, 64)

有効な IPv4 アドレス、IPv6 アドレス、または DNS 名。

xConfiguration NetworkServices SNMP CommunityName

ネットワーク サービス SNMP コミュニティの名前を定義します。SNMP コミュニティ名は SNMP 要求を認証するために使用されます。SNMP 要求は、コーデックの SNMP エージェントから応答を受け取るため、パスワード(大文字と小文字を区別)を持つ必要があります。デフォルトのパスワードは「public」です。Cisco TelePresence 管理スイート(TMS)がある場合、同じ SNMP コミュニティがそこで設定されていることを確認する必要があります。注:SNMP コミュニティのパスワードは大文字と小文字が区別されます。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: ""

使用方法:

xConfiguration NetworkServices SNMP CommunityName: "CommunityName"

説明:

CommunityName: 文字列 (0, 50)

SNMP コミュニティ名。

xConfiguration NetworkServices SNMP SystemContact

ネットワーク サービス SNMP システム接点の名前を定義します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: ""

使用方法:

xConfiguration NetworkServices SNMP SystemContact: "SystemContact"

説明:

SystemContact: 文字列 (0, 50)

SNMP システム接点の名前。

xConfiguration NetworkServices SNMP SystemLocation

ネットワーク サービス SNMP システム ロケーションの名前を定義します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: ""

使用方法:

xConfiguration NetworkServices SNMP SystemLocation: "SystemLocation"

説明:

SystemLocation: 文字列 (0, 50)

SNMP システム ロケーションの名前。

xConfiguration NetworkServices SSH Mode

SSH(セキュア シェル) プロトコルは、コーデックとローカル コンピュータ間でのセキュアな暗号化通信を提供できます。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: On

使用方法:

xConfiguration NetworkServices SSH Mode: Mode

説明:

Mode: Off/On

Off: SSH プロトコルはディセーブルになります。

On: SSH プロトコルはイネーブルになります(デフォルト)。

xConfiguration NetworkServices Telnet Mode

Telnet は、インターネットまたはローカル エリア ネットワーク (LAN) 接続で使用するネットワーク プロトコルです。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: Off

使用方法:

xConfiguration NetworkServices Telnet Mode: Mode

説明:

Mode: Off/On

Off: Telnet プロトコルはディセーブルになります。これが出荷時の設定です。

On: Telnet プロトコルはイネーブルになります。

xConfiguration NetworkServices WelcomeText

Telnet/SSH 経由でコーデックにログインする際に、ユーザに表示する情報を選択します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: On

使用方法:

xConfiguration NetworkServices WelcomeText: WelcomeText

説明:

WelcomeText: Off/On

Off: ようこそテキストは次のとおりです: ログインに成功しました (Login successful)

On: ようこそテキストは次のとおりです: <システム名>; ソフトウェア バージョン; ソフトウェアのリリース日; ログインに成功しました (Login successful)

Peripherals configuration

xConfiguration Peripherals Profile TouchPanels

ビデオ システムに接続されていると想定されるタッチ パネルの数を定義します。この情報はビデオ システムの診断サービスで使用されます。接続されたタッチ パネルの数がこの設定に一致しない場合、診断サービスによって不一致がレポートされます。このバージョンでサポートされるシスコ タッチ コントローラは、1 台のみであることに注意してください。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: Minimum1

使用方法:

xConfiguration Peripherals Profile TouchPanels: TouchPanels

説明:

TouchPanels: NotSet/Minimum1/0/1/2/3/4/5

NotSet: タッチ パネル チェックは実行されません。

Minimum1: 少なくとも 1 台のタッチ パネルがビデオ システムに接続されている必要があります。

0 ~ 5: ビデオ システムに接続されていると想定されるタッチ コントローラの数を選択します。

Phonebook Configuration

xConfiguration Phonebook Server [1] ID

外部の電話帳の名前を定義します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: " "

使用方法:

xConfiguration Phonebook Server n ID: "ID"

説明:

ID: 文字列 (0,64)

外部の電話帳の名前。

xConfiguration Phonebook Server [1] Type

電話帳サーバの種類を選択します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: Off

使用方法:

xConfiguration Phonebook Server n Type: Type

説明:

Type: Off/VCS/TMS/CUCM

Off: 電話帳を使用しません。

VCS: 電話帳が Cisco TelePresence Video Communication Server 上に配置されます。

TMS: 電話帳が Cisco TelePresence Management Suite サーバ上に配置されます。

CUCM: 電話帳が Cisco Unified Communications Manager 上に配置されます。

xConfiguration Phonebook Server [1] URL

外部電話帳サーバのアドレス (URL) を定義します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: " "

使用方法:

xConfiguration Phonebook Server n URL: "URL"

説明:

URL: 文字列 (0,255)

電話帳サーバの有効なアドレス (URL)。

Provisioning configuration

xConfiguration Provisioning Connectivity

この設定は、プロビジョニング サーバからの内部または外部の設定を要求するかどうかを、デバイスが検出する方法を制御します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: Auto

使用方法:

xConfiguration Provisioning Connectivity: Connectivity

説明:

Connectivity: Internal/External/Auto

Internal:内部コンフィギュレーションを要求します。

External:外部コンフィギュレーションを要求します。

Auto:内部または外部のコンフィギュレーションを要求するかどうかを自動的に NAPTR クエリーを使用して検出します。NAPTR の応答に「e」フラグがある場合、外部設定が要求されます。それ以外の場合、内部設定が要求されます。

xConfiguration Provisioning Mode

プロビジョニング システム (外部マネージャ) を使用してビデオ システムを設定できます。これにより、ビデオ会議のネットワーク管理者は複数のビデオ システムを同時に管理することができます。この設定により、使用するプロビジョニング システムの種類を選択します。プロビジョニングは、オフに切り替えることも可能です。詳細については、プロビジョニング システムのプロバイダー/担当者にお問い合わせください。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: Auto

使用方法:

xConfiguration Provisioning Mode: Mode

説明:

Mode: Off/Auto/TMS/VCS/CUCM/Edge

Off:ビデオ システムはプロビジョニング システムによって設定されません。

Auto:プロビジョニング サーバを自動的に選択します。

TMS:TMS (Cisco TelePresence Management System) からビデオ システムに設定をプッシュします。

VCS:VCS (Cisco TelePresence Video Communication Server) からビデオ システムに設定をプッシュします。

CUCM:CUCM (Cisco Unified Communications Manager) からビデオ システムに設定をプッシュします。

Edge:CUCM (Cisco Unified Communications Manager) からビデオ システムに設定をプッシュします。システムは Collaboration Edge インフラストラクチャを経由して CUCM に接続します。

xConfiguration Provisioning LoginName

これは、プロビジョニング サーバとの間でビデオ システム認証に使用されるクレデンシャルのユーザ名部分です。この設定は、プロビジョニング サーバが要求する場合、使用する必要があります。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: ""

使用方法:

xConfiguration Provisioning LoginName: "LoginName"

説明:

LoginName: 文字列 (0, 80)

有効なユーザ名。

xConfiguration Provisioning Password

これは、プロビジョニング サーバとのビデオ システムの認証に使用されるクレデンシャルのパスワード部分です。この設定は、プロビジョニング サーバが要求する場合、使用する必要があります。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: ""

使用方法:

xConfiguration Provisioning Password: "Password"

説明:

Password: 文字列 (0, 64)

有効なパスワード。

xConfiguration Provisioning HttpMethod

プロビジョニングに使用する HTTP 方式を選択します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: POST

使用方法:

xConfiguration Provisioning HttpMethod: HttpMethod

説明:

HttpMethod: GET/POST

GET: プロビジョニング サーバが GET をサポートする場合、GET を選択します。

POST: プロビジョニング サーバが POST をサポートする場合、POST を選択します。

xConfiguration Provisioning ExternalManager Address

外部マネージャ/プロビジョニング システムの IP アドレスまたは DNS 名を定義します。

外部マネージャのアドレス (およびパス) が設定されている場合、システムはスタートアップ時にこのアドレスにメッセージを送信します。このメッセージを受信すると、外部マネージャ/プロビジョニング システムはそのユニットに設定/コマンドを結果として返すことができます。

CUCM または TMS プロビジョニングを使用する場合、外部マネージャ アドレスを自動的に提供するために DHCP サーバをセットアップできます (TMS には DHCP オプション 242、CUCM には DHCP オプション 150)。Provisioning ExternalManager Address で設定されたアドレスは、DHCP によって提供されるアドレスを上書きします。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: ""

使用方法:

xConfiguration Provisioning ExternalManager Address: "Address"

説明:

Address: 文字列 (0, 64)

有効な IPv4 アドレス、IPv6 アドレス、または DNS 名。

xConfiguration Provisioning ExternalManager AlternateAddress

エンドポイントが Cisco Unified Communications Manager (CUCM) でプロビジョニングされており、代替 CUCM が冗長性に利用可能な場合にのみ使用できます。代替 CUCM のアドレスを定義します。主な CUCM が使用できない場合、エンドポイントは代替 CUCM でプロビジョニングされます。主な CUCM が再び使用可能になると、エンドポイントはこの CUCM によってプロビジョニングされます。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: ""

使用方法:

xConfiguration Provisioning ExternalManager AlternateAddress: "AlternateAddress"

説明:

AlternateAddress: 文字列 (0、64)

有効な IPv4 アドレス、IPv6 アドレス、または DNS 名。

xConfiguration Provisioning ExternalManager Protocol

要求を外部マネージャ/プロビジョニング システムに送信するときに HTTP (非セキュア通信) プロトコルを使用するか、HTTPS (セキュア通信) プロトコルを使用するかを定義します。

選択したプロトコルが NetworkServices HTTP Mode 設定で有効になっている必要があります。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: HTTP

使用方法:

xConfiguration Provisioning ExternalManager Protocol: Protocol

説明:

Protocol: HTTPS/HTTP

HTTPS:HTTPS を介して要求を送信します。

HTTP:HTTP を介して要求を送信します。

xConfiguration Provisioning ExternalManager Path

外部マネージャ/プロビジョニング システムへのパスを定義します。いくつかの管理サービスが同じサーバに存在する、つまり同じ外部マネージャのアドレスを共有する場合、この設定が必要です。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: ""

使用方法:

xConfiguration Provisioning ExternalManager Path: "Path"

説明:

Path: 文字列 (0、255)

外部マネージャ/プロビジョニング システムへの有効なパス。

xConfiguration Provisioning ExternalManager Domain

VCS プロビジョニング サーバの SIP ドメインを定義します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: ""

使用方法:

xConfiguration Provisioning ExternalManager Domain: "Domain"

説明:

Domain: 文字列 (0、64)

有効なドメイン名。

Proximity configuration

xConfiguration Proximity Mode

ビデオ システムが超音波ペアリング メッセージを発行するかどうかを決定します。

ビデオ システムが超音波を出すと、プロキシミティ クライアントは、ビデオ システムが近くにあることを検出できます。クライアントを使用するには、少なくとも 1 つのプロキシミティ サービスを有効にする必要があります (Proximity Services 設定を参照)。一般的に、すべてのプロキシミティ サービスを有効にすることをお勧めします。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: On

使用方法:

xConfiguration Proximity Mode: Mode

説明:

Mode: Off/On

Off: ビデオ システムは超音波を出さず、プロキシミティ サービスを使用できません。

On: ビデオ システムは超音波を出し、プロキシミティ クライアントは、ビデオ システムが近くにあることを検出できます。有効化されたプロキシミティ サービスを使用できます。

xConfiguration Proximity Services CallControl

プロキシミティ クライアントの基本的なコール制御機能を有効または無効にします。この設定を有効にすると、プロキシミティ クライアントを使用してコールを制御できます (ダイヤル、ミュート、音量の調整、電話の切断など)。このサービスは、モバイル デバイス (iOS および Android) でサポートされます。この設定が機能するには、Proximity Mode を On にする必要があります。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: Disabled

使用方法:

xConfiguration Proximity Services CallControl: CallControl

説明:

CallControl: Enabled/Disabled

Enabled: プロキシミティ クライアントからのコール制御が有効になります。

Disabled: プロキシミティ クライアントからのコール制御が無効になります。

xConfiguration Proximity Services ContentShare FromClients

プロキシミティ クライアントからのコンテンツ シェアリングを有効または無効にします。この設定を有効にすると、ラップトップ画面の共有など、ビデオ システム上でプロキシミティ クライアントからのコンテンツをワイヤレスに共有できます。このサービスは、ラップトップ (OS X および Windows) でサポートされます。この設定が機能するには、Proximity Mode を On にする必要があります。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: Disabled

使用方法:

xConfiguration Proximity Services ContentShare FromClients: FromClients

説明:

FromClients: Enabled/Disabled

Enabled: プロキシミティ クライアントからのコンテンツ シェアリングが有効になります。

Disabled: プロキシミティ クライアントからのコンテンツ シェアリングが無効になります。

xConfiguration Proximity Services ContentShare ToClients

プロキシミティ クライアントへのコンテンツ シェアリングを有効または無効にします。有効にすると、プロキシミティ クライアントはビデオ システムからプレゼンテーションを受け取ります。詳細をズームインしたり、以前のコンテンツを表示したり、スナップショットを撮ったりできます。このサービスは、モバイル デバイス (iOS および Android) でサポートされます。この設定が機能するには、Proximity Mode を On にする必要があります。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: Disabled

使用方法:

xConfiguration Proximity Services ContentShare ToClients: ToClients

説明:

ToClients: Enabled/Disabled

Enabled: プロキシミティ クライアントへのコンテンツ シェアリングが有効になります。

Disabled: プロキシミティ クライアントへのコンテンツ シェアリングが無効になります。

SerialPort Configuration

xConfiguration SerialPort Mode

シリアル ポート (Micro USB から USB ケーブルへの接続を介して) をイネーブルまたはディセーブルにします。シリアル ポートは 115200 bps、8 データ ビット、パリティなし、1 ストップ ビットを使用します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: On

使用方法:

xConfiguration SerialPort Mode: Mode

説明:

Mode: Off/On

Off: シリアル ポートをディセーブルにします。

On: シリアル ポートをイネーブルにします。

xConfiguration SerialPort LoginRequired

シリアル ポートに接続するときにログインが必要かどうかを定義します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: On

使用方法:

xConfiguration SerialPort LoginRequired: LoginRequired

説明:

LoginRequired: Off/On

Off: ユーザはログインせずに、シリアル ポート経由でコーデックにアクセスできます。

On: シリアル ポート経由でコーデックに接続するときに、ログインが必要です。

SIP Configuration

xConfiguration SIP Authentication UserName

これは、SIP プロキシへの認証に使用されるクレデンシャルのユーザ名部分です。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: ""

使用方法:

xConfiguration SIP Authentication UserName: "UserName"

説明:

UserName: 文字列 (0、128)

有効なユーザ名。

xConfiguration SIP Authentication Password

これは、SIP プロキシへの認証に使用されるクレデンシャルのパスワード部分です。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: ""

使用方法:

xConfiguration SIP Authentication Password: "Password"

説明:

Password: 文字列 (0、128)

有効なパスワード。

xConfiguration SIP DefaultTransport

LAN で使用するトランスポート プロトコルを選択します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: Auto

使用方法:

xConfiguration SIP DefaultTransport: DefaultTransport

説明:

DefaultTransport: TCP/UDP/Tls/Auto

TCP:システムはデフォルトの転送方法として常に TCP を使用します。

UDP:システムはデフォルトの転送方法として常に UDP を使用します。

Tls:システムはデフォルトの転送方法として常に TLS を使用します。TLS 接続の場合、SIP CA リストをビデオ システムにアップロードできます。このような CA リストがシステムにない場合は匿名の Diffie Hellman が使用されます。

Auto:システムは、TLS、TCP、UDP の順序でトランスポート プロトコルを使用して接続を試みます。

xConfiguration SIP DisplayName

これが設定される場合、着信コールは SIP URI ではなく、表示名を報告します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: " "

使用方法:

xConfiguration SIP DisplayName: "DisplayName"

説明:

DisplayName: 文字列 (0、255)

SIP URI の代わりに表示される名前。

xConfiguration SIP Ice Mode

ICE (Interactive Connectivity Establishment、RFC 5245) は、最適化されたメディア パスの検出にエンドポイントで利用できる NAT トラバーサル ソリューションです。このため、音声とビデオの最短ルートがエンドポイント間で常に確保されます。注:ICE は CUCM (Cisco Unified Communication Manager) に登録された場合はサポートされません。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: Auto

使用方法:

xConfiguration SIP Ice Mode: Mode

説明:

Mode: Auto/Off/On

Auto:Auto に設定すると、TURN サーバを指定した場合に ICE がイネーブルになります。そうでない場合 ICE はディセーブルです。

Off:ICE をディセーブルにします。

On:ICE をイネーブルにします。

xConfiguration SIP Ice DefaultCandidate

これは、ICE が使用するメディア ルートを決定するまで (コールの最初の 5 秒まで) エンドポイントがメディアを受け取るデフォルトの IP アドレスです。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: Host

使用方法:

xConfiguration SIP Ice DefaultCandidate: DefaultCandidate

説明:

DefaultCandidate: Host/Rflx/Relay

Host:エンドポイントは固有の IP アドレスでメディアを受信します。

Rflx:エンドポイントは TURN サーバで認識されるパブリック IP アドレスでメディアを受信します。

Relay:エンドポイントは TURN サーバで割り当てられた IP アドレスとポートでメディアを受信し、ICE が完了するまでフォールバックとして使用されます。

xConfiguration SIP ListenPort

SIP TCP/UDP ポートでの着信接続のリッスンをオンまたはオフにします。オフにした場合、エンドポイントは SIP レジストラ (CUCM または VCS) を介してのみ到達可能になります。この設定はデフォルト値のままにすることを推奨します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: On

使用方法:

xConfiguration SIP ListenPort: ListenPort

説明:

ListenPort: Off/On

Off: SIP TCP/UDP ポートでの着信接続のリッスンをオフにします。

On: SIP TCP/UDP ポートでの着信接続のリッスンをオンにします。

xConfiguration SIP Proxy [1..4] Address

プロキシ アドレスは発信プロキシに手動で設定されたアドレスです。完全修飾ドメイン名または IP アドレスを使用することができます。デフォルト ポートは、TCP および UDP の場合は 5060 ですが、もう 1 ポート準備できます。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: " "

使用方法:

xConfiguration SIP Proxy n Address: "Address"

説明:

n: プロキシを識別するインデックス (最大 4 つのプロキシを定義できます)。範囲: 1..4

Address: 文字列 (0、255)

有効な IPv4 アドレス、IPv6 アドレス、または DNS 名。

xConfiguration SIP Turn Server

TURN (Traversal Using Relay NAT) サーバのアドレスを定義します。これはメディア リレー フォールバックとして使用されるほか、エンドポイント固有のパブリック IP アドレスを検出するためにも使用されます。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: " "

使用方法:

xConfiguration SIP Turn Server: "Server"

説明:

Server: 文字列 (0、255)

推奨される形式は DNS SRV レコード (例: _turn._udp.<domain>) です。あるいは、有効な IPv4 アドレスまたは IPv6 アドレスも可能です。

xConfiguration SIP Turn UserName

TURN サーバへのアクセスに必要なユーザ名を定義します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: " "

使用方法:

xConfiguration SIP Turn UserName: "UserName"

説明:

UserName: 文字列 (0、128)

有効なユーザ名。

xConfiguration SIP Turn Password

TURN サーバへのアクセスに必要なパスワードを定義します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: " "

使用方法:

xConfiguration SIP Turn Password: "Password"

説明:

Password: 文字列 (0、128)

有効なパスワード。

xConfiguration SIP URI

SIP URI (Uniform Resource Identifier) は、ビデオ システムの識別に使用されるアドレスです。URI が登録され、SIP サービスによりシステムへの着信コールのルーティングに使用されます。SIP URI 構文は RFC 3261 で定義されています。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: ""

使用方法:

xConfiguration SIP URI: "URI"

説明:

URI: 文字列 (0、255)

SIP URI 構文に準拠したアドレス (URI)。

Standby Configuration

xConfiguration Standby Control

システムがスタンバイ モードに移行するかどうかを定義します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: On

使用方法:

xConfiguration Standby Control: Control

説明:

Control: Off/On

Off: システムはスタンバイ モードを開始しません。

On: スタンバイ遅延がタイム アウトしたときにスタンバイ モードを開始します。Standby Delay を適切な値に設定する必要があります。

xConfiguration Standby Delay

スタンバイ モードに入る前に、システムがアイドル モードのまま経過する時間の長さ (分単位) を定義します。Standby Control がイネーブルである必要があります。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: 10

使用方法:

xConfiguration Standby Delay: Delay

説明:

Delay: 整数 (1 ~ 480)

スタンバイ遅延 (分) を設定します。

xConfiguration Standby BootAction

コーデックの再起動後のカメラの位置を定義します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: DefaultCameraPosition

使用方法:

xConfiguration Standby BootAction: BootAction

説明:

BootAction: None/RestoreCameraPosition/DefaultCameraPosition

None: アクションはありません。

RestoreCameraPosition: ビデオ システムが再起動すると、カメラは再起動前の位置に戻ります。

DefaultCameraPosition: ビデオ システムが再起動すると、カメラは工場出荷時の位置に移動します。

xConfiguration Standby StandbyAction

スタンバイ モードに入るときのカメラ位置を定義します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: PrivacyPosition

使用方法:

xConfiguration Standby StandbyAction: StandbyAction

説明:

StandbyAction: None/PrivacyPosition

None: アクションはありません。

PrivacyPosition: ビデオ システムがスタンバイになると、カメラはプライバシー用の横向き位置に変わります。

xConfiguration Standby WakeupAction

スタンバイ モードを抜けるときのカメラ位置を定義します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: RestoreCameraPosition

使用方法:

xConfiguration Standby WakeupAction: WakeupAction

説明:

WakeupAction: None/RestoreCameraPosition/DefaultCameraPosition

None: アクションはありません。

RestoreCameraPosition: ビデオ システムがスタンバイを抜けると、カメラはスタンバイに入る前の位置に戻ります。

DefaultCameraPosition: ビデオ システムがスタンバイを抜けると、カメラは工場出荷時の位置に移動します。

SystemUnit Configuration

xConfiguration SystemUnit Name

システム名を定義します。コーデックが SNMP エージェントとして機能している場合に、システム名は DHCP 要求でホスト名として送信されます。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: ""

使用方法:

xConfiguration SystemUnit Name: "Name"

説明:

Name: 文字列 (0、50)

システム名を定義します。

Time configuration

xConfiguration Time TimeFormat

時刻形式を定義します。

必要なユーザ ロール: USER

デフォルト値: 24H

使用方法:

xConfiguration Time TimeFormat: TimeFormat

説明:

TimeFormat: 24H/12H

24H: 24 時間の時間フォーマットを設定します。

12H: 12 時間 (AM/PM) の時間フォーマットを設定します。

xConfiguration Time DateFormat

日付形式を定義します。

必要なユーザ ロール: USER

デフォルト値: DD_MM_YY

使用方法:

xConfiguration Time DateFormat: DateFormat

説明:

DateFormat: DD_MM_YY/MM_DD_YY/YY_MM_DD

[DD_MM_YY]: 2010 年 1 月 30 日は「30.01.10」と表示されます。

[MM_DD_YY]: 2010 年 1 月 30 日は「01.30.10」と表示されます。

[YY_MM_DD]: 2010 年 1 月 30 日は「10.01.30」と表示されます。

xConfiguration Time Zone

ビデオ システムの地理的な場所のタイム ゾーンを定義します。値スペースの情報は、tz データベース (別名: IANA タイムゾーン データベース) から取得しています。

必要なユーザ ロール: USER

デフォルト値: Etc/UTC

使用方法:

xConfiguration Time Zone: zone

説明:

zone: Africa/Abidjan, Africa/Accra, Africa/Addis_Ababa, Africa/Algiers, Africa/Asmara, Africa/Asmera, Africa/Bamako, Africa/Bangui, Africa/Banjul, Africa/Bissau, Africa/Blantyre, Africa/Brazzaville, Africa/Bujumbura, Africa/Cairo, Africa/Casablanca, Africa/Ceuta, Africa/Conakry, Africa/Dakar, Africa/Dar_es_Salaam, Africa/Djibouti, Africa/Douala, Africa/El_Aaiun, Africa/Freetown, Africa/Gaborone, Africa/Harare, Africa/Johannesburg, Africa/Juba, Africa/Kampala, Africa/Khartoum, Africa/Kigali, Africa/Kinshasa, Africa/Lagos, Africa/Libreville, Africa/Lome, Africa/Luanda, Africa/Lubumbashi, Africa/Lusaka, Africa/Malabo, Africa/Maputo, Africa/Maseru, Africa/Mbabane, Africa/Mogadishu, Africa/Monrovia, Africa/Nairobi, Africa/Ndjamena, Africa/Niamey, Africa/Nouakchott, Africa/Ouagadougou, Africa/Porto-Novo, Africa/Sao_Tome, Africa/Timbuktu, Africa/Tripoli, Africa/Tunis, Africa/Windhoek, America/Adak, America/Anchorage, America/Anguilla, America/Antigua, America/Araguaina, America/Argentina/Buenos_Aires, America/Argentina/Catamarca, America/Argentina/ComodRivadavia, America/Argentina/Cordoba, America/Argentina/Jujuy, America/Argentina/La_Rioja, America/Argentina/Mendoza, America/Argentina/Rio_Gallegos, America/Argentina/Salta, America/Argentina/San_Juan, America/Argentina/San_Luis, America/Argentina/Tucuman, America/Argentina/Ushuaia, America/Aruba, America/Asuncion, America/Atikokan, America/Atka, America/Bahia, America/Bahia_Banderas, America/Barbados, America/Belem, America/Belize, America/Blanc-Sablon, America/Boa_Vista, America/Bogota, America/Boise, America/Buenos_Aires, America/Cambridge_Bay, America/Campo_Grande, America/Cancun, America/Caracas, America/Catamarca, America/Cayenne, America/Cayman, America/Chicago, America/Chihuahua, America/Coral_Harbour, America/Cordoba, America/Costa_Rica, America/Creston, America/Cuiaba, America/Curacao, America/Danmarkshavn, America/Dawson, America/Dawson_Creek, America/Denver, America/Detroit, America/Dominica, America/Edmonton, America/Eirunepe, America/El_Salvador, America/Ensenada, America/Fort_Wayne, America/Fortaleza, America/Glace_Bay, America/Godthab, America/Goose_Bay, America/Grand_Turk, America/Grenada, America/Guadeloupe, America/Guatemala, America/Guayaquil, America/Guyana, America/Halifax, America/Havana, America/Hermosillo, America/Indiana/Indianapolis, America/Indiana/Knox, America/Indiana/Marengo, America/Indiana/Petersburg, America/Indiana/Tell_City, America/Indiana/Vevay, America/Indiana/Vincennes, America/Indiana/Winamac, America/Indianapolis, America/Inuvik, America/Iqaluit, America/Jamaica, America/Jujuy, America/Juneau, America/Kentucky/Louisville, America/Kentucky/Monticello, America/Knox_IN, America/Kralendijk, America/La_Paz, America/Lima, America/Los_Angeles, America/Louisville, America/

Lower_Princes, America/Maceio, America/Managua, America/Manaus, America/Marigot, America/Martinique, America/Matamoros, America/Mazatlan, America/Mendoza, America/Menominee, America/Merida, America/Metlakatla, America/Mexico_City, America/Miquelon, America/Moncton, America/Monterrey, America/Montevidео, America/Montreal, America/Montserrat, America/Nassau, America/New_York, America/Nipigon, America/Nome, America/Noronha, America/North_Dakota/Beulah, America/North_Dakota/Center, America/North_Dakota/New_Salem, America/Ojinaga, America/Panama, America/Pangnirtung, America/Paramaribo, America/Phoenix, America/Port-au-Prince, America/Port_of_Spain, America/Porto_Acre, America/Porto_Velho, America/Puerto_Rico, America/Rainy_River, America/Rankin_Inlet, America/Recife, America/Regina, America/Resolute, America/Rio_Branco, America/Rosario, America/Santa_Isabel, America/Santarem, America/Santiago, America/Santo_Domingo, America/Sao_Paulo, America/Scoresbysund, America/Shiprock, America/Sitka, America/St_Barthelemy, America/St_Johns, America/St_Kitts, America/St_Lucia, America/St_Thomas, America/St_Vincent, America/Swift_Current, America/Tegucigalpa, America/Thule, America/Thunder_Bay, America/Tijuana, America/Toronto, America/Tortola, America/Vancouver, America/Virgin, America/Whitehorse, America/Winnipeg, America/Yakutat, America/Yellowknife, Antarctica/Casey, Antarctica/Davis, Antarctica/DumontD'Urville, Antarctica/Macquarie, Antarctica/Mawson, Antarctica/McMurdo, Antarctica/Palmer, Antarctica/Rothera, Antarctica/South_Pole, Antarctica/Syowa, Antarctica/Troll, Antarctica/Vostok, Arctic/Longyearbyen, Asia/Aden, Asia/Almaty, Asia/Amman, Asia/Anadyr, Asia/Aqtou, Asia/Aqtobe, Asia/Ashgabat, Asia/Ashkhabad, Asia/Baghdad, Asia/Bahrain, Asia/Baku, Asia/Bangkok, Asia/Beirut, Asia/Bishkek, Asia/Brunei, Asia/Calcutta, Asia/Chita, Asia/Choibalsan, Asia/Chongqing, Asia/Chungking, Asia/Colombo, Asia/Dacca, Asia/Damascus, Asia/Dhaka, Asia/Dili, Asia/Dubai, Asia/Dushanbe, Asia/Gaza, Asia/Harbin, Asia/Hebron, Asia/Ho_Chi_Minh, Asia/Hong_Kong, Asia/Hovd, Asia/Irkutsk, Asia/Istanbul, Asia/Jakarta, Asia/Jayapura, Asia/Jerusalem, Asia/Kabul, Asia/Kamchatka, Asia/Karachi, Asia/Kashgar, Asia/Kathmandu, Asia/Katmandu, Asia/Khandyga, Asia/Kolkata, Asia/Krasnoyarsk, Asia/Kuala_Lumpur, Asia/Kuching, Asia/Kuwait, Asia/Macao, Asia/Macau, Asia/Magadan, Asia/Makassar, Asia/Manila, Asia/Muscat, Asia/Nicosia, Asia/Novokuznetsk, Asia/Novosibirsk, Asia/Omsk, Asia/Oral, Asia/Phnom_Penh, Asia/Pontianak, Asia/Pyongyang, Asia/Qatar, Asia/Qyzylorda, Asia/Rangoon, Asia/Riyadh, Asia/Saigon, Asia/Sakhalin, Asia/Samarkand, Asia/Seoul, Asia/Shanghai, Asia/Singapore, Asia/Srednekolymsk, Asia/Taipei, Asia/Tashkent, Asia/Tbilisi, Asia/Tehran, Asia/Tel_Aviv, Asia/Thimbu, Asia/Thimphu, Asia/Tokyo, Asia/Ujung_Pandang, Asia/Ulaanbaatar, Asia/Ulan_Bator, Asia/Urumqi, Asia/Ust-Nera, Asia/Vientiane, Asia/Vladivostok, Asia/Yakutsk, Asia/Yekaterinburg, Asia/Yerevan, Atlantic/Azores, Atlantic/Bermuda, Atlantic/Canary, Atlantic/Cape_Verde, Atlantic/Faeroe, Atlantic/Faroe, Atlantic/Jan_Mayen, Atlantic/Madeira, Atlantic/Reykjavik, Atlantic/South_Georgia, Atlantic/St_Helena, Atlantic/Stanley, Australia/ACT, Australia/Adelaide, Australia/Brisbane, Australia/Broken_Hill, Australia/Canberra, Australia/Currie, Australia/Darwin, Australia/Eucla, Australia/Hobart, Australia/LHI, Australia/Lindeman, Australia/Lord_Howe, Australia/Melbourne, Australia/NSW, Australia/North, Australia/Perth, Australia/Queensland, Australia/South, Australia/Sydney, Australia/Tasmania, Australia/Victoria, Australia/West, Australia/Yancowinna, Brazil/Acre, Brazil/DeNoronha, Brazil/East, Brazil/West, CET, CST6CDT, Canada/Atlantic, Canada/Central, Canada/East-Saskatchewan, Canada/Eastern, Canada/Mountain, Canada/Newfoundland, Canada/Pacific, Canada/Saskatchewan, Canada/Yukon, Chile/Continental,

Chile/EasterIsland, Cuba, EET, EST, EST5EDT, Egypt, Eire, Etc/GMT, Etc/GMT+0, Etc/GMT+1, Etc/GMT+10, Etc/GMT+11, Etc/GMT+12, Etc/GMT+2, Etc/GMT+3, Etc/GMT+4, Etc/GMT+5, Etc/GMT+6, Etc/GMT+7, Etc/GMT+8, Etc/GMT+9, Etc/GMT-0, Etc/GMT-1, Etc/GMT-10, Etc/GMT-11, Etc/GMT-12, Etc/GMT-13, Etc/GMT-14, Etc/GMT-2, Etc/GMT-3, Etc/GMT-4, Etc/GMT-5, Etc/GMT-6, Etc/GMT-7, Etc/GMT-8, Etc/GMT-9, Etc/GMT0, Etc/Greenwich, Etc/UCT, Etc/UTC, Etc/Universal, Etc/Zulu, Europe/Amsterdam, Europe/Andorra, Europe/Athens, Europe/Belfast, Europe/Belgrade, Europe/Berlin, Europe/Bratislava, Europe/Brussels, Europe/Bucharest, Europe/Budapest, Europe/Busingen, Europe/Chisinau, Europe/Copenhagen, Europe/Dublin, Europe/Gibraltar, Europe/Guernsey, Europe/Helsinki, Europe/Isle_of_Man, Europe/Istanbul, Europe/Jersey, Europe/Kaliningrad, Europe/Kiev, Europe/Lisbon, Europe/Ljubljana, Europe/London, Europe/Luxembourg, Europe/Madrid, Europe/Malta, Europe/Mariehamn, Europe/Minsk, Europe/Monaco, Europe/Moscow, Europe/Nicosia, Europe/Oslo, Europe/Paris, Europe/Podgorica, Europe/Prague, Europe/Riga, Europe/Rome, Europe/Samara, Europe/San_Marino, Europe/Sarajevo, Europe/Simferopol, Europe/Skopje, Europe/Sofia, Europe/Stockholm, Europe/Tallinn, Europe/Tirane, Europe/Tiraspol, Europe/Uzhgorod, Europe/Vaduz, Europe/Vatican, Europe/Vienna, Europe/Vilnius, Europe/Volgograd, Europe/Warsaw, Europe/Zagreb, Europe/Zaporozhye, Europe/Zurich, GB, GB-Eire, GMT, GMT+0, GMT-0, GMT0, Greenwich, HST, Hongkong, Iceland, Indian/Antananarivo, Indian/Chagos, Indian/Christmas, Indian/Cocos, Indian/Comoro, Indian/Kerguelen, Indian/Mahe, Indian/Maldives, Indian/Mauritius, Indian/Mayotte, Indian/Reunion, Iran, Israel, Jamaica, Japan, Kwajalein, Libya, MET, MST, MST7MDT, Mexico/BajaNorte, Mexico/BajaSur, Mexico/General, NZ, NZ-CHAT, Navajo, PRC, PST8PDT, Pacific/Apia, Pacific/Auckland, Pacific/Bougainville, Pacific/Chatham, Pacific/Chuuk, Pacific/Easter, Pacific/Efate, Pacific/Enderbury, Pacific/Fakaofu, Pacific/Fiji, Pacific/Funafuti, Pacific/Galapagos, Pacific/Gambier, Pacific/Guadalcanal, Pacific/Guam, Pacific/Honolulu, Pacific/Johnston, Pacific/Kiritimati, Pacific/Kosrae, Pacific/Kwajalein, Pacific/Majuro, Pacific/Marquesas, Pacific/Midway, Pacific/Nauru, Pacific/Niue, Pacific/Norfolk, Pacific/Noumea, Pacific/Pago_Pago, Pacific/Palau, Pacific/Pitcairn, Pacific/Pohnpei, Pacific/Ponape, Pacific/Port_Moresby, Pacific/Rarotonga, Pacific/Saipan, Pacific/Samoa, Pacific/Tahiti, Pacific/Tarawa, Pacific/Tongatapu, Pacific/Truk, Pacific/Wake, Pacific/Wallis, Pacific/Yap, Poland, Portugal, ROC, ROK, Singapore, Turkey, UCT, US/Alaska, US/Aleutian, US/Arizona, US/Central, US/East-Indiana, US/Eastern, US/Hawaii, US/Indiana-Starke, US/Michigan, US/Mountain, US/Pacific, US/Pacific-New, US/Samoa, UTC, Universal, W-SU, WET, Zulu>

リストからタイムゾーンを選択します。

UserInterface Configuration

xConfiguration UserInterface ContactInfo Type

ディスプレイまたはタッチ コントローラの左上隅にあるステータス フィールドに表示する、連絡先情報の種類を選択します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: Auto

使用方法:

xConfiguration UserInterface ContactInfo Type: Type

説明:

Type: Auto/None/IPv4/IPv6/H323Id/H320Number/E164Alias/SipUri/SystemName/DisplayName

Auto: このビデオ システムに到達するために別のシステムがダイヤルできるアドレスを表示します。アドレスはデフォルトのコール プロトコルおよびシステム登録によって異なります。

None: いずれの連絡先情報も表示しません。

IPv4: システムの IPv4 アドレスを表示します。

IPv6: システムの IPv6 アドレスを表示します。

H323Id: システムの H.323 ID を表示します (H323 H323Alias ID 設定を参照)。

H320Number: 連絡先情報としてシステムの H.320 番号を表示します (Cisco TelePresence ISDN Link に接続されている場合にのみ該当)。

E164Alias: 連絡先情報としてシステムの H.323 E.164 エイリアスを表示します (H323 H323Alias E164 設定を参照)。

SipUri: システムの SIP URI を表示します (SIP URI 設定を参照)。

SystemName: システムの名前を表示します (SystemUnit Name 設定を参照)。

DisplayName: システムの表示名を表示します (SIP DisplayName 設定を参照)。

xConfiguration UserInterface KeyTones Mode

タッチ コントローラでテキストや番号を入力しているときに、キーボード クリック効果音 (キー トーン) が鳴るようにシステムを設定できます。

必要なユーザ ロール: USER

デフォルト値: On

使用方法:

xConfiguration UserInterface KeyTones Mode: Mode

説明:

Mode: Off/On

Off: キー トーン効果音が鳴りません。

On: キー トーン効果音が鳴ります。

xConfiguration UserInterface Language

画面およびタッチ コントローラでメニューやメッセージで使用される言語を選択します。デフォルトの言語は英語です。

必要なユーザ ロール: USER

デフォルト値: English

使用方法:

xConfiguration UserInterface Language: Language

説明:

Language: English/ChineseSimplified/ChineseTraditional/Catalan/Czech/Danish/Dutch/Finnish/
French/German/Hungarian/Italian/Japanese/Korean/Norwegian/Polish/PortugueseBrazilian/
Russian/Spanish/Swedish/Turkish/Arabic/Hebrew

リストから言語を選択します。

xConfiguration UserInterface OSD Output

画面表示用の情報とインジケータ (OSD) をどのモニタに表示するかを定義します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: Auto

使用方法:

xConfiguration UserInterface OSD Output: Output

説明:

Output: Auto/1/2

Auto: システムは、画面表示の情報とインジケータをシステム内蔵 LCD ディスプレイに送信します。

範囲 1 ~ 2: システムは情報とインジケータを指定された出力に送信します。画面表示の情報とインジケータを内蔵 LCD ディスプレイに送信する場合は 1 を選択し、システムの HDMI 出力に接続されたディスプレイに OSD を送信する場合は 2 を選択します。

Video configuration

xConfiguration Video DefaultMainSource

メイン ビデオ ソースとして使用されるビデオ入力ソースを定義します。

必要なユーザ ロール: USER

デフォルト値: 1

使用方法:

xConfiguration Video DefaultMainSource: DefaultMainSource

説明:

DefaultMainSource: 1/2/3

メイン ビデオ ソースとして使用されるソースを設定します。

xConfiguration Video Input Connector [1..4] CameraControl Mode

このビデオ入力コネクタに接続されているカメラを制御するかどうかを定義します。

カメラ制御はコネクタ 2 (HDMI)、コネクタ 3 (HDMI)、およびコネクタ 4 (DVI-I) では使用できないことに注意してください。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: コネクタ 1:On コネクタ 2、3、4:Off

使用方法:

xConfiguration Video Input Connector n CameraControl Mode: Mode

説明:

Mode: コネクタ 1:Off/On コネクタ 2、3、4:Off

Off: カメラ制御をディセーブルにします。

On: カメラ制御をイネーブルにします。

xConfiguration Video Input Connector [1..4] CameraControl CameraId

カメラ ID は、ビデオ入力に接続されたカメラの一意の ID です。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: 1

使用方法:

xConfiguration Video Input Connector n CameraControl CameraId: CameraId

説明:

CameraId: 1

カメラ ID は固定されており、変更できません。

xConfiguration Video Input Connector [1..4] InputSourceType

ビデオ入力に接続された入力ソースのタイプを選択します。

コネクタ 1 はシステムの内蔵カメラであることに注意してください。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: Connector 1:camera その他のコネクタ:PC

使用方法:

xConfiguration Video Input Connector n InputSourceType: InputSourceType

説明:

n: 入力コネクタを識別するインデックス。範囲: 1..4

InputSourceType: コネクタ 1:camera その他のコネクタ: camera/PC/mediaplayer/document_camera/whiteboard/other

camera: カメラがビデオ入力に接続されている場合に使用します。

PC: コンピュータがビデオ入力に接続されている場合に使用します。

mediaplayer: メディア プレーヤーがビデオ入力に接続されている場合に使用します。

document_camera: ドキュメント カメラがビデオ入力に接続されている場合に使用します。

whiteboard: ホワイトボード カメラがビデオ入力に接続されている場合に使用します。

other: 他のオプションが適合しない場合に使用します。

xConfiguration Video Input Connector [1..4] Name

ビデオ入力コネクタの名前を定義します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: ""

使用方法:

xConfiguration Video Input Connector n Name: "Name"

説明:

n: 入力コネクタを識別するインデックス。範囲: 1..4

Name: 文字列 (0, 50)

ビデオ入力コネクタの名前。

xConfiguration Video Input Connector [2..4] Quality

ビデオのエンコード時と伝送時には、高解像度と高フレーム レートとの間にトレード オフが存在します。一部のビデオ ソースでは、高フレーム レートが高解像度より重要である場合や、逆の場合もあります。この設定は、高フレーム レートと高解像度のどちらを優先するかを指定します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: Sharpness

使用方法:

xConfiguration Video Input Connector n Quality: Quality

説明:

n: 入力コネクタを識別するインデックス。範囲: 2..4

Quality: Motion/Sharpness

Motion: できるだけ高いフレーム レートにします。通常、多数の参加者がいる場合や画像の動きが激しい場合など、高フレーム レートが必要なときに使用されます。

Sharpness: できるだけ高い解像度にします。詳細なイメージやグラフィックに高い品質が必要な場合に使用されます。

xConfiguration Video Input Connector [2..4] PresentationSelection

ビデオ入力にプレゼンテーション ソースを接続するときの、ビデオ システムの動作を定義します。

ビデオ システムがスタンバイ モードである場合、プレゼンテーション ソースを接続すると起動します。相手先とプレゼンテーションを共有すると、常に追加アクションが必要となることに注意してください (ユーザ インターフェイスで Share を押します)。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: OnConnect

使用方法:

xConfiguration Video Input Connector n PresentationSelection: PresentationSelection

説明:

n: 入力コネクタを識別するインデックス。範囲: 2..4

PresentationSelection: Manual/OnConnect

Manual: 手動モードでは、ビデオ入力の内容をユーザ インターフェイスから選択するまで画面に表示されません。

OnConnect: OnConnect モードでは、ケーブルが接続されている場合はビデオ入力の内容が画面に表示されます。それ以外の場合は、Manual モードと同じ動作です。

xConfiguration Video Input Connector [1..4] Visibility

ユーザ インターフェイスのメニューにあるビデオ入力コネクタの表示を定義します。

コネクタ 1 はシステムの内蔵カメラであり、プレゼンテーション ソースとして使用できないことに注意してください。

> Video Input Connector 2 Visibility (DVI コネクタ) のデフォルト値は Always です。

> Video Input Connector 3,4 Visibility のデフォルト値は [IfSignal] です。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: コネクタ 1:Never コネクタ 2:Always コネクタ 3,4:IfSignal

使用方法:

xConfiguration Video Input Connector *n* Visibility: Visibility

説明:

Visibility: コネクタ 1:Never コネクタ 2,3,4:Never/Always/IfSignal

Never: 入力ソースがプレゼンテーション ソースとして使用される見込みがない場合、Never に設定します。

Always: Always に設定すると、ビデオ入力コネクタ用メニュー選択はグラフィカル ユーザ インターフェイスに常に表示されます。

IfSignal: IfSignal に設定すると、ビデオ入力コネクタ用メニュー選択は、ビデオ入力に何か接続されている場合のみ表示されます。

xConfiguration Video Monitors

部屋のセットアップで使用するレイアウトの数を反映させるには、モニタ レイアウト モードを定義します。2 番目のモニタがプレゼンテーション用に確保できることに注意してください。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: Auto

使用方法:

xConfiguration Video Monitors: Monitors

説明:

Monitors: Auto/DualPresentationOnly

Auto: 2 番目のモニタが接続されている場合には、レイアウトは 2 台のモニタに分散されます。それ以外の場合は、すべてがメイン モニタに表示されます。

DualPresentationOnly: コールのすべての参加者がメイン モニタに表示されます。プレゼンテーションがレイアウトの一部である場合、プレゼンテーションは 2 番目のモニタに表示されず。

xConfiguration Video Output Connector [2] CEC Mode

ビデオ出力 (HDMI) は、Consumer Electronics Control (CEC) をサポートします。この設定が On の場合 (デフォルトは Off)、システムはシステム自体がスタンバイに移行する際にモニタをスタンバイ状態に設定するために CEC を使用します。同様に、システムがスタンバイから復帰するとき、システム自身がモニタを起動します。これを実現するには、出力に接続されるモニタは CEC と互換性があり、CEC がモニタに設定されている必要があります。

CEC については、製造業者によって異なるマーケティング名称が使用されていることに注意してください。例: Anynet+ (Samsung)、Aquos Link (シャープ)、BRAVIA Sync (Sony)、HDMI-CEC (日立)、Kuro Link (パイオニア)、CE-Link および Regza Link (東芝)、RIHD (オンキヨー)、HDAVI Control、EZ-Sync、VIERA Link (Panasonic)、EasyLink (Philips)、NetCommand for HDMI (三菱)。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: Off

使用方法:

xConfiguration Video Output Connector *n* CEC Mode: Mode

説明:

Mode: Off/On

Off: CEC 制御をディセーブルにします。

On: CEC 制御をイネーブルにします。

xConfiguration Video Output Connector [2] OverscanLevel

モニタによっては、画像全体を表示できない可能性があります。これはモニタに表示したときに、ビデオシステムから送信される画像の外側が、切断されることを意味します。

ビデオシステムに使用可能なフレームの外側を使用しないように指示するには、この設定を使用します。この部分はモニタによって切断されている可能性があります。この場合、画面上のビデオとメッセージの両方が拡大縮小されます。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: None

使用方法:

xConfiguration Video Output Connector n OverscanLevel: OverscanLevel

説明:

OverscanLevel: None/Medium/High

None: ビデオ システムは出力解像度すべてを使用します。

Medium: ビデオ システムは出力解像度の外側 3 % を使用しません。

High: ビデオ システムは出力解像度の外側 6 % を使用しません。

xConfiguration Video Output Connector [1..2] Resolution

Connector 1 (統合型LCDディスプレイ): この値は固定されており、変更できません。

Connector 2: ビデオ システムの HDMI 出力に接続されたモニタの解像度と更新間隔 (リフレッシュ レート) を定義します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: Auto

使用方法:

xConfiguration Video Output Connector n Resolution: Resolution

説明:

Resolution: コネクタ 1: 1920_1080_60 コネクタ 2: Auto/1024_768_60/1280_1024_60/1280_720_50/1280_720_60/1920_1080_50/1920_1080_60/1280_768_60/1360_768_60/1366_768_60

Auto: システムは接続されたモニタのネゴシエーションに基づいて自動的に最適な解像度の設定を試行します。

1280_720_50: 解像度は 1280 X 720、更新間隔は 50 Hz です。

1280_720_60: 解像度は 1280 X 720、更新間隔は 60 Hz です。

1920_1080_50: 解像度は 1920 X 1080、更新間隔は 50 Hz です。

1920_1080_60: 解像度は 1920 X 1080、更新間隔は 60 Hz です。

xConfiguration Video Presentation DefaultSource

デフォルト プレゼンテーション ソースとして使用するビデオ入力ソースを定義します。この設定は API やサードパーティ製ユーザ インターフェイスで使用される場合がありますが、タッチ 10 および TRC6 リモコンを使用する場合は該当しません。

必要なユーザ ロール: USER

デフォルト値: 2

使用方法:

xConfiguration Video Presentation DefaultSource: DefaultSource

説明:

DefaultSource: 2

デフォルト プレゼンテーション ソースとして使用するビデオ入力ソース。

xConfiguration Video Selfview Default Mode

コールの後にメイン ビデオ ソース (セルフビュー) を画面に表示するかどうかを定義します。セルフビュー ウィンドウの位置とサイズはそれぞれ、Video Selfview Default PIPPosition 設定と Video Selfview Default FullscreenMode 設定によって決定されます。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: Current

使用方法:

xConfiguration Video Selfview Default Mode: Mode

説明:

Mode: Off/Current/On

Off: セルフビューはコール退出時にオフにされます。

Current: セルフビューはそのままの状態が残ります。つまりコール中にオンであった場合はコール終了後にもオンのままであり、コール中にオフであった場合はコール終了後にもオフのままです。

On: セルフビューはコール退出時にオンにされます。

xConfiguration Video Selfview Default FullscreenMode

コールの後にメイン ビデオ ソース (セルフビュー) を全画面表示するか、小さいピクチャ イン ピクチャ (PiP) 画面で表示するかを定義します。この設定はセルフビューがオンである場合にのみ適用されます (Video Selfview Default Mode 設定を参照)。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: Current

使用方法:

xConfiguration Video Selfview Default FullscreenMode: FullscreenMode

説明:

FullscreenMode: Off/Current/On

Off: セルフビューは PiP として表示されます。

Current: セルフビューの画像のサイズはコール終了時に未変更の状態に保たれます。つまりコール中に PiP であった場合はコール終了後にも PiP のままであり、コール中に全画面であった場合はコール終了後にも全画面のままです。

On: セルフビューの画像は全画面表示されます。

xConfiguration Video Selfview Default OnMonitorRole

コールの後にメイン ビデオ ソース (セルフビュー) を表示するモニタ/出力を定義します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: Current

使用方法:

xConfiguration Video Selfview Default OnMonitorRole: OnMonitorRole

説明:

OnMonitorRole: First/Second/Current

First: セルフビューの画像はメイン画面に表示されます。

Second: セルフビューの画像はセカンダリ画面に表示されます。

Current: コールを中止すると、セルフビュー画像がコール中と同じ画面上に保持されます。

xConfiguration Video Selfview Default PIPPosition

コールの後のセルフビューの小さいピクチャ イン ピクチャ (PiP) 画面の位置を定義します。この設定は、セルフビューがオンで (Video Selfview Default Mode 設定を参照)、しかもフルスクリーン ビューがオフである場合 (Video Selfview Default FullscreenMode 設定を参照) にのみ適用されます。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: Current

使用方法:

xConfiguration Video Selfview Default PIPPosition: PIPPosition

説明:

PIPPosition: Current/UpperLeft/UpperCenter/UpperRight/CenterLeft/CenterRight/LowerLeft/LowerRight

Current: セルフビュー PiP の位置はコール終了後にも変更されません。

UpperLeft: セルフビュー PiP が画面の左上隅に表示されます。

UpperCenter: セルフビュー PiP が画面の上部中央に表示されます。

UpperRight: セルフビュー PiP が画面の右上隅に表示されます。

CenterLeft: セルフビュー PiP が画面の左中央に表示されます。

CenterRight: セルフビュー PiP が画面の右中央に表示されます。

LowerLeft: セルフビュー PiP が画面の左下隅に表示されます。

LowerRight: セルフビュー PiP が画面の右下隅に表示されます。

xConfiguration Video Selfview OnCall Mode

コールをセットアップする短い間、この設定を使用してセルフ ビューがオンにされます。Video Selfview OnCall Duration 設定は、オンに保持される時間の長さを指定します。これは一般にセルフ ビューがオフの場合に適用されます。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: On

使用方法:

xConfiguration Video Selfview OnCall Mode: Mode

説明:

Mode: Off/On

Off: セルフ ビューはコール セットアップ中に自動的に表示されません。

On: セルフ ビューはコール セットアップ中に自動的に表示されます。

xConfiguration Video Selfview OnCall Duration

この設定は Video Selfview OnCall Mode 設定が On である場合のみ有効です。この場合、ここで設定された秒数により、自動的にオフにされる前にセルフ ビューが表示される期間が決まります。

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルト値: 10

使用方法:

xConfiguration Video Selfview OnCall Duration: Duration

説明:

Duration: 整数 (1 ~ 60)

範囲: セルフ ビューをオンにする期間を選択します。有効な範囲は、1 ~ 60 秒です。

第 4 章

xCommand コマンド

xCommand コマンドの説明

この章には、xCommand タイプのコマンドとそのパラメータがすべて記載されています。

定期的にシスコの Web サイトにアクセスし、マニュアルの更新バージョンについて確認することを推奨します。

URL: <http://www.cisco.com/go/mx-docs>

Audio コマンド	82
xCommand Audio Microphones Mute	82
xCommand Audio Microphones Unmute	82
xCommand Audio SoundsAndAlerts Ringtone List	82
xCommand Audio SoundsAndAlerts Ringtone Play	82
xCommand Audio Volume Decrease	82
xCommand Audio Volume Increase	82
xCommand Audio Volume Mute	82
xCommand Audio Volume Set	83
xCommand Audio Volume SetToDefault	83
xCommand Audio Volume Unmute	83
Booking コマンド	83
xCommand Bookings Clear	83
xCommand Bookings List	83
Call コマンド	84
xCommand Call Accept	84
xCommand Call DTMFSend	84
xCommand Call Disconnect	84
xCommand Call FarEndControl Camera Move	84
xCommand Call FarEndControl Camera Stop	85
xCommand Call FarEndControl RoomPreset Activate	85
xCommand Call FarEndControl Source Select	85
xCommand Call Hold	85

xCommand Call Ignore	86
xCommand Call Join	86
xCommand Call Reject	86
xCommand Call Resume	86
xCommand Call UnattendedTransfer	86

CallHistory コマンド	87
xCommand CallHistory AcknowledgeAllMissedCalls	87
xCommand CallHistory AcknowledgeMissedCall	87
xCommand CallHistory DeleteAll	87
xCommand CallHistory DeleteEntry	87
xCommand CallHistory Get	88
xCommand CallHistory Recents	88

Camera コマンド	89
xCommand Camera PositionReset	89
xCommand Camera Preset Activate	89
xCommand Camera Preset ActivateDefaultPosition	89
xCommand Camera Preset Edit	90
xCommand Camera Preset List	90
xCommand Camera Preset Remove	90
xCommand Camera Preset Show	91
xCommand Camera Preset Store	91
xCommand Camera Ramp	92
xCommand Camera TriggerAutofocus	92



Conference コマンド	93	xCommand Phonebook Folder Delete	100
xCommand Conference DoNotDisturb Activate	93	xCommand Phonebook Folder Modify	101
xCommand Conference DoNotDisturb Deactivate	93	xCommand Phonebook Search	101
xCommand Conference SpeakerLock Release	93		
xCommand Conference SpeakerLock Set	93	Presentation コマンド	102
		xCommand Presentation Start	102
Diagnostics コマンド	94	xCommand Presentation Stop	102
xCommand Diagnostics Run	94		
Dial コマンド	94	Provisioning コマンド	103
xCommand Dial	94	xCommand Provisioning CompleteUpgrade	103
		xCommand Provisioning PostponeUpgrade	103
HttpFeedback コマンド	95	xCommand Provisioning CUCM CTL Delete	103
xCommand HttpFeedback Deregister	95	xCommand Provisioning CUCM CTL Show	103
xCommand HttpFeedback Register	95	xCommand Provisioning StartUpgrade	103
Peripherals コマンド	95	Proximity コマンド	104
xCommand Peripherals Connect	95	xCommand Proximity Services Activate	104
xCommand Peripherals HeartBeat	96	xCommand Proximity Services Deactivate	104
xCommand Peripherals List	96		
xCommand Peripherals Pairing DeviceDiscovery Start	96	RoomPreset コマンド	104
xCommand Peripherals Pairing Pair	96	xCommand RoomPreset Activate	104
xCommand Peripherals Pairing Unpair	97	xCommand RoomPreset Clear	104
xCommand Peripherals Purge	97	xCommand RoomPreset Store	105
Phonebook コマンド	97	Security コマンド	105
xCommand Phonebook Contact Add	97	xCommand Security Persistency	105
xCommand Phonebook Contact Delete	98		
xCommand Phonebook Contact Modify	98	Standby コマンド	106
xCommand Phonebook ContactMethod Add	99	xCommand Standby Activate	106
xCommand Phonebook ContactMethod Delete	99	xCommand Standby Deactivate	106
xCommand Phonebook ContactMethod Modify	100	xCommand Standby ResetTimer	106
xCommand Phonebook Folder Add	100		



SystemUnit コマンド	106	xCommand Video Matrix Assign	113
xCommand SystemUnit Boot	106	xCommand Video Matrix Reset	113
xCommand SystemUnit FactoryReset	106	xCommand Video Matrix Swap	114
xCommand SystemUnit Notifications RemoveAll	107	xCommand Video Matrix Unassign	114
xCommand SystemUnit OptionKey Add	107	xCommand Video PresentationPIP Set	114
xCommand SystemUnit OptionKey Remove	107	xCommand Video Selfview Set	114
xCommand SystemUnit OptionKey RemoveAll	107		
xCommand SystemUnit SoftwareUpgrade	107		
 Time コマンド	 108		
xCommand Time DateTime Get	108		
xCommand Time DateTime Set	108		
 UserInterface コマンド	 108		
xCommand UserInterface Message Alert Clear	108		
xCommand UserInterface Message Alert Display	108		
xCommand UserInterface Message Prompt Clear	109		
xCommand UserInterface Message Prompt Display	109		
xCommand UserInterface Message Prompt Response	110		
xCommand UserInterface Message TextLine Clear	110		
xCommand UserInterface Message TextLine Display	110		
 UserManagement コマンド	 111		
xCommand UserManagement RemoteSupportUser Create	111		
xCommand UserManagement RemoteSupportUser Delete	111		
xCommand UserManagement RemoteSupportUser DisablePermanently	111		
xCommand UserManagement RemoteSupportUser GetState	111		
xCommand UserManagement User Passphrase Change	111		
xCommand UserManagement User Passphrase Set	112		
 Video コマンド	 112		
xCommand Video ActiveSpeakerPIP Set	112		
xCommand Video Input SetMainVideoSource	112		
xCommand Video Input Source SetActiveConnector	113		
xCommand Video Layout LayoutFamily Set	113		

Audio コマンド

xCommand Audio Microphones Mute

すべてのマイクをミュートにします。

必要なユーザ ロール: USER

使用方法:

```
xCommand Audio Microphones Mute
```

xCommand Audio Microphones Unmute

マイクのミュートを解除します。

必要なユーザ ロール: USER

使用方法:

```
xCommand Audio Microphones Unmute
```

xCommand Audio SoundsAndAlerts Ringtone List

xConfiguration Audio SoundsAndAlerts RingTone を使用して設定できる、使用可能なすべての着信音をリストします。

必要なユーザ ロール: USER

使用方法:

```
xCommand Audio SoundsAndAlerts Ringtone List
```

xCommand Audio SoundsAndAlerts Ringtone Play

使用可能な呼出音の 1 つを再生します。使用可能な呼出音のリストを取得するには、コマンド xCommand Audio SoundsAndAlerts Ringtone List を使用します。

必要なユーザ ロール: USER

使用方法:

```
xCommand Audio SoundsAndAlerts Ringtone Play RingTone: RingTone
```

説明:

RingTone: 文字列 (1、100)

呼出音の名前。

xCommand Audio Volume Decrease

エンドポイントの音量を下げます。

必要なユーザ ロール: USER

使用方法:

```
xCommand Audio Volume Decrease [Steps: Steps]
```

説明:

Steps: 整数 (1 ~ 10)

1 ステップは、音量を 0.5 dB 下げることに対応します。

xCommand Audio Volume Increase

エンドポイントの音量を上げます。

必要なユーザ ロール: USER

使用方法:

```
xCommand Audio Volume Increase [Steps: Steps]
```

説明:

手順: 整数 (1 ~ 10)

1 ステップは、音量を 0.5dB 上げることに相当します。

xCommand Audio Volume Mute

エンドポイントの音量をミュートします。

必要なユーザ ロール: USER

使用方法:

```
xCommand Audio Volume Mute
```

xCommand Audio Volume Set

エンドポイントの音量を指定されたレベルに設定します。

必要なユーザ ロール: USER

使用方法:

xCommand Audio Volume Set Level: Level

説明:

Level: 整数 (0 ~ 100)

ゲイン レベルを選択します。デフォルトのレベル 70 は 0 dB ゲインに相当します。レベル 100 は 15 db ゲインに相当します。

xCommand Audio Volume SetToDefault

エンドポイントのデフォルトとして現在の音量レベルを設定します。

必要なユーザ ロール: USER

使用方法:

xCommand Audio Volume SetToDefault

xCommand Audio Volume Unmute

ミュートから復帰後のエンドポイントの音量を設定します。

必要なユーザ ロール: USER

使用方法:

xCommand Audio Volume Unmute

Booking コマンド

xCommand Bookings Clear

現在の予約の保存されたリストを消去します。

必要なユーザ ロール: USER

使用方法:

xCommand Bookings Clear

xCommand Bookings List

システムに保存された予約を表示します。予約の詳細のリストは管理システムから受信されます。すべてのパラメータはオプションで、検索結果を制限するために使用できます。

パラメータを指定しない場合、過去、現在、将来の予約がすべて表示されます。昨日より前の予約をリストしないようにするには、DayOffset = 0 を使用します。

必要なユーザ ロール: USER

使用方法:

xCommand Bookings List [Days: Days] [DayOffset: DayOffset] [Limit: Limit]
[Offset: Offset]

説明:

Days: 整数 (1 ~ 365)

予約を取得する日数。

DayOffset: 整数 (0 ~ 365)

検索を開始する日 (今日:0、明日:1...)。

Limit: 整数 (1 ~ 65534)

リストする予約の最大数。

Offset: 整数 (0 ~ 65534)

この検索の予約のオフセット番号。

Call コマンド

xCommand Call Accept

着信コールを受け入れます。CallId が指定されない場合、すべての着信コールが受け入れられます。

必要なユーザ ロール: USER

使用方法:

```
xCommand Call Accept [CallId: CallId]
```

説明:

CallId: 整数 (0 ~ 65534)

CallId は xCommand Dial コマンドが実行された場合に返されます。コール中に xStatus Call コマンドを実行して CallId を表示できます。

xCommand Call DTMFSend

遠端に DTMF トーンを送信します。

必要なユーザ ロール: USER

使用方法:

```
xCommand Call DTMFSend [CallId: CallId] DTMFString: "DTMFString"
```

説明:

CallId: 整数 (0 ~ 65534)

CallId は xCommand Dial コマンドが実行された場合に返されます。コール中に xStatus Call コマンドを実行して CallId を表示できます。

DTMFString: 文字列 (0、32)

DTMF スtringを入力します。

xCommand Call Disconnect

コールを接続解除します。

必要なユーザ ロール: USER

使用方法:

```
xCommand Call Disconnect [CallId: CallId]
```

説明:

CallId: 整数 (0 ~ 65534)

CallId は xCommand Dial コマンドが実行された場合に返されます。コール中に xStatus Call コマンドを実行して CallId を表示できます。

xCommand Call FarEndControl Camera Move

遠端カメラ (リモート カメラ) を動かします。

注: 遠端カメラは停止コマンド (参照: xCommand FarEndControl Camera Stop) が発行されるまで、指定された方向に移動します。

必要なユーザ ロール: USER

使用方法:

```
xCommand Call FarEndControl Camera Move [CallId: CallId] Value: Value
```

説明:

CallId: 整数 (0 ~ 65534)

CallId は xCommand Dial コマンドが実行された場合に返されます。コール中に xStatus Call コマンドを実行して CallId を表示できます。

Value: Left/Right/Up/Down/ZoomIn/ZoomOut

カメラを移動する方法のアクションを選択します。

xCommand Call FarEndControl Camera Stop

xCommand FarEndControl Camera Move が発行された後に遠端カメラを停止します。

必要なユーザ ロール: USER

使用方法:

```
xCommand Call FarEndControl Camera Stop [CallId: CallId]
```

説明:

CallId: 整数 (0 ~ 65534)

CallId は xCommand Dial コマンドが実行された場合に返されます。コール中に xStatus Call コマンドを実行して CallId を表示できます。

xCommand Call FarEndControl RoomPreset Activate

通話中に、遠端コーデックのプリセットをアクティブにするためにこのコマンドが使用されます。このプリセットは、遠端コーデックのカメラ位置と入力ビデオ切り替えの設定を対象とします。

遠端コーデックでローカルに xCommand Preset Store コマンドを使用するか、またはリモート コーデックから xCommand FarEndControl Preset Store コマンドを使用して、プリセットを事前に遠端コーデックに保存しておく必要があります。

注: FarEndControl コマンドが機能するように、遠端コーデック™の xConfiguration Conference FarEndControl Mode 設定を On に切り替える必要があります。

必要なユーザ ロール: USER

使用方法:

```
xCommand Call FarEndControl RoomPreset Activate [CallId: CallId] PresetId: PresetId
```

説明:

CallId: 整数 (0 ~ 65534)

CallId は、マルチポイント コールの場合にのみ、遠端コーデックを識別するために必要です。CallId は、xCommand Dial コマンドを発行した場合に返されます。コール中に xStatus Call コマンドを実行して CallId を表示できます。

PresetId: 整数 (1 ~ 15)

遠端コーデックに保存されているプリセットの ID。

xCommand Call FarEndControl Source Select

遠端システムの主なソースとして使用するビデオ入力ソースを選択します。

必要なユーザ ロール: USER

使用方法:

```
xCommand Call FarEndControl Source Select [CallId: CallId] SourceId: SourceId
```

説明:

CallId: 整数 (0 ~ 65534)

CallId は xCommand Dial コマンドが実行された場合に返されます。コール中に xStatus Call コマンドを実行して CallId を表示できます。

SourceId: 整数 (0 ~ 15)

遠端のビデオ入力ソースを選択します。

xCommand Call Hold

コールを保留にします。

必要なユーザ ロール: USER

使用方法:

```
xCommand Call Hold [CallId: CallId] [Reason: Reason]
```

説明:

CallId: 整数 (0 ~ 65534)

CallId は xCommand Dial コマンドが実行された場合に返されます。コール中に xStatus Call コマンドを実行して CallId を表示できます。

Reason: Conference/Transfer/Other

社内使用のみ。

xCommand Call Ignore

着信コールの呼出音をオフにします。コールには引き続き応答できます。

必要なユーザ ロール: USER

使用方法:

xCommand Call Ignore CallId: CallId

説明:

CallId: 整数 (0 ~ 65534)

CallId は xCommand Dial コマンドが実行された場合に返されます。コール中に xStatus Call コマンドを実行して CallId を表示できます。

xCommand Call Join

社内使用のみ。

必要なユーザ ロール: USER

使用方法:

xCommand Call Join CallId: CallId

説明:

CallId: 整数 (0 ~ 65534)

xCommand Call Reject

着信コールを拒否します。コール ID が指定されない場合、すべての着信コールが拒否されます。

必要なユーザ ロール: USER

使用方法:

xCommand Call Reject [CallId: CallId]

説明:

CallId: 整数 (0 ~ 65534)

CallId は xCommand Dial コマンドが実行された場合に返されます。コール中に xStatus Call コマンドを実行して CallId を表示できます。

xCommand Call Resume

保留されていたコールを再開します。

必要なユーザ ロール: USER

使用方法:

xCommand Call Resume CallId: CallId

説明:

CallId: 整数 (0 ~ 65534)

CallId は xCommand Dial コマンドが実行された場合に返されます。コール中に xStatus Call コマンドを実行して CallId を表示できます。

xCommand Call UnattendedTransfer

通話中のコールを他の参加者に転送します。SIP コールに対してのみ完全にサポートされます。

必要なユーザ ロール: USER

使用方法:

xCommand Call UnattendedTransfer CallId: CallId Number: "Number"

説明:

CallId: 整数 (0 ~ 65534)

CallId は xCommand Dial コマンドが実行された場合に返されます。コール中に xStatus Call コマンドを実行して CallId を表示できます。

Number: 文字列 (0、255)

コールを転送する番号。

CallHistory コマンド

xCommand CallHistory AcknowledgeAllMissedCalls

すべての不在着信に対し、タッチ コントローラの不在着信インジケータをオフにします。

必要なユーザ ロール: USER

使用方法:

```
xCommand CallHistory AcknowledgeAllMissedCalls
```

xCommand CallHistory AcknowledgeMissedCall

特定のコールに対し、タッチ コントローラの不在着信インジケータをオフにします。

必要なユーザ ロール: USER

使用方法:

```
xCommand CallHistory AcknowledgeMissedCall CallHistoryId: CallHistoryId
[AcknowledgeConsecutiveDuplicates: AcknowledgeConsecutiveDuplicates]
```

説明:

CallHistoryId: 整数 (1 ~ 2147483647)

当該通話の CallHistoryId。ID 番号を取得するには xCommand CallHistory Get を実行します。

AcknowledgeConsecutiveDuplicates: False/True

重複する情報が含まれるすべての関連コールを含めるか除外することができます。

xCommand CallHistory DeleteAll

以前のコールのすべての情報を削除します。

必要なユーザ ロール: USER

使用方法:

```
xCommand CallHistory DeleteAll [Filter: Filter]
```

説明:

Filter: All/Missed/Placed/Received

削除するコールをフィルタリングできます。

xCommand CallHistory DeleteEntry

指定したコールのすべての情報を削除します。

必要なユーザ ロール: USER

使用方法:

```
xCommand CallHistory DeleteEntry CallHistoryId: CallHistoryId
[AcknowledgeConsecutiveDuplicates: AcknowledgeConsecutiveDuplicates]
```

説明:

CallHistoryId: 整数 (1 ~ 2147483647)

当該通話の CallHistoryId。ID 番号を取得するには xCommand CallHistory Get を実行します。

AcknowledgeConsecutiveDuplicates: False/True

重複する情報が含まれるすべての関連コールを含めるか除外することができます。

xCommand CallHistory Get

ビデオ システムで行われた以前のコールのすべての情報を取得します。

必要なユーザ ロール: USER

使用方法:

```
xCommand CallHistory Get [Filter: Filter] [Offset: Offset] [Limit: Limit]
[DetailLevel: DetailLevel] [SearchString: "SearchString"] [CallHistoryId:
CallHistoryId]
```

説明:

Filter: All/Missed/AnsweredElsewhere/Forwarded/Placed/NoAnswer/Received/Rejected/UnacknowledgedMissed

取得するコールをフィルタリングできます。

Offset: 整数 (0 ～ 65534)

開始するコールを設定します。

Limit: 整数 (0 ～ 65534)

出力におけるコールの量を定義します。

DetailLevel: Basic/Full

これらのコールの情報の詳細レベルを設定します。

SearchString: 文字列 (0、255)

指定した表示名またはコールバック番号に適用されるコマンドを設定できます。

CallHistoryId: 整数 (0 ～ 65534)

当該通話の CallHistoryId。

xCommand CallHistory Recents

ビデオ システムで行われた以前のコールの集約情報を取得します。

必要なユーザ ロール: USER

使用方法:

```
xCommand CallHistory Recents Filter: Filter] [Offset: Offset] [Limit: Limit]
[DetailLevel: DetailLevel] [SearchString: "SearchString"] [CallHistoryId:
CallHistoryId] [Order: Order]
```

説明:

Filter: All/Missed/AnsweredElsewhere/Forwarded/Placed/NoAnswer/Received/Rejected/UnacknowledgedMissed

取得するコールをフィルタリングできます。

Offset: 整数 (0 ～ 65534)

開始するコールを設定します。

Limit: 整数 (0 ～ 65534)

出力におけるコールの量を定義します。

DetailLevel: Basic/Full

これらのコールの情報の詳細レベルを設定します。

SearchString: 文字列 (0、255)

指定した表示名またはコールバック番号に適用されるコマンドを設定できます。

CallHistoryId: 整数 (0 ～ 65534)

当該通話の CallHistoryId。

Order: OccurrenceTime/OccurrenceFrequency

以前のコールが表示される順序を定義します。

Camera コマンド

xCommand Camera PositionReset

カメラの位置をデフォルトの位置にリセットします。

必要なユーザ ロール: USER

使用方法:

```
xCommand Camera PositionReset [Axis: Axis] CameraId: CameraId
```

説明:

Axis: All/Focus/PanTilt/Zoom

リセットするモーターを選択します。指定しない場合、すべてがリセットされます。

CameraId: 整数 (1 ~ 1)

リセットするカメラ プリセットの ID。

xCommand Camera Preset Activate

保存されたカメラ プリセットの 1 つをアクティブにします。

xCommand Camera Preset コマンドは個々のカメラに適用されることに注意してください。これは、単一のプリセットがすべての接続カメラとビデオ入力スイッチャの設定を対象とする xCommand Preset コマンドとは対照的です。

必要なユーザ ロール: USER

使用方法:

```
xCommand Camera Preset Activate PresetId: PresetId
```

説明:

PresetId: 整数 (1 ~ 35)

アクティブにするカメラ プリセットの ID。

xCommand Camera Preset ActivateDefaultPosition

カメラをデフォルトの位置 (定義されている場合) に設定します。デフォルトの位置は、xCommand Camera Preset Store または xCommand Camera Preset Edit で定義されます。カメラごとに定義できるデフォルトの位置は 1 つだけです。

必要なユーザ ロール: USER

使用方法:

```
xCommand Camera Preset ActivateDefaultPosition [CameraId: CameraId]
```

説明:

CameraId: 整数 (1 ~ 1)

アクティブにするカメラ プリセットの ID。CameraId が指定されていない場合は、すべてのカメラがそれぞれのデフォルトの位置 (定義されている場合) に設定されます。

xCommand Camera Preset Edit

保存されているカメラ プリセットを編集します。カメラ プリセットの名前と、xCommand Camera Preset List コマンドで返されるリスト内の位置を変更できます。このプリセットを関連付けられているカメラのデフォルトの位置にするかどうかを変更できます。

xCommand Camera Preset コマンドは個々のカメラに適用されることに注意してください。これは、単一のプリセットがすべての接続カメラとビデオ入力スイッチャの設定を対象とする xCommand Preset コマンドとは対照的です。

必要なユーザ ロール: USER

使用方法:

```
xCommand Camera Preset Edit PresetId: PresetId [ListPosition: ListPosition
Name: "Name"] [DefaultPosition: DefaultPosition]
説明:
```

PresetId: 整数 (1 ~ 35)

編集するカメラ プリセットの ID。

ListPosition: 整数 (1 ~ 35)

xCommand Camera Preset List コマンドによって返されるリスト内の位置。

Name: 文字列 (0、255)

カメラ プリセットの名前。これは、xCommand Camera Preset List コマンドによって返されるリストで使用されます。

DefaultPosition: False/True

このプリセットを関連付けられているカメラのデフォルトの位置にするかどうかを定義します。それぞれのカメラに設定できるデフォルトの位置は 1 つだけなので、設定すると、古いデフォルトのプリセットが自動的にデフォルトのものではないとマークされることに注意してください。

xCommand Camera Preset List

使用可能なカメラ プリセットに関する情報をリストします。

xCommand Camera Preset コマンドは個々のカメラに適用されることに注意してください。これは、単一のプリセットがすべての接続カメラとビデオ入力スイッチャの設定を対象とする xCommand Preset コマンドとは対照的です。

必要なユーザ ロール: USER

使用方法:

```
xCommand Camera Preset List CameraId: CameraId [DefaultPosition:
DefaultPosition]
説明:
```

CameraId: 整数 (1 ~ 1)

指定したカメラのプリセットのみをリストします。

DefaultPosition: False/True

デフォルトの位置のみ、またはデフォルトの位置ではないもののみをリストします。

xCommand Camera Preset Remove

カメラ プリセットを削除します。

xCommand Camera Preset コマンドは個々のカメラに適用されることに注意してください。これは、単一のプリセットがすべての接続カメラとビデオ入力スイッチャの設定を対象とする xCommand Preset コマンドとは対照的です。

必要なユーザ ロール: USER

使用方法:

```
xCommand Camera Preset Remove PresetId: PresetId
説明:
```

PresetId: 整数 (1 ~ 35)

削除するカメラ プリセットの ID。

xCommand Camera Preset Show

要求された PresetId のプリセットの詳細を示します。

必要なユーザ ロール: USER

使用方法:

xCommand Camera Preset Show PresetId: PresetId

説明:

PresetId: 整数 (1 ~ 35)

確認したいカメラ プリセットの ID。

xCommand Camera Preset Store

選択したカメラの現在位置 (パン、チルト)、ズームおよびフォーカスを保存します。カメラは、CameraId パラメータで識別されます。

xCommand Camera Preset コマンドは個々のカメラに適用されることに注意してください。これは、単一のプリセットがすべての接続カメラとビデオ入力スイッチャの設定を対象とする xCommand Preset コマンドとは対照的です。xCommand Camera Preset コマンドは、カメラ位置の完全なセットを使用して作業するのではなく、カメラごとに複数のカメラ位置を個別に処理したい場合に役立ちます。個々のカメラ プリセットは遠端制御に使用できません。

必要なユーザ ロール: USER

使用方法:

xCommand Camera Preset Store [PresetId: PresetId] CameraId: CameraId
[ListPosition: ListPosition] Name: "Name" [TakeSnapshot: TakeSnapshot]
[DefaultPosition: DefaultPosition]

説明:

PresetId: 整数 (1 ~ 35)

このカメラ プリセットの ID。明示的に設定しないと、コーデックはプリセット ID を自動的に割り当てます。

CameraId: 整数 (1 ~ 1)

プリセット位置を保存するカメラを選択します。

ListPosition: 整数 (1 ~ 35)

xCommand Camera Preset List コマンドによって返されるリスト内の新しいカメラ プリセットの位置。

Name: 文字列 (0, 255)

新しいカメラ プリセットの名前。これは、xCommand Camera Preset List コマンドによって返されるリストで使用されます。

TakeSnapshot: False/True

プレビューのスナップショットを許可または拒否します。

DefaultPosition: False/True

このプリセットを関連付けられているカメラのデフォルトの位置にすべきかどうかを定義します。それぞれのカメラに設定できるデフォルトの位置は 1 つだけなので、設定すると、古いデフォルトのプリセットが自動的にデフォルトのものではないとマークされることに注意してください。

xCommand Camera Ramp

指定された方向にカメラを移動します。カメラは指定した速度で停止コマンドが発行されるまで移動します。デジジー チェーンでは、指定するカメラの **Camerald** を知っておく必要があります。パンとチルトは同時に操作できますが、その他の組み合わせはできないことに注意してください。後者の場合、指定された最初の動作だけ実行されます。たとえば、ズームとパンの両方を同時に実行しようとすると、ズームだけが実行されます。

注: カメラを停止するには停止コマンドを実行する必要があります。下の例を参照してください。

必要なユーザ ロール: USER

使用方法:

```
xCommand Camera Ramp CameraId: CameraId [Pan: Pan] [PanSpeed: PanSpeed] [Tilt: Tilt] [TiltSpeed: TiltSpeed] [Zoom: Zoom] [ZoomSpeed: ZoomSpeed] [Focus: Focus]
```

説明:

Camerald: 整数 (1 ~ 1)

カメラを選択します。

Pan: Left/Right/Stop

カメラを左右に移動します。その後停止します。

PanSpeed: 整数 (1 ~ 15)

パンの速度を設定します。

Tilt: Down/Up/Stop

カメラを上下に移動します。その後停止します。

TiltSpeed: 整数 (1 ~ 15)

チルト速度を設定します。

Zoom: In/Out/Stop

カメラをズームインまたはズームアウトします。その後停止します。

ZoomSpeed: 整数 (1 ~ 15)

ズーム速度を設定します。

Focus: Far/Near/Stop

カメラの焦点を遠くにまたは近くに合わせます。その後停止します。

xCommand Camera TriggerAutofocus

オートフォーカス機能をトリガーします。カメラが、オートフォーカス機能をサポートしている必要があります。カメラがデジジー チェーン接続されている場合、チェーンでの位置によって **Camerald** が指定されます。

必要なユーザ ロール: USER

使用方法:

```
xCommand Camera TriggerAutofocus CameraId: CameraId
```

説明:

Camerald: 整数 (1 ~ 1)

カメラをオートフォーカスに選択します。

Conference コマンド

xCommand Conference DoNotDisturb Activate

このコマンドは着信拒否モードをオンにし、Timeout パラメータによっていつ再びオフにするかを制御できます。着信拒否がオンの場合、すべての着信コールは拒否され、不在着信として登録されます。発信者はビジー信号を受信します。

必要なユーザ ロール: USER

使用方法:

```
xCommand Conference DoNotDisturb Activate [Timeout: Timeout]
```

説明:

Timeout: 整数 (0 ~ 1440)

着信拒否がオフにされるまでの分数を設定します。設定されない場合、着信拒否は 1440 分 (24 時間) 後にタイムアウトになります。

xCommand Conference DoNotDisturb Deactivate

着信拒否モードをオフにします。着信拒否がオフになると、着信コールは通常どおり着信します。

必要なユーザ ロール: USER

使用方法:

```
xCommand Conference DoNotDisturb Deactivate
```

xCommand Conference SpeakerLock Release

xCommand Conference SpeakerLock Set によって設定されたロックされたスピーカーを解除します。デフォルトの音声スイッチングが再びオンになります。

必要なユーザ ロール: USER

使用方法:

```
xCommand Conference SpeakerLock Release
```

xCommand Conference SpeakerLock Set

スピーカーの 1 人を目立つスピーカーの位置に手動でロックする場合。これでデフォルトの音声スイッチングが上書きされます。

必要なユーザ ロール: USER

使用方法:

```
xCommand Conference SpeakerLock Set Target: Target [CallId: CallId]
```

説明:

Target: local/remote

ローカルまたはリモート参加者を識別します。

CallId: 整数 (0 ~ 65534)

リモート参加者の CallID を識別します。Target が「remote」に設定されている場合にのみ該当します。

Diagnostics コマンド

xCommand Diagnostics Run

このコマンドは、システムの自己診断コマンドを実行します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

使用方法:

```
xCommand Diagnostics Run [ResultSet: ResultSet]
```

説明:

ResultSet: Alerts/All/None

診断結果をアラート、アラート (Alerts)、すべて (All)、またはなし (None) にフィルタリングできます。設定されていない場合、すべての結果が表示されます。

Dial コマンド

xCommand Dial

システムからダイヤルします。他のコマンドの一部に必要な CallId および Conferenceld に関する情報を返します。

必要なユーザ ロール: USER

使用方法:

```
xCommand Dial Number: "Number" [Protocol: Protocol] [CallRate: CallRate]  
[CallType: CallType] [BookingId: "BookingId"] [Appearance: Appearance]  
[DisplayName: "DisplayName"]
```

説明:

Number: 文字列 (0、255)

番号またはアドレスを入力します。

Protocol: H320/H323/Sip

コール プロトコルを選択します。

CallRate: 整数 (64 ~ 6000)

帯域を設定します。

CallType: Audio/Video

コール タイプを選択します。

BookingId: 文字列 (0、255)

外部予約システム (TMS、CTS-MAN など) が、着信コールと予約システムの会議用内部 ID との照合での自己参照に使用可能な ID。これは任意の文字列にできます (GUID など)。予約 ID はコールのコール ログ、コール イベントなどで提供されます。

Appearance: 整数 (1 ~ 999999999)

社内使用のみ。

DisplayName: 文字列 (0、255)

リモート参加者の表示名。

HttpFeedback コマンド

xCommand HttpFeedback Deregister

HTTP(S) を介した XML フィードバックの登録を解除します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

使用方法:

```
xCommand HttpFeedback Deregister FeedbackSlot: FeedbackSlot
```

説明:

FeedbackSlot: 整数 (1 ~ 4)

フィードバックのため、1 ~ 4 個のスロットを指定できます。

xCommand HttpFeedback Register

特定の URL に HTTP(S) で XML フィードバックを返すため、HTTP(S) サーバにシステムを登録します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

使用方法:

```
xCommand HttpFeedback Register [FeedbackSlot: FeedbackSlot] ServerUrl:
"ServerUrl" [Expression[1..15]: "Expression[1..15]"]
```

説明:

FeedbackSlot: 整数 (1 ~ 4)

フィードバックのため、1 ~ 4 個のスロットを指定できます。

ServerUrl: 文字列 (1、2048)

HTTP(S) サーバの URL を定義します。

Expression[1..15]: 文字列 (1、255)

XPath 表現は、ステータスおよびコンフィギュレーション XML ドキュメントのどの部分をモニタ対象とするかを指定します。1 ~ 15 の XPath 表現を指定できます。

Peripherals コマンド

xCommand Peripherals Connect

制御システムやタッチパネルなど、コーデックに接続された周辺機器を登録します。登録された周辺機器は、Web インターフェイスで Configuration > Peripherals の下に表示されます。

このコマンドは、周辺機器がコーデックに初めて接続された場合、または周辺機器のソフトウェアバージョンが変更された場合に使用する必要があります。接続されたデバイスのリストは、コマンド xStatus Peripherals ConnectedDevice [n] Status を使用して入手できます。

必要なユーザ ロール: USER

使用方法:

```
xCommand Peripherals Connect [HardwareInfo: "HardwareInfo"] ID: "ID" [Name:
"Name"] [NetworkAddress: "NetworkAddress"] [SerialNumber: "SerialNumber"]
[SoftwareInfo: "SoftwareInfo"] Type: Type
```

説明:

HardwareInfo: 文字列 (0、100)

デバイス™のハードウェア番号。

ID: 文字列 (1、100)

接続先のデバイスの一意の ID (通常は MAC アドレス)。

Name: 文字列 (0、100)

デバイスの名前を定義します。

NetworkAddress: 文字列 (0、100)

接続先のデバイスのネットワーク アドレス。

SerialNumber: 文字列 (0、100)

デバイス™のシリアル番号。

SoftwareInfo: 文字列 (0、100)

デバイスで実行されているソフトウェア バージョン。

Type: Byod/ControlSystem/Other/TouchPanel

接続先のデバイスのタイプを定義します。

xCommand Peripherals HeartBeat

周辺機器が接続されたデバイスとして登録される場合は、コーデックにそれがまだ接続されていることを知らせるために、ハートビートをコーデックに送信するように設定できます。

これによって、デバイスは xStatus Peripherals ConnectedDevice リスト上に保持されます。周辺機器がハートビートを送信するように設定されていない場合、そのデバイスはしばらくするとリストに表示されなくなります。

注:カメラには適用されません。

必要なユーザ ロール: USER

使用方法:

xCommand Peripherals HeartBeat ID: "ID" [Timeout: Timeout]

説明:

ID: 文字列 (1、100)

接続先のデバイスの一意の ID (通常は MAC アドレス)。

Timeout: 整数 (1 ~ 65535)

デバイスがハートビートを送信する時間を設定します。

xCommand Peripherals List

すべての現在および過去に接続された周辺機器をリストします。

必要なユーザ ロール: ADMIN

使用方法:

xCommand Peripherals List [Connected: Connected] [Type: Type]

説明:

Connected: False/True

現在接続されているデバイスに検索を制限します。

Type: All/ControlSystem/ISDNLink/Other/TouchPanel

デバイス タイプによる検索を制限します。

xCommand Peripherals Pairing DeviceDiscovery Start

同じネットワーク内の ISDN リンクを検出するためのデバイス検出を開始します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

使用方法:

xCommand Peripherals Pairing DeviceDiscovery Start [AutoPairing: AutoPairing]
[DeviceType: DeviceType] [Timeout: Timeout]

説明:

AutoPairing: On/Off]

検出されたデバイスをエンドポイントに自動的にペアリングすることを選択できます。

DeviceType: ISDNLink

ISDN リンクの検索のみ。

Timeout: 整数 (3 ~ 60)

検索の最大時間を 3 ~ 60 秒で設定します。

xCommand Peripherals Pairing Pair

ISDN リンクをエンドポイントにペアリングします。

必要なユーザ ロール: ADMIN

使用方法:

xCommand Peripherals Pairing Pair MacAddress: MacAddress

説明:

MacAddress: 文字列 (1、1450)

エンドポイントにペアリングする ISDN リンクの MAC アドレスを入力します。

xCommand Peripherals Pairing Unpair

両者が接触する場合は、ISDN リンクからエンドポイントのペアリングを解除します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

使用方法:

xCommand Peripherals Pairing Unpair MacAddress: "MacAddress"

説明:

MacAddress: 文字列 (1、100)

MacAddress: エンドポイントからペアリングを解除する ISDN リンクの MAC アドレスを入力します。

xCommand Peripherals Purge

接続が失われたときに、ISDN リンクから強制的にエンドポイントのペアリングを解除します。注: 別のエンドポイントにペアリングできるように、ISDN リンクのペアリングも解除する必要があります。

必要なユーザ ロール: USER

使用方法:

xCommand Peripherals Purge ID: "ID"

説明:

ID: 文字列 (1、100)

形式「xx:xx:xx:xx:xx:xx」の ISDN リンクの MAC アドレス。

Phonebook コマンド

xCommand Phonebook Contact Add

必要なユーザ ロール: USER

使用方法:

xCommand Phonebook Contact Add Name: "Name" [FolderId: "FolderId"] [ImageURL: "ImageURL"] [Title: "Title"] [Number: "Number"] [Protocol: "Protocol"] [CallRate: "CallRate"] [CallType: CallType] [Device: Device] [Tag: Tag]

説明:

Name: 文字列 (0、255)

連絡先の名前。

FolderId: 文字列 (0、255)

連絡先を保存するフォルダの固有識別子。ID は xCommand Phonebook Search コマンドによって返されます。また、フォルダの作成のために xCommand Phonebook Folder Add コマンドが発行された場合にも返されます。

ImageURL: 文字列 (0、255)

現在は使用されていません。

Title: 文字列 (0、255)

連絡先の役職。

Number: 文字列 (0、255)

連絡先の電話番号またはアドレス。

Protocol: Auto/H320/H323/SIP

Auto、SIP、H323 または H320 プロトコルを選択します。

CallRate: 整数 (0 ~ 6000)

帯域を設定します。

CallType: Audio/Video

コール タイプを選択します (オーディオまたはビデオ)。

Device: Mobile/Other/Telephone/Video

デバイス タイプを選択します。

Tag: Untagged/Favorite

連絡先をお気に入りとしてタグ付けするか、またはすでにマークした連絡先のタグを解除します。

xCommand Phonebook Contact Delete

ローカル電話帳から既存の連絡先を削除します。

必要なユーザ ロール: USER

使用方法:

xCommand Phonebook Contact Delete ContactId: "ContactId"

説明:

ContactId: 文字列 (0、255)

連絡先の固有識別子。ID は、xCommand Phonebook Search コマンドによって返されます。また、連絡先の作成のために xCommand Phonebook Contact Add コマンドが発行された場合にも返されます。

xCommand Phonebook Contact Modify

ローカル電話帳の既存の連絡先の連絡先の詳細を変更します。Name、FolderId、ImageUrl および Title パラメータは、このコマンドを使用して変更できます。Number、Protocol、CallRate、CallType および Device パラメータを変更するには、xCommand Phonebook ContactMethod Modify コマンドを使用する必要があります。

必要なユーザ ロール: USER

使用方法:

xCommand Phonebook Contact Modify ContactId: "ContactId" [Name: "Name"]
[FolderId: "FolderId"] [ImageUrl: "ImageUrl"] [Title: "Title"] [Tag: Tag]

説明:

ContactId: 文字列 (0、255)

変更する連絡先の固有識別子。ID は、xCommand Phonebook Search コマンドによって返されます。また、連絡先の作成のために xCommand Phonebook Contact Add コマンドが発行された場合にも返されます。

Name: 文字列 (0、255)

連絡先の名前。

FolderId: 文字列 (0、255)

フォルダの固有識別子です。ID は、xCommand Phonebook Search コマンドによって返されます。また、xCommand Phonebook Folder Add コマンドが発行された場合にも返されます。

ImageUrl: 文字列 (0、255)

現在は使用されていません。

Title: 文字列 (0、255)

連絡先の役職。

Tag: Untagged/Favorite

連絡先をお気に入りとしてタグ付けするか、またはすでにマークした連絡先のタグを解除します。

xCommand Phonebook ContactMethod Add

ローカル電話帳の既存の連絡先の連絡先の詳細を追加します。コマンドによって `ContactMethodId` が返されます。これは、連絡方法を識別する一意の文字列で、通常の形式は「n」です。

1 つの連絡先に複数の連絡方法を追加できます。最初の連絡方法だけが Cisco TelePresence タッチ コントローラのお気に入りリストに表示されることに注意してください。連絡先を作成するために xCommand Phonebook Contact Add コマンドを発行したときに、最初の連絡方法が作成されている場合があります。すべての連絡方法は、API および Web インターフェイスで使用できます。

必要なユーザ ロール: USER

使用方法:

```
xCommand Phonebook ContactMethod Add ContactId: "ContactId" [Device: Device]
Number: "Number" [Protocol: Protocol] [CallRate: CallRate] [CallType: CallType]
説明:
```

ContactId: 文字列 (0, 255)

連絡方法を追加する連絡先の固有識別子。ID は、xCommand Phonebook Search コマンドによって返されます。また、連絡先の作成のために xCommand Phonebook Contact Add コマンドが発行された場合にも返されます。

Device: Mobile/Other/Telephone/Video

コール先デバイスのタイプを設定します。

Number: 文字列 (0, 255)

連絡先の電話番号またはアドレス。

Protocol: Auto/H320/H323/SIP

Auto、SIP、H323 または H320 プロトコルを選択します。

CallRate: 整数 (0 ~ 6000)

帯域を設定します。

CallType: Audio/Video

コール タイプを選択します (オーディオまたはビデオ)。

xCommand Phonebook ContactMethod Delete

ローカル電話帳の既存の連絡先から連絡方法を削除します。

必要なユーザ ロール: USER

使用方法:

```
xCommand Phonebook ContactMethod Delete ContactId: "ContactId" ContactMethodId:
"ContactMethodId"
```

説明:

ContactId: 文字列 (0, 255)

変更する連絡先の固有識別子。ID は、xCommand Phonebook Search コマンドによって返されます。また、連絡先の作成のために xCommand Phonebook Contact Add コマンドが発行された場合にも返されます。

ContactMethodId: 文字列 (0, 255)

削除する連絡方法の固有識別子。ID は、xCommand Phonebook Search コマンドによって返されます。また、連絡方法の作成のために xCommand Phonebook ContactMethod Add コマンドが発行された場合にも返されます。

xCommand Phonebook ContactMethod Modify

ローカル電話帳の既存の連絡先の連絡方法に関する詳細を変更します。

必要なユーザ ロール: USER

使用方法:

```
xCommand Phonebook ContactMethod Modify ContactId: "ContactId" ContactMethodId:
"ContactMethodId" [Device: Device] [Number: "Number"] [Protocol: Protocol]
[CallRate: CallRate] [CallType: CallType]
```

説明:

ContactId: 文字列 (0、255)

連絡先の固有識別子。ID は、xCommand Phonebook Search コマンドによって返されます。また、連絡先の作成のために xCommand Phonebook Contact Add コマンドが発行された場合にも返されます。

ContactMethodId: 文字列 (0、255)

変更する連絡方法の固有識別子。ID は、xCommand Phonebook Search コマンドによって返されます。また、連絡方法の作成のために xCommand Phonebook ContactMethod Add または xCommand Phonebook Contact Add コマンドが発行された場合にも返されます。

Device: Mobile/Other/Telephone/Video

コール先デバイスのタイプを設定します。

Number: 文字列 (0、255)

連絡先の電話番号またはアドレス。

Protocol: Auto/H320/H323/SIP

Auto、SIP、H323 または H320 プロトコルを選択します。

CallRate: 整数 (0 ~ 6000)

帯域を設定します。

CallType: Audio/Video

コール タイプを選択します (オーディオまたはビデオ)。

xCommand Phonebook Folder Add

電話帳エントリはフォルダに保存できます。このコマンドを使用して、フォルダをローカル電話帳に追加します。コマンドによって **FolderId** が返されます。これは、フォルダを識別する一意の文字列で、通常の形式は「localGroupId-n」です。

必要なユーザ ロール: USER

使用方法:

```
xCommand Phonebook Folder Add Name: "Name" [ParentFolderId: "ParentFolderId"]
```

説明:

Name: 文字列 (0、255)

フォルダの名前。

ParentFolderId: 文字列 (0、255)

親フォルダの固有識別子。ID は、xCommand Phonebook Search コマンドによって返されます。また、親フォルダの作成のために xCommand Phonebook Folder Add コマンドが発行された場合にも返されます。

xCommand Phonebook Folder Delete

ローカル電話帳から既存のフォルダを削除します。

必要なユーザ ロール: USER

使用方法:

```
xCommand Phonebook Folder Delete FolderId: "FolderId"
```

説明:

FolderId: 文字列 (0、255)

フォルダの固有識別子。ID は、xCommand Phonebook Search コマンドによって返されます。また、フォルダの作成のために xCommand Phonebook Folder Add コマンドが発行された場合にも返されます。

xCommand Phonebook Folder Modify

既存の電話帳フォルダを変更します。

必要なユーザ ロール: USER

使用方法:

```
xCommand Phonebook Folder Modify FolderId: "FolderId" [Name: "Name"]
[ParentFolderId: "ParentFolderId"]
```

説明:

FolderId: 文字列 (0、255)

フォルダの固有識別子。ID は、xCommand Phonebook Search コマンドによって返されます。また、フォルダの作成のために xCommand Phonebook Folder Add コマンドが発行された場合にも返されます。

Name: 文字列 (0、255)

連絡先の名前。

ParentFolderId: 文字列 (0、255)

親フォルダの固有識別子。ID は、xCommand Phonebook Search コマンドによって返されます。また、親フォルダの作成のために xCommand Phonebook Folder Add コマンドが発行された場合にも返されます。

xCommand Phonebook Search

検索コマンドで、ローカルおよび社内電話帳のどちらでも検索することができます。検索は **ResultSet** を提供します。

フォルダおよび連絡先の総数 (**TotalRows**) は、ローカル電話帳の検索時に常に結果セットに含まれています。社内電話帳を検索する場合は、フォルダおよび連絡先の総数が含まれていない場合があります。含まれているかどうかは、バックエンド社内電話帳サービス (CUCM、VCS、TMS など) とそのバージョンによって決まります。

必要なユーザ ロール: USER

使用方法:

```
xCommand Phonebook Search [PhonebookId: "PhonebookId"] [PhonebookType:
PhonebookType] [SearchString: "SearchString"] [SearchField: SearchField]
[Offset: Offset] [FolderId: "FolderId"] [Limit: Limit] [Recursive: Recursive]
[ContactType: ContactType] [Tag: Tag]
```

説明:

PhonebookId: 文字列 (0、255)

検索する電話帳サーバの ID。xConfiguration Phonebook Server ID の設定を参照してください。

PhonebookType: Corporate/Local

ローカル電話帳を検索するか、または社内電話帳を検索するかを定義します。

SearchString: 文字列 (0、255)

この文字列を含むエントリの検索 (エントリはこのストリングで始まる必要がないことに注意してください)。FolderId が指定されない場合、すべてのフォルダ/電話帳のディレクトリが検索されます。

SearchField: Name/Number

現在は使用されていません。

Offset: 整数 (0 ~ 65534)

検索のこのオフセットで始まるレコードを取得します。デフォルト値は 0 です。Offset は、ページ移動をサポートするために Limit とともに使用されます。

FolderId: 文字列 (0、255)

指定のフォルダだけを検索します。FolderId (文字列) が、フォルダを含む検索結果の **ResultSet** にリストされます。

Limit: 整数 (0 ~ 65534)

結果セットのレコード数をこの数値に制限します。たとえば、制限を 10 に設定すると、ヒットの総数がそれよりも大きくても、**ResultSet** には 10 エントリしか含まれません (連絡先とフォルダ)。最大制限数は 1000 です。

Recursive: False/True

このパラメータは、ローカル電話帳を検索する場合にのみ影響します。この設定によって、ローカル電話帳の検索を特定の FolderId に制限するか、またはそのサブフォルダでも再帰的に検索するかどうかが決まります。指定しない場合、検索は再帰的になります。

パラメータを指定せずにコマンドを発行すると、ローカル電話帳のすべてのフォルダ、連絡先および連絡方法が返されます。

ContactType: Any/Folder/Contact

すべての連絡先タイプを検索するか、またはフォルダまたは個別の連絡先への検索に制限します。

Tag: Untagged/Favorite

お気に入りとしてタグ付けされている連絡先またはタグ付けされていない連絡先への検索に制限します。

Presentation コマンド

xCommand Presentation Start

選択されたプレゼンテーションソースからのメディアストリームを開きます。

必要なユーザロール: USER

使用方法:

```
xCommand Presentation Start [PresentationSource: PresentationSource]  
[SendingMode: SendingMode] [ConnectorId: ConnectorId] [Instance: Instance ]
```

説明:

PresentationSource: 整数 (1 ~ 2)

ソース番号で識別される、プレゼンテーションに使用されるビデオ入力ソースを選択します。

SendingMode: LocalRemote/LocalOnly

プレゼンテーションをローカルで表示するか、またはローカルおよびリモートで表示するかを選択します。

ConnectorId: 整数 (2 ~ 4)

connectorId で識別される、プレゼンテーションに使用されるビデオ入力ソースを選択します。

Instance: New/1/2/3/4/5/6

開始するローカル プレゼンテーション インスタンスを選択します。

xCommand Presentation Stop

プレゼンテーションソースからのメディアストリームを停止します。

必要なユーザロール: USER

使用方法:

```
xCommand Presentation Stop [インスタンス(Instance) : インスタンス(Instance) ]  
[PresentationSource: PresentationSource]
```

説明:

インスタンス (Instance) : 1/2/3/4/5/6

プレゼンテーション インスタンスで識別される、停止するローカル プレゼンテーションを選択します。

PresentationSource: 整数 (1 ~ 2)

ソース番号で識別される、停止するローカル プレゼンテーションを選択します。

Provisioning コマンド

xCommand Provisioning CompleteUpgrade

設定されているより前にソフトウェア アップグレードをインストールしたい場合に、インストールを開始します。

必要なユーザ ロール: USER

使用方法:

```
xCommand Provisioning CompleteUpgrade
```

xCommand Provisioning PostponeUpgrade

ソフトウェア アップグレードのインストールを延期します。

必要なユーザ ロール: USER

使用方法:

```
xCommand Provisioning PostponeUpgrade SecondsToPostpone: SecondsToPostpone
```

説明:

SecondsToPostpone: 整数 (0 ~ 65534)

アップグレードを延期する時間を設定します。値は秒単位です。

xCommand Provisioning CUCM CTL Delete

保存されている CTL および ITL ファイルを削除します (CTL: 証明書信頼リスト、ITL: ID 信頼リスト)。

必要なユーザ ロール: USER

使用方法:

```
xCommand Provisioning CUCM CTL Delete
```

xCommand Provisioning CUCM CTL Show

インストールされている証明書信頼リスト ファイル (CTL) の内容を表示します (ある場合)。表示される各エントリには、1 つの特定の証明書に関する情報が含まれます。証明書が CTL で削除されている場合、出力では適宜マークされます。

必要なユーザ ロール: USER

使用方法:

```
xCommand Provisioning CUCM CTL Show
```

xCommand Provisioning StartUpgrade

コーデックのソフトウェアはプロビジョニング サーバからアップグレードできます。アップグレードを開始すると、ソフトウェアは自動的にダウンロードおよびインストールされます。コーデックは、ソフトウェア アップグレードを完了するためにリポートします。

必要なユーザ ロール: USER

使用方法:

```
xCommand Provisioning StartUpgrade
```

Proximity コマンド

xCommand Proximity Services Activate

xCommand Proximity Services Deactivate で非アクティブにしたプロキシミティ サービスを再アクティブ化します。

必要なユーザ ロール: USER

使用方法:

```
xCommand Proximity Services Activate
```

xCommand Proximity Services Deactivate

このコマンドはエンドポイント上のすべてのプロキシミティ サービスを非アクティブにします。プロキシミティ サービスを再アクティブ化するには、コマンド xCommand Proximity Services Activate を使用します。

必要なユーザ ロール: USER

使用方法:

```
xCommand Proximity Services Deactivate
```

RoomPreset コマンド

xCommand RoomPreset Activate

ローカルで保存されたプリセットの 1 つをアクティブにします。

すべてのビデオ入力ソースに関する情報と、すべてのカメラのパン、チルト、ズームおよびフォーカス値に関する情報は同じプリセットに含まれています。これに対して、xCommand Camera Preset コマンドは、個々のカメラのみに適用されます。

必要なユーザ ロール: USER

使用方法:

```
xCommand RoomPreset Activate PresetId: PresetId
```

説明:

PresetId: 整数 (1 ~ 15)

アクティブにするプリセットの ID。

xCommand RoomPreset Clear

プリセットを削除します。

すべてのビデオ入力ソースに関する情報と、すべてのカメラのパン、チルト、ズームおよびフォーカス値に関する情報は同じプリセットに含まれています。これに対して、xCommand Camera Preset コマンドは、個々のカメラのみに適用されます。

必要なユーザ ロール: USER

使用方法:

```
xCommand RoomPreset Clear PresetId: PresetId
```

説明:

PresetId: 整数 (1 ~ 15)

削除するプリセットの ID。

xCommand RoomPreset Store

すべてのビデオ入力ソースのコネクタの選択、およびすべてのカメラの現在の位置（パンおよびチルト）、ズームおよびフォーカス値を保存します。

すべてのビデオ入力ソースに関する情報と、すべてのカメラのパン、チルト、ズームおよびフォーカス値に関する情報は同じプリセットに含まれています。システムは、15 の事前定義された当該ビデオ入力プリセットを保持できます。これらのプリセットは遠端制御に使用できます。つまり、xCommand FarEndControl Preset Activate コマンドの PresetId パラメータで参照されます。これに対して、xCommand Camera Preset コマンドは、個々のカメラのみに適用されます。それらのプリセットは遠端制御に使用できません。

必要なユーザ ロール： USER

使用方法：

xCommand RoomPreset Store [Description: "Description"] PresetId: PresetId Type: Type

説明：

Description: 文字列 (0, 255)

カメラ プリセットの説明を入力します。

PresetId: 整数 (1 ～ 15)

このプリセットの ID。

Type: All/Camera

適用なしプリセットがカメラ位置にのみ影響するようにするには、Camera を選択することを推奨します。

Security コマンド

xCommand Security Persistency

次の機能を永続モードまたは非永続モードに設定します。非永続モードでは、指定された機能で収集された情報はシステムの再起動後は維持されません。永続モードがデフォルト設定です。このコマンドによって、システムが再起動します。

必要なユーザ ロール： ADMIN

使用方法：

xCommand Security Persistency Configurations: Configurations CallHistory: CallHistory InternalLogging: InternalLogging LocalPhonebook: LocalPhonebook DHCP: DHCP ConfirmAndReboot: ConfirmAndReboot

説明：

Configurations: NonPersistent/Persistent

非永続モードでは、システムを再起動するとすべての設定がデフォルトに戻されます。

CallHistory: NonPersistent/Persistent

非永続モードでは、システムの再起動時に通話履歴が削除されます。

InternalLogging: NonPersistent/Persistent

非永続モードでは、システムの再起動時にイベントログが削除されます。

LocalPhonebook: NonPersistent/Persistent

非永続モードでは、システムの再起動時にローカル電話帳が削除されます。

DHCP: NonPersistent/Persistent

非永続モードでは、システムの再起動時にすべての IP 関連情報が削除されます。

ConfirmAndReboot: ○

システムをリブートします。

Standby コマンド

xCommand Standby Activate

システムをスタンバイ モードに設定します。つまり、ビデオ出力をオフにし、カメラをスリープ モードにします。

必要なユーザ ロール: USER

使用方法:

```
xCommand Standby Activate
```

xCommand Standby Deactivate

システムをスタンバイ モードからウェークアップさせます。

必要なユーザ ロール: USER

使用方法:

```
xCommand Standby Deactivate
```

xCommand Standby ResetTimer

一時的なスタンバイ遅延を設定します。リセット タイマーが設定されたときにシステムがスタンバイ モードである場合、システムはスタンバイ モードからウェークアップされます。指定された遅延時間アイドル状態のままのとき、システムはスタンバイ モードに入ります。リセット タイマーの設定は、Advanced configuration メニューの Standby Delay (または xConfiguration Standby Delay による) に影響を与えません。次回は、この遅延が有効なスタンバイ遅延になります。

必要なユーザ ロール: USER

使用方法:

```
xCommand Standby ResetTimer Delay: Delay
```

説明:

Delay: 整数 (1 ~ 480)

遅延を分単位で設定します。

SystemUnit コマンド

xCommand SystemUnit Boot

システムをリブートします。

必要なユーザ ロール: USER

使用方法:

```
xCommand SystemUnit Boot [Action: Action]
```

Action:

アクション: Restart/Shutdown

デフォルトとしてリブートするとシステムが再起動します。Shutdown を選択すると、システムは再起動しません。

xCommand SystemUnit FactoryReset

工場出荷時設定にコーデックをリセットします。コールのログは削除され、システム パラメータはすべてデフォルト値にリセットされます。コーデックにアップロードされていたファイルは、すべて削除されます。オプション キーは影響を受けません。

デフォルトとして工場出荷時状態にリセットするとシステムは再起動しますが、別の TrailingAction の選択によって、他の動作を強制できます。

必要なユーザ ロール: ADMIN

使用方法:

```
xCommand SystemUnit FactoryReset Confirm: Confirm [TrailingAction: TrailingAction]
```

説明:

Confirm: ○

TrailingAction: NoAction/Restart/Shutdown

デフォルトの動作 (Restart) を上書きするには、Shutdown または NoAction を選択します。

xCommand SystemUnit Notifications RemoveAll

xStatus SystemUnit Notifications Text/Type によって報告されたシステム通知のリストをクリアします。

必要なユーザ ロール: ADMIN

使用方法:

```
xCommand SystemUnit Notifications RemoveAll
```

xCommand SystemUnit OptionKey Add

追加機能をサポートするオプション キーを追加します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

使用方法:

```
xCommand SystemUnit OptionKey Add Key: "Key"
```

説明:

Key: 文字列 (16, 24)

オンにしたいオプションについて受け取ったキー。

xCommand SystemUnit OptionKey Remove

指定されたオプション キーを削除します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

使用方法:

```
xCommand SystemUnit OptionKey Remove Type: Type
```

説明:

Type: Encryption/MultiSite/PremiumResolution/RemoteMonitoring

xCommand SystemUnit OptionKey RemoveAll

すべてのオプション キーを削除します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

使用方法:

```
xCommand SystemUnit OptionKey RemoveAll Confirm: Confirm
```

説明:

Confirm: ○

xCommand SystemUnit SoftwareUpgrade

指定の URL からソフトウェアを取得し、ソフトウェア アップグレードを開始します。サーバでユーザ名とパスワードが必要な場合、これらのパラメータが含まれている必要があります。

必要なユーザ ロール: ADMIN

使用方法:

```
xCommand SystemUnit SoftwareUpgrade URL: "URL" [UserName: "UserName"] [Password: "Password"]
```

説明:

URL: 文字列 (0, 255)

ソフトウェア パッケージの場所

UserName: 文字列 (0, 255)

サーバの場所にアクセスするためのユーザ名 (必要な場合)。

Password: 文字列 (0, 255)

サーバの場所にアクセスするためのパスワード (必要な場合)。

Time コマンド

xCommand Time DateTime Get

システムから時刻と日付を読み取ります。

必要なユーザ ロール: USER

使用方法:

```
xCommand Time DateTime Get
```

xCommand Time DateTime Set

NTP (ネットワーク タイム プロトコル) から取得できない場合に、システムの日時を設定します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

使用方法:

```
xCommand Time DateTime Set [Year: Year] [Month: Month] [Day: Day] [Hour: Hour]
[Minute: Minute] [Second: Second]
説明:
```

Year: 整数 (2015 ~ 2037)

Month: 整数 (1 ~ 12)

Day: 整数 (1 ~ 31)

Hour: 整数 (0 ~ 23)

Minute: 整数 (0 ~ 59)

Second: 整数 (0 ~ 59)

UserInterface コマンド

xCommand UserInterface Message Alert Clear

xCommand Message Alert Display コマンドを使用して表示されたメッセージを削除します。Duration パラメータが設定されていない場合、これは必須です。

必要なユーザ ロール: USER

使用方法:

```
xCommand UserInterface Message Alert Clear
```

xCommand UserInterface Message Alert Display

指定された長さの時間 (秒)、メッセージを画面に表示します。

注: 時間が設定されていない場合、このコマンドの後に xCommand Message Alert Clear コマンドが必要です。

ユーザからのフィードバックを監視するには、xFeedback コマンドを使用します。このマニュアルの API の概要セクションの xFeedback コマンドに関する説明を参照してください。

必要なユーザ ロール: ADMIN

使用方法:

```
xCommand UserInterface Message Alert Display [Title: "Title"] Text: "Text"
[Duration: Duration].
説明:
```

Title: 文字列 (0, 255)

メッセージのタイトルを入力します。

Text: 文字列 (0, 255)

表示するメッセージを入力します。<p> と
 HTML タグを使用すると通常どおり改行されます。他のタグはプレーン テキストとして表示されます。

Duration: 整数 (0 ~ 3600)

メッセージが画面に表示される長さを設定します (秒単位)。0 (ゼロ) に設定すると xCommand Message Alert Clear メッセージが送信されるまでメッセージは消えません。

xCommand UserInterface Message Prompt Clear

xCommand Message Alert Display コマンドを使用して表示されたウィンドウを削除します。

ユーザからのフィードバックを監視するには、xFeedback コマンドを使用します。このマニュアルの API の概要セクションの xFeedback コマンドに関する説明を参照してください。

必要なユーザ ロール: USER

使用方法:

```
xCommand UserInterface Message Prompt Clear [FeedbackId: "FeedbackId"]
```

説明:

FeedbackId: 文字列 (0, 255)

FeedbackId は xCommand Message Prompt Display コマンドによって指定された FeedbackId に対応します。

xCommand UserInterface Message Prompt Display

ユーザからの応答のために、タイトル、テキストおよび最大 5 個のオプションを持つ小さなウィンドウを画面に表示します。メッセージは、ユーザが応答するか、システムが xCommand Message Prompt Clear コマンドを受信するまで画面に表示されます。

ユーザからのフィードバックを監視するには、xFeedback コマンドを使用します。このマニュアルの API の概要セクションの xFeedback コマンドに関する説明を参照してください。

Title:

Text:

FeedbackId:

Option.1 ~ Option.5:

必要なユーザ ロール: ADMIN

使用方法:

```
xCommand UserInterface Message Prompt Display [Title: "Title"] Text: "Text"  
[FeedbackId: "FeedbackId"] [Option.1: "Option.1"] [Option.2: "Option.2"]  
[Option.3: "Option.3"] [Option.4: "Option.4"] [Option.5: "Option.5"]
```

説明:

Title: 文字列 (0, 255)

メッセージのタイトルを入力します。

Text: 文字列 (0, 255)

表示されるテキスト行を入力します。<p> と
 HTML タグを使用すると通常どおり改行されます。他のタグはプレーン テキストとして表示されます。

FeedbackId: 文字列 (0, 255)

フィードバックを識別するには FeedbackId を入力します。

Option.1: 文字列 (0, 255)

フィードバック オプションに表示されるテキストを入力します。

Option.2: 文字列 (0, 255)

フィードバック オプションに表示されるテキストを入力します。

Option.3: 文字列 (0, 255)

フィードバック オプションに表示されるテキストを入力します。

Option.4: 文字列 (0, 255)

フィードバック オプションに表示されるテキストを入力します。

Option.5: 文字列 (0, 255)

フィードバック オプションに表示されるテキストを入力します。

xCommand UserInterface Message Prompt Response

xCommand Message Prompt Display への応答を提供します。

ユーザからのフィードバックを監視するには、xFeedback コマンドを使用します。このマニュアルの API の概要セクションの xFeedback コマンドに関する説明を参照してください。

必要なユーザ ロール: USER

使用方法:

```
xCommand UserInterface Message Prompt Response [FeedbackId: "FeedbackId"]
OptionId: OptionId
説明:
```

FeedbackId: 文字列 (0, 255)

FeedbackId は xCommand Message Prompt Display コマンドによって指定された FeedbackId に対応します。

OptionId: 整数 (1 ~ 5)

OptionId は xCommand Message Prompt Display コマンドで可能な応答として指定された OptionId に対応します。

xCommand UserInterface Message TextLine Clear

xCommand Message TextLine Display コマンドで定義されたテキスト行をクリアします。

必要なユーザ ロール: USER

使用方法:

```
xCommand UserInterface Message TextLine Clear
```

xCommand UserInterface Message TextLine Display

画面にテキスト行を表示します。オプションとして、指定した場所に、指定された長さの時間 (秒単位) テキスト行を配置できます。

注: 時間が設定されていない場合、このコマンドの後に xCommand Message TextLine Clear コマンドが必要です。

必要なユーザ ロール: ADMIN

使用方法:

```
xCommand UserInterface Message TextLine Display Text: "Text" [X: X] [Y: Y]
[Duration: Duration].
説明:
```

Text: 文字列 (0, 140)

表示されるテキスト行を入力します。<p> と
 HTML タグを使用すると通常どおり改行されます。他のタグはプレーン テキストとして表示されます。

X: 整数 (1 ~ 10000)

画面の X 座標 (水平) を入力します。X=0 では左上隅に表示されます。

Y: 整数 (1 ~ 10000)

画面の Y 座標 (垂直) を入力します。Y=0 では左上隅に表示されます。

Duration: 整数 (0 ~ 3600)

テキスト行が画面に表示される長さを設定します (秒単位)。0 (ゼロ) に設定すると、xCommand Message TextLine Clear が送信されるまでテキスト行が表示されます。

UserManagement コマンド

xCommand UserManagement RemoteSupportUser Create

テクニカル アシスタンス センター (TAC) がトラブルシューティング目的でシステムにアクセスするために使用できる、リモート サポート ユーザのパスフレーズを作成します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

使用方法:

```
xCommand UserManagement RemoteSupportUser Create [ExpiryDays: ExpiryDays]
```

説明:

ExpiryDays: 整数 (1 ~ 31)

パスフレーズの有効性の期間を定義します。デフォルトは 7 日間です。

xCommand UserManagement RemoteSupportUser Delete

コマンド xCommand UserManagement RemoteSupportUser Create で作成したリモート サポート ユーザを削除します。

必要なユーザ ロール: ADMIN

使用方法:

```
xCommand UserManagement RemoteSupportUser Delete
```

xCommand UserManagement RemoteSupportUser DisablePermanently

新しいリモート サポート ユーザの作成を無効にします。リモート サポート ユーザを再度有効にするには、システムを初期設定にリセットする必要があります。

必要なユーザ ロール: ADMIN

使用方法:

```
xCommand UserManagement RemoteSupportUser DisablePermanently Confirm: Confirm
```

説明:

Confirm: ○

xCommand UserManagement RemoteSupportUser GetState

生成されたリモート サポート ユーザの状態を取得します (ある場合)。

必要なユーザ ロール: ADMIN

使用方法:

```
xCommand UserManagement RemoteSupportUser GetState
```

xCommand UserManagement User Passphrase Change

ログインしたユーザのパスフレーズを変更します。管理者としてログインした場合は、管理者のパスフレーズが変わります。

必要なユーザ ロール: USER

使用方法:

```
xCommand UserManagement User Passphrase Change NewPassphrase: "NewPassphrase"  
OldPassphrase: "OldPassphrase"
```

説明:

NewPassphrase: 文字列 (0、255)

OldPassphrase: 文字列 (0、255)

xCommand UserManagement User Passphrase Set

指定されたユーザのユーザ パスフレーズを設定します。ユーザ パスフレーズを設定するには、管理者としてログインする必要があります。

必要なユーザ ロール: ADMIN

使用方法:

```
xCommand UserManagement User Passphrase Set NewPassphrase: "NewPassphrase"
Username: "Username" YourPassphrase: "YourPassphrase"
```

説明:

NewPassphrase: 文字列 (0、255)

Username: 文字列 (0、127)

YourPassphrase: 文字列 (0、255)

Video コマンド

xCommand Video ActiveSpeakerPIP Set

通話中のスピーカーの PiP (ピクチャインピクチャ) の位置を設定します。

必要なユーザ ロール: USER

使用方法:

```
xCommand Video ActiveSpeakerPIP Set Position: Position
```

説明:

Position: CenterLeft/CenterRight/LowerLeft/LowerRight/UpperCenter/UpperLeft/UpperRight
事前定義された位置のうちの 1 つを選択します。

xCommand Video Input SetMainVideoSource

メイン ビデオ ソースとなる入力ソースを設定します。接続されているコネクタの ID によって、またはソース自体の ID によって、ソースを識別できます。

このコマンドでは、ConnectorId または SourceId パラメータのどちらか一方 (だけ) を使用する必要があります。

必要なユーザ ロール: USER

使用方法:

```
xCommand Video Input SetMainVideoSource [ConnectorId: ConnectorId] [SourceId:
SourceId]
```

説明:

ConnectorId: 整数 (1 ~ 5)

コネクタの識別子 (ID)。Connector [n] には ID n があります。ID を検索するには、API コマンド xStatus Video Input Connector を実行します。コネクタ ID は、コーデック コネクタ パネルにも印刷されます。

SourceId: 整数 (1 ~ 4)

入力ソースの識別子 (ID)。Input Source [n] には ID n があります。ID を検索するには、API コマンド xStatus Video Input Source を実行します。

xCommand Video Input Source SetActiveConnector

どのコネクタがアクティブであるかを選択します。

必要なユーザ ロール: USER

使用方法:

```
xCommand Video Input Source SetActiveConnector [ConnectorId: ConnectorId]
```

説明:

ConnectorId: 整数 (2 ~ 4)

コネクタの識別子 (ID)。Connector [n] には ID n があります。ID を検索するには、API コマンド xStatus Video Input Connector を実行します。コネクタ ID は、コーデック コネクタ パネルにも印刷されます。

xCommand Video Layout LayoutFamily Set

画面レイアウト モードを選択します。

必要なユーザ ロール: USER

使用方法:

```
xCommand Video Layout LayoutFamily Set [Target: Target] [: ] LayoutFamily:  
LayoutFamily [CustomLayoutName: "CustomLayoutName"]
```

説明:

Target: local/remote

ターゲットがローカル レイアウトかリモート レイアウトかを選択します。

: 整数 (0 ~ 65534)

CallID は xCommand Dial コマンドが実行された場合に返されます。コール中に xStatus Call コマンドを実行して CallId を表示できます。

LayoutFamily: auto/custom/equal/overlay/prominent/single

レイアウト ファミリを選択します。

CustomLayoutName: 文字列 (1、128)

レイアウトの名前を入力します。

xCommand Video Matrix Assign

xCommand Video Matrix コマンドは xCommand Video Layout コマンドへのスマート オーバーレイで、シンプルな映像合成を容易にします。

必要なユーザ ロール: USER

使用方法:

```
xCommand Video Matrix Assign [Mode: Mode] Output: Output SourceId: SourceId
```

説明:

Mode: Add/Replace

全画面で表示されるその出力で既存のソースを置き換えるか、または追加するかを選択します。Add を使用すると、レイアウト エンジンが複数のソースを自動的に再構成します。Replace がデフォルト値です。

Output: 整数 (1 ~ 2)

このレイアウトで使用する出力を選択します。

SourceId: 整数 (1 ~ 4)

入力ソースの識別子 (ID)。Input Source [n] には ID n があります。ID を検索するには、API コマンド xStatus Video Input Source を実行します。

xCommand Video Matrix Reset

出力のコンテンツをデフォルト レイアウトにリセットします

xCommand Video Matrix コマンドは xCommand Video Layout コマンドへのスマート オーバーレイで、シンプルな映像合成を容易にします。

必要なユーザ ロール: USER

使用方法:

```
xCommand Video Matrix Reset [Output: Output]
```

説明:

Output: 整数 (1 ~ 2)

リセットする出力を選択します。

xCommand Video Matrix Swap

2 つの出力間で xCommand Video Matrix Assign を使用して定義されたコンテンツを入れ替えます。

xCommand Video Matrix コマンドは xCommand Video Layout コマンドへのスマート オーバーレイで、シンプルな映像合成を容易にします。

必要なユーザ ロール: USER

使用方法:

xCommand Video Matrix Swap OutputA: OutputA OutputB: OutputB

説明:

OutputA: 整数 (1 ～ 2)

入れ替え元の出力。

OutputB: 整数 (1 ～ 2)

入れ替え先の出力。

xCommand Video Matrix Unassign

出力からソースを削除します。xCommand Video Matrix Assign と同じく、レイアウト エンジンに残りのソースを自動的に再構成します。

xCommand Video Matrix コマンドは xCommand Video Layout コマンドへのスマート オーバーレイで、シンプルな映像合成を容易にします。

必要なユーザ ロール: USER

使用方法:

xCommand Video Matrix Unassign [Output: Output] SourceId: SourceId

説明:

Output: 整数 (1 ～ 2)

ソースを削除する出力を選択します。

SourceId: 整数 (1 ～ 4)

入力ソースの識別子 (ID)。Input Source [n] には ID n があります。ID を検索するには、API コマンド xStatus Video Input Source を実行します。

xCommand Video PresentationPIP Set

プレゼンテーション PiP (ピクチャ イン ピクチャ) の位置を設定します。

必要なユーザ ロール: USER

使用方法:

xCommand Video PresentationPIP Set Position: Position

説明:

位置: CenterLeft/CenterRight/LowerLeft/LowerRight/UpperCenter/UpperLeft/UpperRight

事前定義された位置のうちの 1 つを選択します。

xCommand Video Selfview Set

セルフビューをオン/オフに設定して、サイズと位置を指定します。パラメータが指定されない場合は、現在の値が使用されます。

必要なユーザ ロール: USER

使用方法:

xCommand Video Selfview Set [Mode: Mode] [FullscreenMode: FullscreenMode]
[PIPPosition: PIPPosition] [OnMonitorRole: OnMonitorRole]

説明:

Mode: On/Off

セルフビューがオンまたはオフに設定されます。

FullscreenMode: On/Off

セルフビューを全画面表示でするか、またはピクチャインピクチャとして表示するかを選択します。

PIPPosition: CenterLeft/CenterRight/LowerLeft/LowerRight/UpperCenter/UpperLeft/UpperRight

セルフビュー イメージの位置を選択します。

OnMonitorRole: First/Fourth/Second/Third

このロールでモニタにセルフビューを表示します。

第 5 章

xStatus コマンド

xStatus コマンドの説明

この章には、xStatus コマンドと応答がすべて記載されています。ステータス タイプのコマンドは、システムおよびシステム プロセスに関する情報を返します。すべての情報や一部の情報を照会できます。

定期的にシスコの Web サイトにアクセスし、マニュアルの更新バージョンについて確認することを推奨します。

URL: <http://www.cisco.com/go/mx-docs>

Audio status	120
xStatus Audio	120
xStatus Audio Input Connectors Microphone [n] ConnectionStatus	120
xStatus Audio Microphones Mute	120
xStatus Audio Volume	120
xStatus Audio VolumeMute	120
Call status	121
xStatus Call [n]	121
xStatus Call [n] AnswerState	121
xStatus Call [n] AttendedTransferFrom	121
xStatus Call [n] CallbackNumber	121
xStatus Call [n] CallType	121
xStatus Call [n] DeviceType	121
xStatus Call [n] Direction	121
xStatus Call [n] DisplayName	122
xStatus Call [n] Duration	122
xStatus Call [n] Encryption Type	122
xStatus Call [n] FacilityServiceId	122
xStatus Call [n] HoldReason	122
xStatus Call [n] PlacedOnHold	122
xStatus Call [n] Protocol	123
xStatus Call [n] ReceiveCallRate	123
xStatus Call [n] RemoteNumber	123
xStatus Call [n] Status	123
xStatus Call [n] TransmitCallRate	123

Cameras status	124
xStatus Cameras Camera	124
xStatus Cameras Camera [n] Capabilities Options	124
xStatus Cameras Camera [n] Connected	124
xStatus Cameras Camera [n] Manufacturer	124
xStatus Cameras Camera [n] Model	124
xStatus Cameras Camera [n] SoftwareId	124
Capabilities status	125
xStatus Capabilities	125
xStatus Capabilities Conference MaxActiveCalls	125
xStatus Capabilities Conference MaxAudioCalls	125
xStatus Capabilities Conference MaxCalls	125
xStatus Capabilities Conference MaxVideoCalls	125
Conference status	126
xStatus Conference	126
xStatus Conference ActiveSpeaker CallId	126
xStatus Conference Call [n] BookingId	126
xStatus Conference Call [n] Capabilities FarendMessage Mode	126
xStatus Conference Call [n] Capabilities FECC Mode	126
xStatus Conference Call [n] Capabilities FECC NumberOfPresets	126
xStatus Conference Call [n] Capabilities FECC NumberOfSources	126
xStatus Conference Call [n] Capabilities FECC Source [n] Name	127
xStatus Conference Call [n] Capabilities FECC Source [n] Options	127
xStatus Conference Call [n] Capabilities FECC Source [n] SourceId	127



xStatus Conference Call [n] Capabilities Hold	127
xStatus Conference Call [n] Capabilities IxChannel Status	127
xStatus Conference Call [n] Capabilities Presentation	127
xStatus Conference Call [n] Manufacturer	128
xStatus Conference Call [n] MicrophonesMuted	128
xStatus Conference Call [n] SoftwareID	128
xStatus Conference DoNotDisturb	128
xStatus Conference Line [n] Mode	128
xStatus Conference Multipoint Mode	129
xStatus Conference Presentation CallId	129
xStatus Conference Presentation LocalInstance [n] SendingMode	129
xStatus Conference Presentation LocalInstance [n] Source	129
xStatus Conference Presentation Mode	129
xStatus Conference SpeakerLock CallId	130
xStatus Conference SpeakerLock Mode	130
Diagnostics status	130
xStatus Diagnostics	130
xStatus Diagnostics Message [n] Description	130
xStatus Diagnostics Message [n] Level	130
xStatus Diagnostics Message [n] References	131
xStatus Diagnostics Message [n] Type	131
H323 status	131
xStatus H323	131
xStatus H323 Gatekeeper Address	131
xStatus H323 Gatekeeper Port	131
xStatus H323 Gatekeeper Reason	131
xStatus H323 Gatekeeper Status	132
xStatus H323 Mode Reason	132
xStatus H323 Mode Status	132
HttpFeedback status	132
xStatus HttpFeedback	132
xStatus HttpFeedback [1..4] Expression [1..15]	132

xStatus HttpFeedback [1..4] URL	132
Network status	133
xStatus Network	133
xStatus Network 1 CDP Address	133
xStatus Network 1 CDP Capabilities	133
xStatus Network 1 CDP DeviceId	133
xStatus Network 1 CDP Duplex	133
xStatus Network 1 CDP Platform	133
xStatus Network 1 CDP PortId	133
xStatus Network 1 CDP PrimaryMgmtAddress	134
xStatus Network 1 CDP SysName	134
xStatus Network 1 CDP SysObjectId	134
xStatus Network 1 CDP Version	134
xStatus Network 1 CDP VoIPApplianceVlanId	134
xStatus Network 1 CDP VTPMgmtDomain	134
xStatus Network 1 DNS Domain Name	135
xStatus Network 1 DNS Server [1..5] Address	135
xStatus Network 1 Ethernet MacAddress	135
xStatus Network 1 Ethernet Speed	135
xStatus Network 1 IPv4 Address	135
xStatus Network 1 IPv4 Gateway	135
xStatus Network 1 IPv4 SubnetMask	136
xStatus Network 1 IPv6 Address	136
xStatus Network 1 IPv6 Gateway	136
xStatus Network 1 VLAN Voice VlanId	136
NetworkServices status	137
xStatus NetworkServices	137
xStatus NetworkServices NTP CurrentAddress	137
xStatus NetworkServices NTP Server [n] Address	137
xStatus NetworkServices NTP Status	137
Peripherals status	138
xStatus Peripherals	138



xStatus Peripherals ConnectedDevice [n] HardwareInfo	138	SIP status	143
xStatus Peripherals ConnectedDevice [n] ID	138	xStatus SIP	143
xStatus Peripherals ConnectedDevice [n] Name	138	xStatus SIP AlternateURI Alias [n] URI	143
xStatus Peripherals ConnectedDevice [n] SoftwareInfo	138	xStatus SIP AlternateURI Primary [n] URI	143
xStatus Peripherals ConnectedDevice [n] Status	138	xStatus SIP Authentication	143
xStatus Peripherals ConnectedDevice [n] Type	138	xStatus SIP CallForward DisplayName	143
xStatus Peripherals ConnectedDevice [n] UpgradeStatus	139	xStatus SIP CallForward Mode	143
Provisioning status	139	xStatus SIP CallForward URI	143
xStatus Provisioning	139	xStatus SIP Mailbox MessagesWaiting	144
xStatus Provisioning Software Current CompletedAt	139	xStatus SIP Mailbox URI	144
xStatus Provisioning Software Current URL	139	xStatus SIP Proxy [n] Address	144
xStatus Provisioning Software Current VersionId	139	xStatus SIP Proxy [n] Secure	144
xStatus Provisioning Software UpgradeStatus LastChange	140	xStatus SIP Proxy [n] Status	144
xStatus Provisioning Software UpgradeStatus Message	140	xStatus SIP Proxy [n] Verified	145
xStatus Provisioning Software UpgradeStatus Phase	140	xStatus SIP Registration [n] Authentication	145
xStatus Provisioning Software UpgradeStatus SessionId	140	xStatus SIP Registration [n] Reason	145
xStatus Provisioning Software UpgradeStatus Status	140	xStatus SIP Registration [n] Status	145
xStatus Provisioning Software UpgradeStatus URL	140	xStatus SIP Registration [n] URI	145
xStatus Provisioning Software UpgradeStatus VersionId	141	xStatus SIP Secure	146
xStatus Provisioning Status	141	xStatus SIP Verified	146
Proximity status	141	Standby status	146
xStatus Proximity	141	xStatus Standby	146
xStatus Proximity Services Availability	141	xStatus Standby State	146
Security status	142	SystemUnit status	147
xStatus Security	142	xStatus SystemUnit	147
xStatus Security FIPS Mode	142	xStatus SystemUnit Hardware Module SerialNumber	147
xStatus Security Persistency CallHistory	142	xStatus SystemUnit Hardware Monitoring Fan [n] Status	147
xStatus Security Persistency Configurations	142	xStatus SystemUnit Hardware Temperature	147
xStatus Security Persistency DHCP	142	xStatus SystemUnit Notifications Notification [n] Text	147
xStatus Security Persistency InternalLogging	142	xStatus SystemUnit Notifications Notification [n] Type	147
xStatus Security Persistency LocalPhonebook	142	xStatus SystemUnit ProductId	148
		xStatus SystemUnit ProductPlatform	148
		xStatus SystemUnit ProductType	148



xStatus SystemUnit Software Name	148	xStatus Video Input Source [n] Resolution RefreshRate	153
xStatus SystemUnit Software OptionKeys Encryption	148	xStatus Video Input Source [n] Resolution Width	153
xStatus SystemUnit Software OptionKeys MultiSite	148	xStatus Video Monitors	153
xStatus SystemUnit Software OptionKeys PremiumResolution.....	149	xStatus Video Output	154
xStatus SystemUnit Software OptionKeys RemoteMonitoring	149	xStatus Video Output Connector [n] Connected	154
xStatus SystemUnit Software ReleaseDate	149	xStatus Video Output Connector [n] ConnectedDevice CEC DeviceType.....	154
xStatus SystemUnit Software Version	149	xStatus Video Output Connector [n] ConnectedDevice CEC PowerControl.....	154
xStatus SystemUnit State NumberOfActiveCalls	149	xStatus Video Output Connector [n] ConnectedDevice CEC PowerStatus.....	154
xStatus SystemUnit State NumberOfInProgressCalls.....	149	xStatus Video Output Connector [n] ConnectedDevice Name	154
xStatus SystemUnit State NumberOfSuspendedCalls.....	150	xStatus Video Output Connector [n] ConnectedDevice PreferredFormat.....	155
xStatus SystemUnit Uptime.....	150	xStatus Video Output Connector [n] MonitorRole	155
Time status.....	150	xStatus Video Output Connector [n] Resolution Height	155
xStatus Time	150	xStatus Video Output Connector [n] Resolution RefreshRate	155
xStatus Time SystemTime.....	150	xStatus Video Output Connector [n] Resolution Width	155
UserInterface status	151	xStatus Video Output Connector [n] Type.....	155
xStatus UserInterface.....	151	xStatus Video Presentation PIPPosition.....	156
xStatus UserInterface ContactInfo ContactMethod [n] Number.....	151	xStatus Video Selfview FullscreenMode.....	156
xStatus UserInterface ContactInfo Name	151	xStatus Video Selfview Mode.....	156
Video status	151	xStatus Video Selfview OnMonitorRole	156
xStatus Video	151	xStatus Video Selfview PIPPosition	156
xStatus Video ActiveSpeaker PIPPosition.....	151		
xStatus Video Input	151		
xStatus Video Input Connector [n] Connected	151		
xStatus Video Input Connector [n] SignalState.....	152		
xStatus Video Input Connector [n] SourceId.....	152		
xStatus Video Input Connector [n] Type.....	152		
xStatus Video Input MainVideoSource	152		
xStatus Video Input Source [n] ConnectorId.....	152		
xStatus Video Input Source [n] FormatStatus	152		
xStatus Video Input Source [n] FormatType	153		
xStatus Video Input Source [n] MediaChannelId.....	153		
xStatus Video Input Source [n] Resolution Height	153		

Audio status

xStatus Audio

オーディオ ステータスのトップ レベルの概要を示します。LocalInput、RemoteInput、LocalOutput および RemoteOutput の ID は、他の情報を照会する場合に使用されます。

xStatus Audio Input Connectors Microphone [n] ConnectionStatus

マイクがマイク入力コネクタで検出されるかどうかを示します。

返される結果の値スペース:

Connected/NotConnected/Unknown

例:

```
xStatus Audio Input Connectors Microphone ConnectionStatus
*s Audio Input Connectors Microphone 1 ConnectionStatus: NotConnected
*s Audio Input Connectors Microphone 2 ConnectionStatus: Connected
** end
```

xStatus Audio Microphones Mute

マイクがミュートになっているかどうかを示します。

返される結果の値スペース:

On/Off

例:

```
xStatus Audio Microphones Mute
*s Audio Microphones Mute: Off
** end
```

xStatus Audio Volume

ラウドスピーカー出力の音量レベル (dB) を示します。

返される結果の値スペース:

0 ~100

例:

```
xStatus Audio Volume
*s Audio Volume: 70
** end
```

xStatus Audio VolumeMute

エンドポイントの音量がミュートに設定されているかどうかを示します。

返される結果の値スペース:

Off/On

例:

```
xStatus Audio VolumeMute
*s Audio VolumeMute: Off
** end
```


Call status

xStatus Call [n]

コール ステータスのトップ レベルの概要を示します。コール ID がコールに関する詳細の照会に使用されます。

xStatus Call [n] AnswerState

コールが応答されたか、無視されたか、またはシステムによって自動的に応答されたかを示します。

返される結果の値スペース:

Unanswered/Ignored/Autoanswered/Answered

例:

```
xStatus Call AnswerState
*s Call 5 AnswerState: Answered
** end
```

xStatus Call [n] AttendedTransferFrom

現在のコールの転送元のコールの CallId を示します。

返される結果の値スペース:

整数 (Integer)

例:

```
xStatus Call 1 AttendedTransferFrom
*s Call 1 AttendedTransferFrom: 1234
** end
```

xStatus Call [n] CallbackNumber

コールバック用に、コール プロトコルを含め、着信または発信コールのリモート (遠端) 番号または URI を示します。コール ID を検索するためには、xStatus Call コマンドを実行できます。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus Call 27 CallbackNumber
*s Call 27 CallbackNumber: "h323:firstname.lastname@company.com"
** end
```

xStatus Call [n] CallType

着信または発信コールのコール タイプを示します。コール ID を検索するためには、xStatus Call コマンドを実行できます。

返される結果の値スペース:

Video/Audio/AudioCanEscalate/ForwardAllCall/Unknown

例:

```
xStatus Call 27 CallType
*s Call 27 CallType: Video
** end
```

xStatus Call [n] DeviceType

リモート システムが単一のエンドポイントであるかまたは MCU であるかを示します。一部のシスコ エンドポイント (SX20、SX80、MX200 G2、MX300 G2) には、組み込み MCU 機能があります。

返される結果の値スペース:

Endpoint/MCU

例:

```
xStatus Call DeviceType
*s Call 4 DeviceType: Endpoint
** end
```

xStatus Call [n] Direction

コール開始の方向を示します。コール ID を検索するためには、xStatus Call コマンドを実行できます。

返される結果の値スペース:

Incoming/Outgoing

例:

```
xStatus Call 27 Direction
*s Call 27 Direction: Outgoing
** end
```

xStatus Call [n] DisplayName

着信または発信コールでリモート (遠端) 参加者の名前を表示します。コール ID を検索するためには、xStatus Call コマンドを実行できます。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus Call 27 DisplayName
*s Call 27 DisplayName: "firstname.lastname@company.com"
** end
```

xStatus Call [n] Duration

コールの長さを表示します (秒単位)。コール ID を検索するためには、xStatus Call コマンドを実行できます。

返される結果の値スペース:

整数

例:

```
xStatus Call 27 Duration
*s Call 27 Duration: 2354
** end
```

xStatus Call [n] Encryption Type

コールの暗号化タイプを示します。コール ID を検索するためには、xStatus Call コマンドを実行できます。

返される結果の値スペース:

None/Aes-128

例:

```
xStatus Call 27 Encryption Type
*s Call 27 Encryption Type: "None"
** end
```

xStatus Call [n] FacilityServiceId

ファシリティ サービスを呼び出すと、ファシリティ サービス ID が表示されます。それ以外の場合、値 0 が返されます。

返される結果の値スペース:

0 ~ 5

例:

```
xStatus Call FacilityServiceId
*s Call 3 FacilityServiceId: 1
** end
```

xStatus Call [n] HoldReason

現在の発信コールが保留にされた理由を示します。

Conference: コールが会議にマージされている間保留中になります。

Transfer: コールが転送されている間保留中になります。

None: 他のすべてのインスタンス。

返される結果の値スペース:

Conference/Transfer/None

例:

```
xStatus Call 2 HoldReason
*s Call 2 HoldReason: None
** end
```

xStatus Call [n] PlacedOnHold

コールの保留中ステータスを表示します。コール ID を検索するためには、xStatus Call コマンドを実行できます。

返される結果の値スペース:

True/False

例:

```
xStatus Call 27 PlacedOnHold
*s Call 27 PlacedOnHold: False
** end
```

xStatus Call [n] Protocol

着信または発信コールのコール プロトコルを示します。コール ID を検索するためには、xStatus Call コマンドを実行できます。

返される結果の値スペース:

H320/H323/SIP

例:

```
xStatus Call 27 Protocol
*s Call 27 Protocol: "h323"
** end
```

xStatus Call [n] ReceiveCallRate

コールの受信帯域幅をキロ ビット/秒 (kbps) で示します。コール ID を検索するためには、xStatus Call コマンドを実行できます。

返される結果の値スペース:

整数 (Integer)

例:

```
xStatus Call 27 ReceiveCallRate
*s Call 27 ReceiveCallRate: 4000
** end
```

xStatus Call [n] RemoteNumber

着信または発信コールのリモート (遠端) 番号または URI を示します。コール ID を検索するためには、xStatus Call コマンドを実行できます。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus Call 27 RemoteNumber
*s Call 27 RemoteNumber: "5585232"
** end
```

xStatus Call [n] Status

コールのステータスを表示します。コール ID を検索するためには、xStatus Call コマンドを実行できます。

返される結果の値スペース:

Idle/Dialling/Ringing/Connecting/Connected/Disconnecting/OnHold/EarlyMedia/Preserved/
RemotePreserved

例:

```
xStatus Call 27 Status
*s Call 27 Status: Connected
** end
```

xStatus Call [n] TransmitCallRate

コールの送信帯域幅をキロ ビット/秒 (kbps) で示します。コール ID を検索するためには、xStatus Call コマンドを実行できます。

返される結果の値スペース:

整数 (Integer)

例:

```
xStatus Call 27 TransmitCallRate
*s Call 27 TransmitCallRate: 768
** end
```

Cameras status

xStatus Cameras Camera

カメラ ステータスのトップ レベルの概要を示します。

xStatus Cameras Camera [n] Capabilities Options

カメラ機能 (ptzf = パン、チルト、ズーム、フォーカス) を示します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus Cameras Camera 1 Capabilities Options
*s Camera 1 Capabilities Options: "ptzf"
** end
```

xStatus Cameras Camera [n] Connected

カメラが接続されているかどうかを示します。

返される結果の値スペース:

True/False

例:

```
xStatus Cameras Camera 1 Connected
*s Camera 1 Connected: True
** end
```

xStatus Cameras Camera [n] Manufacturer

カメラの製造業者を示します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus Cameras Camera 1 Manufacturer
*s Camera 1 Manufacturer: "Cisco"
** end
```

xStatus Cameras Camera [n] Model

カメラのモデルを示します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus Cameras Camera 1 Model
*s Camera 1 Model: "Precision 40"
** end
```

xStatus Cameras Camera [n] SoftwareID

カメラのソフトウェア ID を示します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus Cameras Camera 1 SoftwareID
*s Camera 1 SoftwareID: "S01718-4.0FINAL [ID:40063] 2014-10-20"
** end
```

Capabilities status

xStatus Capabilities

機能ステータスのトップ レベルの概要を示します。

xStatus Capabilities Conference MaxActiveCalls

同時アクティブ コールの最大数を示します。保留/転送に設定されたコールはアクティブとしてカウントされません。

返される結果の値スペース:

0..5

例:

```
xStatus Capabilities Conference MaxNumberOfActiveCalls
*s Capabilities Conference MaxNumberOfActiveCalls: 3
** end
```

xStatus Capabilities Conference MaxAudioCalls

サポートされる同時オーディオ コールの最大数を示します。

返される結果の値スペース:

整数 (Integer)

例:

```
xStatus Capabilities Conference MaxAudioCalls
*s Capabilities Conference MaxAudioCalls: 3
** end
```

xStatus Capabilities Conference MaxCalls

同時コールの最大数を示します。

返される結果の値スペース:

0..5

例:

```
xStatus Capabilities Conference MaxCalls
*s Capabilities Conference MaxCalls: 3
** end
```

xStatus Capabilities Conference MaxVideoCalls

サポートされる同時ビデオ コールの最大数を示します。

返される結果の値スペース:

整数 (Integer)

例:

```
xStatus Capabilities Conference MaxVideoCalls
*s Capabilities Conference MaxVideoCalls: 3
** end
```

Conference status

xStatus Conference

会議ステータスのトップ レベルの概要を示します。会議コールの ID はコールの間だけ読み取れます。

xStatus Conference ActiveSpeaker CallId

現在のアクティブ スピーカーの CallId を示します。

返される結果の値スペース:

整数 (Integer)

例:

```
xStatus Conference ActiveSpeaker CallId
*s Conference ActiveSpeaker CallId: 3
** end
```

xStatus Conference Call [n] BookingId

会議の予約 ID を示します (割り当てられている場合)。予約 ID は、コールや会議を簡単に識別するために使用できます。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus Conference Call 2 BookingId
*s Conference Call 2 BookingId: "MyConference"
** end
```

xStatus Conference Call [n] Capabilities FarendMessage Mode

このリリースには適用されません。

返される結果の値スペース:

On/Off

例:

```
xStatus Conference Call Capabilities FarendMessage Mode
*s Conference Call 4 Capabilities FarendMessage Mode: Off
** end
```

xStatus Conference Call [n] Capabilities FECC Mode

遠端サイトの入力ソースを制御する権限があるかどうかを示します。

On: 遠端入力ソースの制御は許可されています。

Off: 遠端入力ソースの制御は許可されていません。

返される結果の値スペース:

On/Off

例:

```
xStatus Conference Call 2 Capabilities FECC Mode
*s Conference Call 2 Capabilities FECC Mode: On
** end
```

xStatus Conference Call [n] Capabilities FECC NumberOfPresets

遠端サイトで入力ソースに使用可能なプリセットの数を示します。

返される結果の値スペース:

1..15

例:

```
xStatus Conference Call 2 Capabilities FECC NumberOfPresets
*s Conference Call 2 Capabilities FECC NumberOfPresets: 15
** end
```

xStatus Conference Call [n] Capabilities FECC NumberOfSources

遠端サイトに接続できる入力ソースの数を示します。

返される結果の値スペース:

1 ~ 5

例:

```
xStatus Conference Call 2 Capabilities FECC NumberOfSources
*s Conference Call 2 Capabilities FECC NumberOfSources: 5
** end
```

xStatus Conference Call [n] Capabilities FECC Source [n] Name

遠端サイトに接続できる入力ソースの名前を示します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus Conference Call 2 Capabilities FECC Source 1 Name
*s Conference Call 2 Capabilities FECC Source 1 Name: "Main camera"
** end
```

xStatus Conference Call [n] Capabilities FECC Source [n] Options

遠端のサイトに接続できる入力ソースに使用可能なオプションを示します (カメラ用: p= パン、t= チルト、z= ズーム、f= フォーカス)。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus Conference Call 2 Capabilities FECC Source 1 Options
*s Conference Call 2 Capabilities FECC Source 1 Options: "ptztf"
** end
```

xStatus Conference Call [n] Capabilities FECC Source [n] SourceId

遠端サイトに接続できる入力ソースの ID を示します。

返される結果の値スペース:

整数 (Integer)

例:

```
xStatus Conference Call 2 Capabilities FECC Source 1 SourceId
*s Conference Call 2 Capabilities FECC Source 1 SourceId: 6
** end
```

xStatus Conference Call [n] Capabilities Hold

遠端サイトを保留にすることができるかどうかを示します。

返される結果の値スペース:

True/False

例:

```
xStatus Conference Call Capabilities Hold
*s Conference Call 2 Capabilities Hold: True
** end
```

xStatus Conference Call [n] Capabilities IxChannel Status

このリリースには適用されません。

返される結果の値スペース:

Active/Failed/Off

例:

```
xStatus Conference Call 4 Capabilities IxChannel Status
*s Conference Call 4 Capabilities IxChannel Status: Active
** end
```

xStatus Conference Call [n] Capabilities Presentation

会議の他の参加者のプレゼンテーション機能をリストします。

返される結果の値スペース:

True/False

例:

```
xStatus Conference Call 2 Capabilities Presentation
*s Conference Call 2 Capabilities Presentation: True
** end
```

xStatus Conference Call [n] Manufacturer

遠端サイトのビデオ システムの製造業者を示します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus Conference Call 2 Manufacturer
*s Conference Call 2 Manufacturer: "Cisco"
** end
```

xStatus Conference Call [n] MicrophonesMuted

会議の他の参加者の音声ミュート ステータスをリストします。

返される結果の値スペース:

True/False

例:

```
xStatus Conference Call 2 MicrophonesMuted
*s Conference Call 2 MicrophonesMuted: True
** end
```

xStatus Conference Call [n] SoftwareID

遠端サイトのビデオ システムで実行中のソフトウェアの ID を表示します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus Conference Call 2 SoftwareID
*s Conference Call 2 SoftwareID: "CE8"
** end
```

xStatus Conference DoNotDisturb

DoNotDisturb モードがオンにされているかどうかを示します。

返される結果の値スペース:

Active/Inactive

例:

```
xStatus Conference DoNotDisturb
*s Conference DoNotDisturb: Inactive
** end
```

xStatus Conference Line [n] Mode

システムが CUCM でプライベートとして設定されているか、共有回線として設定されているかを示します。

返される結果の値スペース:

Shared/Private

例:

```
xStatus Conference Line Mode
*s Conference Line 1 Mode: Private
** end
```


xStatus Conference Multipoint Mode

マルチポイント ビデオ会議が処理される方法を示します。

Auto: 使用可能なマルチポイント メソッドが自動的に選択されます。使用可能なメソッドがない場合、Multipoint Mode は自動的に Off に設定されます。MultiWay および MultiSite の両方が利用可能な場合、MultiWay サービスは組み込み MultiSite よりも優先されます。

Off: マルチパーティ会議は許可されません。

MultiSite: 組み込み MultiSite 機能を使用してマルチパーティ会議が設定されます。MultiSite 機能を使用できないときに MultiSite が選択された場合、Multipoint Mode は自動的に Off に設定されます。

CUCMMediaResourceGroupList] マルチパーティ会議 (アドホック会議) は、CUCM で設定された会議ブリッジによってホストされます。この設定は、CUCM 環境で CUCM によりプロビジョニングされるものであり、ユーザが手動で設定すべきではありません。

返される結果の値スペース:

Auto/CUCMMediaResourceGroupList/MultiSite/Off

例:

```
xStatus Conference Multipoint Mode
*s Conference Multipoint Mode: "Auto"
** end
```

xStatus Conference Presentation CallId

プレゼンテーションを送信するシステムの ID を示します。

返される結果の値スペース:

整数 (Integer)

例:

```
xStatus Conference Presentation CallId
*s Conference Presentation CallId: 0
** end
```

xStatus Conference Presentation LocalInstance [n] SendingMode

プレゼンテーション ソースがローカルで共有されているか、またはリモート参加者と共有されているかを示します。すべて独自のインスタンスを持つ複数のローカル プレゼンテーションが存在することが可能です。

返される結果の値スペース:

LocalOnly/LocalRemote/Off

例:

```
xStatus Conference Presentation LocalInstance 1 SendingMode
*s Conference Presentation LocalInstance 1 SendingMode: LocalOnly
** end
```

xStatus Conference Presentation LocalInstance [n] Source

現在のプレゼンテーションの SourceId を示します。すべて独自のインスタンスを持つ複数のローカル プレゼンテーションが存在することが可能です。

返される結果の値スペース:

整数 (Integer)

例:

```
xStatus Conference Presentation LocalInstance 1 Source
*s Conference Presentation LocalInstance 1 Source: 1
** end
```

xStatus Conference Presentation Mode

セカンダリ ビデオ ストリームのステータスを表示します。

返される結果の値スペース:

On/Off

例:

```
xStatus Conference Presentation Mode
*s Conference Presentation Mode: Off
** end
```

xStatus Conference SpeakerLock CallId

会議で目立つスピーカーとしてロックされた参加者の CallId を示します。

返される結果の値スペース:

整数 (Integer)

例:

```
xStatus Conference SpeakerLock CallId
*s Conference SpeakerLock CallId: 0
** end
```

xStatus Conference SpeakerLock Mode

スピーカー ロックが設定されているかどうかを示します。

返される結果の値スペース:

On/Off

例:

```
xStatus Conference SpeakerLock Mode
*s Conference SpeakerLock Mode: Off
** end
```

Diagnostics status

xStatus Diagnostics

診断のトップ レベルの概要を示します。進行中のコールのステータスの表示を例に示します。追加情報を照会する場合、コールの ID およびチャンネルが使用されます。

xStatus Diagnostics Message [n] Description

現在の診断アラートの説明。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus Diagnostics Message Description
*s DiagnosticsResult Message 1 Description: "IP configuration incomplete"
** end
```

xStatus Diagnostics Message [n] Level

診断メッセージのレベルに関する情報を返します。

Error: システムにエラーがあります。システムは引き続き使用できますが、いくつかの制限がある場合があります。

Warning: 問題が検出され、正確な問題を示すより詳しいレポートが続きます。

Critical: 警告レベルはクリティカルです。システムは使用できません。

返される結果の値スペース:

Error/Warning/Critical

例:

```
xStatus Diagnostics Message 4 Level
*s Diagnostics Message 4 Level: Warning
** end
```

xStatus Diagnostics Message [n] References

診断アラートの追加情報 (可能な場合)。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus Diagnostics Message 10 References
*s Diagnostics Message 10 References: "delay=190"
** end
```

xStatus Diagnostics Message [n] Type

システムの最新の診断結果の情報を返します。

返される結果の値スペース:

CAPFOperationState/CTLInstallation/CUCMVendorConfigurationFile/
CallProtocolDualStackConfig/CallProtocolIPStackPlatformCompatibility/
CallProtocolVcsProvisioningCompatibility/Camerald/CameraPairing/CameraSerial/
CameraSoftwareVersion/CameraStatus/CamerasDetected/ConfigurationFile/
DefaultCallProtocolRegistered/EthernetDuplexMatches/FollowPresenterCameraConnection/
H320GatewayStatus/H323GatekeeperStatus/HasValidReleaseKey/IpCameraStatus/
IPv4Assignment/IPv6Assignment/IPv6Mtu/ISDNLinkCompatibility/ISDNLinkIpStack/
ITLInstallation/InvalidSIPTransportConfig/LockDown/NetLinkStatus/NetSpeedAutoNegotiated/
NTPStatus/OSDVideoOutput/OutputConnectorLocations/ProvisioningStatus/
SIPEncryption/SIPListenPortAndOutboundMode/SIPProfileRegistration/SIPProfileType/
SelectedVideoInputSourceConnected/SipIccAndAnatConflict/TLSVerifyRequiredCerts/
TouchPanelConnection/TurnBandwidth/UdpPortRangeViolation/ValidPasswords/
VideoFromInternalCamera/VideoInputStability/SpeakerTrackFrontPanelMountedCorrectly/
SpeakerTrackMicrophoneConnection/SpeakerTrackVideoInputs/
SpeakerTrackEthernetConnection/ANATOnVCS/ECReferenceDelay/AudioPairingSNR/
AudioInternalSpeakerDisabled/AbnormalCallTermination/HasActiveCallProtocol/
SipOrH323ButNotBothEnabled/PresentationSourceSelection/SoftwareUpgrade/
ContactInfoMismatch

例:

```
xStatus Diagnostics Message type
*s Diagnostics Message 1 Type: InvalidAdminPassword
** end
```

H323 status

xStatus H323

H323 ステータスのトップ レベルの概要を示します。

xStatus H323 Gatekeeper Address

システムが登録されているゲートキーパーの IP アドレスが表示されます。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus H323 Gatekeeper Address
*s H323 Gatekeeper Address: "192.0.1.20"
** end
```

xStatus H323 Gatekeeper Port

ゲートキーパーに接続するときを使用されるポートを示します。

返される結果の値スペース:

整数 (Integer)

例:

```
xStatus H323 Gatekeeper Port
*s H323 Gatekeeper Port: 1719
** end
```

xStatus H323 Gatekeeper Reason

拒否された登録の理由を示します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus H323 Gatekeeper Reason
*s H323 Gatekeeper Reason: ""
** end
```

xStatus H323 Gatekeeper Status

ゲートキーパー登録ステータスが表示されます。

返される結果の値スペース:

Required/Discovering/Discovered/Authenticating/Authenticated/Registering/Registered/Inactive/Rejected

例:

```
xStatus H323 Gatekeeper Status
*s H323 Gatekeeper Status: Registered
** end
```

xStatus H323 Mode Reason

H.323 設定と xStatus H323 モード ステータスとの間に競合があるかどうかを示します。

"" : H.323 が On に設定されていて、H.323 モード設定と他のシステム設定との間に競合がない場合。

"SIP is enabled" : H.323 モードが On に設定されていて、2 つを同時にサポートしないシステムで SIP が有効になっている場合。

"Not available" : システムが H.323 をサポートしていない場合。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus H323 Mode Reason
*s H323 Mode Reason: ""
** end
```

xStatus H323 Mode Status

H.323 登録のステータスを示します。

Enabled: 登録は有効です。

Disabled: SIP が有効になっているので、登録は無効です。

返される結果の値スペース:

Enabled/Disabled

例:

```
xStatus H323 Mode Status
*s H323 Mode Status: "Disabled"
** end
```

HttpFeedback status

xStatus HttpFeedback

HTTP ステータスのトップ レベルの概要を示します。

xStatus HttpFeedback [1..4] Expression [1..15]

HTTP サーバからのフィードバックを示します。各 URL につき最大 15 の表現がある場合があります。詳細については、xCommand HttpFeedback コマンドを参照してください。

返される結果の値スペース:

文字列

xStatus HttpFeedback [1..4] URL

HTTP サーバの URL (ユニフォーム リソース ロケータ) を示します。URL で指定される、最大 3 台の HTTP サーバが存在する場合があります。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus HttpFeedback 1 URL
*s HttpFeedback 1 URL: "http://tms.company.com/tms/public/feedback/code.aspx"
** end
```

Network status

xStatus Network

ネットワーク ステータスのトップ レベルの概要を示します。

xStatus Network 1 CDP Address

受信デバイスおよび送信元デバイス両方の最初のネットワーク アドレスを返します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus Network CDP Address
*s Network 1 CDP Address: "192.0.1.20"
** end
```

xStatus Network 1 CDP Capabilities

デバイス タイプの形式でスイッチの機能を説明します。詳細については、CDP プロトコルのドキュメントを参照してください。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus Network CDP Capabilities
*s Network 1 CDP Capabilities: "0x0029"
** end
```

xStatus Network 1 CDP DeviceId

文字列形式のスイッチ名を識別します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus Network CDP DeviceId
*s Network 1 CDP DeviceId: "123456.company.com"
** end
```

xStatus Network 1 CDP Duplex

CDP ブロードキャスト インターフェイスのステータス (デュプレックス設定) を示します。ネットワーク オペレータが、隣接するネットワーク要素間の接続の問題を診断するときに使用します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus Network CDP Duplex
*s Network 1 CDP Duplex: "Full"
** end
```

xStatus Network 1 CDP Platform

エンドポイントに接続されているスイッチのハードウェア プラットフォーム名を返します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus Network CDP Platform
*s Network 1 CDP Platform: "cisco WS-C3750X-48P"
** end
```

xStatus Network 1 CDP PortID

スイッチが使用するエンドポイントが接続されているポートの ID を返します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus Network CDP PortID
*s Network 1 CDP PortID: "GigabitEthernet1/0/23"
** end
```

xStatus Network 1 CDP PrimaryMgmtAddress

エンドポイントが接続されているスイッチの設定と監視に使用される管理アドレスを返します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus Network CDP PrimaryMgmtAddress
*s Network 1 CDP PrimaryMgmtAddress: "10.1.1.2"
** end
```

xStatus Network 1 CDP SysName

エンドポイントが接続されているスイッチに設定されている SysName を返します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus Network CDP SysName
*s Network 1 CDP SysName: ""
** end
```

xStatus Network 1 CDP SysObjectID

エンドポイントが接続されているスイッチに設定されている SysObjectID を返します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus Network CDP SysObjectID
*s Network 1 CDP SysObjectID: ""
** end
```

xStatus Network 1 CDP Version

スイッチが実行しているソフトウェア リリース バージョンに関する情報を返します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus Network 1 CDP Version
*s Network 1 CDP Version: "Cisco IOS Software, C3560CX Software (C3560CX-
UNIVERSALK9-M), Version 15.2(3)E, RELEASE SOFTWARE (fc4)*Technical Support:
http://www.cisco.com/techsupport*Copyright (c) 1986-2014 by Cisco Systems,
Inc.*Compiled Sun 07-Dec-14 13:15 by prod_rel_team"
** end
```

xStatus Network 1 CDP VoIPApplianceVlanID

エンドポイントからスイッチへの VoIP トラフィックに使用される VLAN を識別します。詳細については、IEEE 802.1Q プロトコルのドキュメントを参照してください。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus Network CDP VoIPApplianceVlanID
*s Network 1 CDP VoIPApplianceVlanID: "300"
** end
```

xStatus Network 1 CDP VTPMgmtDomain

スイッチ™の設定済み VTP 管理ドメイン名の文字列を返します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus Network CDP VTPMgmtDomain
*s Network 1 CDP VTPMgmtDomain: "anyplace"
** end
```

xStatus Network 1 DNS Domain Name

ドメイン名を表示します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus Network 1 DNS Domain Name
*s Network 1 DNS Domain Name: "www.example.com www.example.int"
** end
```

xStatus Network 1 DNS Server [1..5] Address

DNS サーバの IP アドレスを示します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus Network 1 DNS Server 1.アドレス(Address)
*s Network 1 DNS Server 1 Address: "192.0.2.60"
** end
```

xStatus Network 1 Ethernet MacAddress

イーサネット インターフェイスの MAC (メディア アクセス コントロール) アドレスを示します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus Network 1 Ethernet MacAddress
*s Network 1 Ethernet MacAddress: "00:50:60:02:FD:C7"
** end
```

xStatus Network 1 Ethernet Speed

イーサネット速度を Mbps 単位で示します。速度は、全二重または半二重の場合があります。

返される結果の値スペース:

10half/10full/100half/100full/1000full

例:

```
xStatus Network 1 Ethernet Speed
*s Network 1 Ethernet Speed: "100full"
** end
```

xStatus Network 1 IPv4 Address

このシステムを一意に識別する IPv4 アドレスを示します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus Network 1 IPv4 Address
*s Network 1 IPv4 Address: "192.0.2.149"
** end
```

xStatus Network 1 IPv4 Gateway

IPv4 ゲートウェイのアドレスを示します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus Network 1 IPv4 Gateway
*s Network 1 IPv4 Gateway: "192.0.2.10"
** end
```

xStatus Network 1 IPv4 SubnetMask

IPv4 アドレスが属するサブネットを決定するサブネット マスクを示します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus Network 1 IPv4 SubnetMask
*s Network 1 IPv4 SubnetMask: "255.255.255.0"
** end
```

xStatus Network 1 IPv6 Address

このシステムを一意に識別する IPv6 アドレスを示します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus Network 1 IPv6 Address
*s Network 1 IPv6 Address: ""
** end
```

xStatus Network 1 IPv6 Gateway

IPv6 ゲートウェイのアドレスを示します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus Network 1 IPv6 Gateway
*s Network 1 IPv6 Gateway: ""
** end
```

xStatus Network 1 VLAN Voice VlanId

フィードバックは VLAN Voice ID を示します。VLAN Voice Mode がイネーブルでない場合、Off になります。

返される結果の値スペース:

Off/1 ~ 4094

例:

```
xStatus Network 1 VLAN Voice VlanId
*s Network 1 VLAN Voice VlanId: "Off"
** end
```


NetworkServices status

xStatus NetworkServices

ネットワーク サービス ステータスのトップ レベルの概要を示します。

xStatus NetworkServices NTP CurrentAddress

現在使用中の NTP サーバのアドレスを返します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus NetworkServices NTP CurrentAddress
*s NetworkServices NTP CurrentAddress: "123.254.15.121"
** end
```

xStatus NetworkServices NTP Server [n] Address

コーデックが使用している NTP サーバのアドレスを返します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus NetworkServices NTP Address
*s NetworkServices NTP Address: "12.104.193.12 64.104.222.16 144.254.15.121"
** end
```

xStatus NetworkServices NTP Status

NTP サーバと同期しているエンドポイントのステータスを返します。

Unknown:同期の状態が不明です。

Synced:システムは NTP サーバと同期しています

Discarded:NTP の結果は廃棄されました。

返される結果の値スペース:

Unknown/Synced/Discarded

例:

```
xStatus NetworkServices NTP Status
*s NetworkServices NTP Status: Synced
** end
```

Peripherals status

xStatus Peripherals

周辺機器ステータスのトップ レベルの概要を示します。

xStatus Peripherals ConnectedDevice [n] HardwareInfo

接続されたデバイスのハードウェア情報を示します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus Peripherals ConnectedDevice 1007 HardwareInfo
*s Peripherals ConnectedDevice 1007 HardwareInfo: "1122330-0"
** end
```

xStatus Peripherals ConnectedDevice [n] ID

接続されたデバイスの MAC アドレスを示します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus Peripherals ConnectedDevice 1007 ID
*s Peripherals ConnectedDevice 1007 ID: "00:10:20:20:be:21"
** end
```

xStatus Peripherals ConnectedDevice [n] Name

接続されたデバイスの製品名を示します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus Peripherals ConnectedDevice 1007 Name
*s Peripherals ConnectedDevice 1007 Name: "Cisco TelePresence Touch"
** end
```

xStatus Peripherals ConnectedDevice [n] SoftwareInfo

接続されたデバイスで実行されているソフトウェア バージョンの情報を示します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus Peripherals ConnectedDevice 1007 SoftwareInfo
*s Peripherals ConnectedDevice 1007 SoftwareInfo: "TI7.2.0"
** end
```

xStatus Peripherals ConnectedDevice [n] Status

エンドポイントに現在接続されている周辺機器を示します。

返される結果の値スペース:

Connected/ResponseTimedOut

例:

```
xStatus Peripherals ConnectedDevice 1001 Status
*s Peripherals ConnectedDevice 1001 Status: Connected
** end
```

xStatus Peripherals ConnectedDevice [n] Type

エンドポイントに接続されている周辺機器タイプを示します。

注:値スペース Camera のみが Precision 60 カメラを示します。

返される結果の値スペース:

Byod/Camera/ControlSystem/ISDNLink/Other/SpeakerTrack/TouchPanel

例:

```
xStatus Peripherals ConnectedDevice 1001 Type
*s Peripherals ConnectedDevice 1001 Type: TouchPanel
** end
```

xStatus Peripherals ConnectedDevice [n] UpgradeStatus

現在接続されている周辺機器の以前のソフトウェア アップグレードのステータスを示します。

返される結果の値スペース:

Downloading/Failed/Installing/InstallationReady/None/Succeeded/Rebooting/Retrying/Aborted/
Paused

例:

```
xStatus Peripherals ConnectedDevice 1001 UpgradeStatus
*s Peripherals ConnectedDevice 1001 UpgradeStatus: None
** end
```

Provisioning status

xStatus Provisioning

プロビジョニング ステータスのトップ レベルの概要を示します。

xStatus Provisioning Software Current CompletedAt

現在のソフトウェア アップグレードが完了した日時を表示します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus Provisioning Software Current CompletedAt
*s Provisioning Software Current CompletedAt: "2011-06-07T07:20:03Z"
** end
```

xStatus Provisioning Software Current URL

現在のソフトウェアのアップロード元の URL を示します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus Provisioning Software Current URL
*s Provisioning Software Current URL: "http://.../s52020ce8_0_0.pkg"
** end
```

xStatus Provisioning Software Current VersionId

現在のソフトウェアのバージョン ID を示します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus Provisioning Software Current VersionId
*s Provisioning Software Current VersionId: "s52020ce8_0_0.pkg"
** end
```

xStatus Provisioning Software UpgradeStatus LastChange

最新のソフトウェア アップグレードの日時を表示します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus Provisioning Software UpgradeStatus LastChange
*s Provisioning Software UpgradeStatus LastChange: "2011-06-07T07:20:03Z"
** end
```

xStatus Provisioning Software UpgradeStatus Message

ソフトウェア アップグレードのシステム メッセージを表示します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus Provisioning Software UpgradeStatus Message
*s Provisioning Software UpgradeStatus Message: ""
** end
```

xStatus Provisioning Software UpgradeStatus Phase

ソフトウェア アップグレードのフェーズを示します。

返される結果の値スペース:

None/DownloadPending/FormingHierarchy/Downloading/DownloadPaused/DownloadDone/Seeding/AboutToInstallUpgrade/Postponed/PeripheralsReady/UpgradingPeripherals/Installing/InstallingPeripherals

例:

```
xStatus Provisioning Software UpgradeStatus Phase
*s Provisioning Software UpgradeStatus Phase: None
** end
```

xStatus Provisioning Software UpgradeStatus SessionId

ソフトウェア アップグレードのセッション ID を示します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus Provisioning Software UpgradeStatus SessionId
*s Provisioning Software UpgradeStatus SessionId: ""
** end
```

xStatus Provisioning Software UpgradeStatus Status

ソフトウェア アップグレードのステータスを表示します。

返される結果の値スペース:

None/InProgress/Failed/InstallationFailed/Succeeded

例:

```
xStatus Provisioning Software UpgradeStatus Status
*s Provisioning Software UpgradeStatus Status: None
** end
```

xStatus Provisioning Software UpgradeStatus URL

現在アップロードおよびインストールされている新しいソフトウェアの URL を示します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus Provisioning Software UpgradeStatus URL
*s Provisioning Software UpgradeStatus URL: "http://.../s52020ce8_0_0.pkg"
** end
```

xStatus Provisioning Software UpgradeStatus VersionId

現在アップロードおよびインストールされているソフトウェアのバージョン ID を示します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus Provisioning Software UpgradeStatus VersionId
*s Provisioning Software UpgradeStatus VersionId: "s52010ce8_0_0.pkg"
** end
```

xStatus Provisioning Status

プロビジョニングのステータスを表示します。

Failed: プロビジョニングが失敗しました。

AuthenticationFailed: 認証に失敗しました。

Provisioned: エンドポイントはプロビジョニングされています。

Idle: プロビジョニングは非アクティブです。

NeedConfig: エンドポイントを設定する必要があります。

ConfigError: 設定時にエラーが発生しました。

返される結果の値スペース:

Failed/AuthenticationFailed/Provisioned/Idle/NeedConfig/ConfigError

例:

```
xStatus Provisioning Status
*s Provisioning Status: Provisioned
** end
```

Proximity status

xStatus Proximity

プロキシミティ ステータスのトップ レベルの概要を示します。

xStatus Proximity Services Availability

プロキシミティ サービスがエンドポイントで使用可能かどうかを示します。

Available: プロキシミティ モードがコマンド xConfiguration Proximity Mode で有効になっており、1 つ以上のプロキシミティ サービスが xConfiguration Proximity Services コマンドで有効になっています。

Disabled: プロキシミティ モードが xConfiguration Proximity Mode で無効になっているか、またはいずれのサービスも xConfiguration Proximity Services コマンドで有効になっていません。

Deactivated: プロキシミティ サービスはコマンド xCommand Proximity Services Deactivate で非アクティブ化されています。

例:

```
xStatus Proximity Services Availability
*s Proximity Services Availability: Disabled
** end
```

Security status

xStatus Security

セキュリティ ステータスのトップ レベルの概要を示します。

xStatus Security FIPS Mode

FIPS モードのステータスを表示します。

返される結果の値スペース:

On/Off]

例:

```
xStatus Security FIPS Mode
*s Security FIPS Mode: Off
** end
```

xStatus Security Persistency CallHistory

通話履歴のロギングが永続モードに設定されているか、または非永続モードに設定されているかを示します。Persistent がデフォルト モードです。

返される結果の値スペース:

NonPersistent/Persistent

例:

```
xStatus Security Persistency CallHistory
*s Security Persistency CallHistory: Persistent
** end
```

xStatus Security Persistency Configurations

システムのすべての設定が永続モードに設定されているか、または非永続モードに設定されているかを示します。Persistent がデフォルト モードです。

返される結果の値スペース:

NonPersistent/Persistent

例:

```
xStatus Security Persistency Configurations
*s Security Persistency Configurations: Persistent
** end
```

xStatus Security Persistency DHCP

DHCP のロギングが永続モードに設定されているか、または非永続モードに設定されているかを示します。Persistent がデフォルト モードです。

返される結果の値スペース:

NonPersistent/Persistent

例:

```
xStatus Security Persistency DHCP
*s Security Persistency DHCP: Persistent
** end
```

xStatus Security Persistency InternalLogging

内部ロギングが永続モードに設定されているか、または非永続モードに設定されているかを示します。Persistent がデフォルト モードです。

返される結果の値スペース:

NonPersistent/Persistent

例:

```
xStatus Security Persistency InternalLogging
*s Security Persistency InternalLogging: Persistent
** end
```

xStatus Security Persistency LocalPhonebook

ローカル電話帳が永続モードに設定されているか、または非永続モードに設定されているかを示します。Persistent がデフォルト モードです。

返される結果の値スペース:

NonPersistent/Persistent

例:

```
xStatus Security Persistency LocalPhonebook
*s Security Persistency LocalPhonebook: Persistent
** end
```

SIP status

xStatus SIP

SIP ステータスのトップ レベルの概要を示します。

xStatus SIP AlternateURI Alias [n] URI

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus SIP AlternateURI Alias
*s SIP AlternateURI Alias URI: ""
** end
```

xStatus SIP AlternateURI Primary [n] URI

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus SIP AlternateURI Primary
*s SIP AlternateURI Primary URI: ""
** end
```

xStatus SIP Authentication

SIP プロキシ サーバに登録するときに、どの認証メカニズムが使用されるかを示します。

Digest:RFC 2069 で指定されているダイジェスト アクセス認証方式を使用します。

NTLM:Microsoft の認証プロトコルである NTLM 認証メソッドを使用します。

Off:認証メカニズムは使用されません。

返される結果の値スペース:

Digest/Off

例:

```
xStatus SIP Authentication
*s SIP Authentication: Off
** end
```

xStatus SIP CallForward DisplayName

転送されたコールのユーザ インターフェイスに表示される URI を返します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus SIP CallForward DisplayName
*s SIP CallForward DisplayName: ""
** end
```

xStatus SIP CallForward Mode

SIP のコール転送モードがオンに設定されているか、またはオフに設定されているかを示します。

返される結果の値スペース:

On/Off

例:

```
xStatus SIP CallForward Mode
*s SIP CallForward Mode: Off
** end
```

xStatus SIP CallForward URI

コール転送モードがオンに設定されている場合に着信コールが転送されるアドレスを示します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus SIP CallForward URI
*s SIP CallForward URI: ""
** end
```

xStatus SIP Mailbox MessagesWaiting

メールボックスにある新しいメッセージの数を示します。

返される結果の値スペース:

整数 (Integer)

例:

```
xStatus SIP Mailbox MessagesWaiting
*s SIP Mailbox MessagesWaiting: 0
** end
```

xStatus SIP Mailbox URI

SIP メールボックスの URI を返します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus SIP Mailbox URI
*s SIP Mailbox URI: "12345678"
** end
```

xStatus SIP Proxy [n] Address

システムが通信する SIP プロキシのアドレスを示します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus SIP Proxy 1 Address
*s SIP Proxy 1 Address: "192.0.2.50"
** end
```

xStatus SIP Proxy [n] Secure

SIP プロキシ サーバとのシグナリングの暗号化ステータスを表示します。

返される結果の値スペース:

True/False

例:

```
xStatus SIP Proxy 1 Secure
*s SIP Proxy 1 Secure: True
** end
```

xStatus SIP Proxy [n] Status

エンドポイントと SIP プロキシ サーバ間の通信のステータスを表示します。

Active: エンドポイントと SIP プロキシ間の通信はアクティブです。

DNSFailed: DNS サーバへの通信の確立試行が失敗しました。

Off: エンドポイントと SIP プロキシ間に通信がありません。

Timeout: SIP プロキシへの通信の確立試行がタイムアウトになりました。

UnableTCP: システムは転送方式として TCP を使用できません。

UnableTLS: システムは転送方式として TLS を使用できません。

Unknown: 通信のステータスは不明です。

AuthenticationFailed: 誤ったユーザ名またはパスワード。

返される結果の値スペース:

Active/DNSFailed/Off/Timeout/UnableTCP/UnableTLS/Unknown/AuthenticationFailed

例:

```
xStatus SIP Proxy 1 Status
*s SIP Proxy 1 Status: Active
** end
```


xStatus SIP Proxy [n] Verified

ビデオ システム/コーデックが登録しようとしているサーバの SSL 証明書がコーデック™の信頼できる CA リストに含まれているかどうかを示します。サーバは通常、Cisco VCS または CUCM です。

True:サーバ™の SIP 証明書がコーデックの信頼できる CA リストと照合され、有効であると確認されています。また、サーバの完全修飾ドメイン名が有効な証明書と一致します。

False:SIP 証明書の検証に失敗したか、またはドメイン名が一致しなかったため、TLS 接続は設定されていません。TLS が使用されていない(xConfiguration SIP DefaultTransport が TLS に設定されていない) 場合、または証明書の検証がオフになっている(SIP TlsVerify が Off。この設定には製品の Web インターフェイスからアクセス可能) 場合にも、ステータスが False と返されることに注意してください。

返される結果の値スペース:

True/False

例:

```
xStatus SIP Proxy 1 Verified
*s SIP Proxy 1 Verified: False
** end
```

xStatus SIP Registration [n] Authentication

SIP プロキシ サーバに登録するときに、どの認証メカニズムが使用されるかを示します。

Digest:RFC 2069 で指定されているダイジェスト アクセス認証方式を使用します。

NTLM:Microsoft の認証プロトコルである NTLM 認証メソッドを使用します。

Off:認証メカニズムは使用されません。

返される結果の値スペース:

Digest/Off

例:

```
xStatus SIP Registration 1 Authentication
*s SIP Registration 1 Authentication: Off
** end
```

xStatus SIP Registration [n] Reason

SIP 登録が失敗した理由を説明するメッセージを表示します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus SIP Registration 1 Reason
*s SIP Registration 1 Reason: "404 Not Found"
** end
```

xStatus SIP Registration [n] Status

SIP プロキシ サーバへの登録ステータスを表示します。

Deregister:システムは SIP プロキシへの登録の解除処理中です。

Failed:システムは SIP プロキシへの登録に失敗しました。

Inactive:システムはどの SIP プロキシにも登録されていません。

Registered:システムは SIP プロキシに登録されています。

Registering:システムは SIP プロキシへの登録処理中です。

返される結果の値スペース:

Deregister/Failed/Inactive/Registered/Registering

例:

```
xStatus SIP Registration 1 Status
*s SIP Registration 1 Status: Registered
** end
```

xStatus SIP Registration [n] URI

SIP プロキシ サーバへの登録に使用する URI を示します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus SIP Registration 1 URI
*s SIP Registration 1 URI: "firstname.lastname@company.com"
** end
```

xStatus SIP Secure

SIP プロキシ サーバとのシグナリングの暗号化ステータスを表示します。

返される結果の値スペース:

True/False

例:

```
xStatus SIP Secure
*s SIP Secure: True
** end
```

xStatus SIP Verified

ビデオ システム/コーデックが登録しようとしているサーバの SSL 証明書がコーデック™の信頼できる CA リストに含まれているかどうかを示します。サーバは通常、Cisco VCS または CUCM です。

True:サーバ™の SIP 証明書がコーデックの信頼できる CA リストと照合され、有効であると確認されています。また、サーバの完全修飾ドメイン名が有効な証明書と一致します。

False:SIP 証明書の検証に失敗したか、またはドメイン名が一致しなかったため、TLS 接続は設定されていません。TLS が使用されていない(xConfiguration SIP DefaultTransport が TLS に設定されていない) 場合、または証明書の検証がオフになっている(SIP TlsVerify が Off。この設定には製品の Web インターフェイスからアクセス可能) 場合にも、ステータスが False と返されることに注意してください。

返される結果の値スペース:

True/False

例:

```
xStatus SIP Verified
*s SIP Verified: False
** end
```

Standby status

xStatus Standby

スタンバイ ステータスのトップ レベルの概要を示します。

xStatus Standby State

システムがスタンバイ モードかどうかを示します。

返される結果の値スペース:

Standby/Off

例:

```
xStatus Standby State
*s Standby State: Off
** end
```

SystemUnit status

xStatus SystemUnit

システム ユニット ステータスのトップ レベルの概要を示します。

xStatus SystemUnit Hardware Module SerialNumber

コーデックのハードウェア モジュールのシリアル番号を示します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus SystemUnit Hardware Module SerialNumber
*s SystemUnit Hardware Module SerialNumber: "F9AA99A00090"
** end
```

xStatus SystemUnit Hardware Monitoring Fan [n] Status

フィードバックは指定したファンの速度 (rpm) を示します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus SystemUnit Hardware Monitoring Fan 1 Status
*s SystemUnit Hardware Monitoring Fan 1 Status: "locked on 1096 rpm"
** end
```

xStatus SystemUnit Hardware Temperature

コーデック/システムで測定された現在の最高温度 (摂氏) を示します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus SystemUnit Hardware Temperature
*s SystemUnit Hardware Temperature: "64.0"
** end
```

xStatus SystemUnit Notifications Notification [n] Text

重要なシステム通知に関連するテキストをリストします。通知は、ソフトウェアのアップグレードのためにシステムが再起動したときや、ファクトリ リセットが実行されたときなどに発行されます。

すべての通知は、xCommand SystemUnit Notifications RemoveAll コマンドを発行して、リストから削除できます。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus SystemUnit Notifications Notification 1 Text
*s SystemUnit Notifications Notification 1 Text: "OK"
** end
```

xStatus SystemUnit Notifications Notification [n] Type

システム通知のタイプをリストします。通知は、ソフトウェアのアップグレードのためにシステムが再起動するときや、ファクトリ リセットが実行されるときなどに発行されます。

FactoryResetOK: この値は、ファクトリ リセットの成功後に返されます。

FactoryResetFailed: この値は、ファクトリ リセットの試行失敗後に返されます。

SoftwareUpgradeOK: この値は、ソフトウェア アップグレードの成功後に返されます。

SoftwareUpgradeFailed: この値は、ソフトウェア アップグレードの試行失敗後に返されます。

RebootRequired: この値は再起動が必要な場合に返されます。

Other: この値は、他のすべての通知に返されます。

すべての通知は、xCommand SystemUnit Notifications RemoveAll コマンドを発行して、リストから削除できます。

返される結果の値スペース:

FactoryResetOK、FactoryResetFailed、SoftwareUpgradeOK、SoftwareUpgradeFailed、RebootRequired、Other

例:

```
xStatus SystemUnit Notifications Notification 1 Type
*s SystemUnit Notifications Notification 1 Type: SoftwareUpgradeOK
** end
```

xStatus SystemUnit ProductId

製品の識別情報を示します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus SystemUnit ProductId
*s SystemUnit ProductId: "Cisco TelePresence Codec SX80"
** end
```

xStatus SystemUnit ProductPlatform

製品プラットフォームを示します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus SystemUnit ProductPlatform
*s SystemUnit ProductPlatform: "SX80"
** end
```

xStatus SystemUnit ProductType

製品タイプを示します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus SystemUnit ProductType
*s SystemUnit ProductType: "Cisco Codec"
** end
```

xStatus SystemUnit Software Name

コーデックにインストールされているソフトウェアの名前を表示します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus SystemUnit Software Name
*s SystemUnit Software Name: "s52010"
** end
```

xStatus SystemUnit Software OptionKeys Encryption

システムにインストールされたオプション キーが、暗号化機能をサポートしているかどうかを示します。

返される結果の値スペース:

False/True

例:

```
xStatus SystemUnit Software OptionKeys Encryption
*s SystemUnit Software OptionKeys Encryption: "true"
** end
```

xStatus SystemUnit Software OptionKeys MultiSite

システムにインストールされたオプション キーが、MultiSite 機能をサポートしているかどうかを示します。

返される結果の値スペース:

False/True

例:

```
xStatus SystemUnit Software OptionKeys MultiSite
*s SystemUnit Software OptionKeys MultiSite: "true"
** end
```

xStatus SystemUnit Software OptionKeys PremiumResolution

システムにインストールされたオプション キーが、PremiumResolution 機能をサポートしているかどうかを示します。

返される結果の値スペース:

False/True

例:

```
xStatus SystemUnit Software OptionKeys PremiumResolution
*s SystemUnit Software OptionKeys PremiumResolution: "true"
** end
```

xStatus SystemUnit Software OptionKeys RemoteMonitoring

システムにリモート モニタリング オプション キーがインストールされているかどうかを示します。リモート モニタリング オプション キーは、Web インターフェイスから、およびリモートのペアリングされたタッチ 10 からスナップショットを有効にします。

返される結果の値スペース:

False/True

例:

```
xStatus SystemUnit Software OptionKeys RemoteMonitoring
*s SystemUnit Software OptionKeys RemoteMonitoring: "true"
** end
```

xStatus SystemUnit Software ReleaseDate

コーデックにインストールされているソフトウェアのリリース日を示します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus SystemUnit Software ReleaseDate
*s SystemUnit Software ReleaseDate: "2015/05/05"
** end
```

xStatus SystemUnit Software Version

コーデックにインストールされたソフトウェアのバージョンを示します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus SystemUnit Software Version
*s SystemUnit Software Version: "CE8.0.0"
** end
```

xStatus SystemUnit State NumberOfActiveCalls

アクティブなコールの数を示します。

返される結果の値スペース:

0 ~ 5

例:

```
xStatus SystemUnit State NumberOfActiveCalls
*s SystemUnit State NumberOfActiveCalls: 0
** end
```

xStatus SystemUnit State NumberOfInProgressCalls

進行中のコールの数を示します。

返される結果の値スペース:

0~5

例:

```
xStatus SystemUnit State NumberOfInProgressCalls
*s SystemUnit State NumberOfInProgressCalls: 0
** end
```

xStatus SystemUnit State NumberOfSuspendedCalls

一時停止中のコールの数を示します。

返される結果の値スペース:

0 ~ 5

例:

```
xStatus SystemUnit State NumberOfSuspendedCalls
*s SystemUnit State NumberOfSuspendedCalls: 0
** end
```

xStatus SystemUnit Uptime

コーデックの最後の再起動以降の秒数を示します。

返される結果の値スペース:

整数 (Integer)

例:

```
xStatus SystemUnit Uptime
*s SystemUnit Uptime: 597095
** end
```

Time status

xStatus Time

時間ステータスのトップ レベルの概要を示します。

xStatus Time SystemTime

システムに設定された日時を返します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus Time SystemTime
*s Time SystemTime: "2014-04-25T10:04:03Z"
** end
```

UserInterface status

xStatus UserInterface

ビデオ ステータスのトップ レベルの概要を示します。

xStatus UserInterface ContactInfo ContactMethod [n] Number

システムのアクティブな連絡先情報を返します。このアドレスは、このエンドポイントに到達するために使用されます。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus UserInterface ContactInfo ContactMethod Number
*s UserInterface ContactInfo ContactMethod 1 Number: "12345678"
** end
```

xStatus UserInterface ContactInfo Name

システムのアクティブな担当者名を返します。結果は、システムが登録されているプロトコルによって異なります (ある場合)。自動的に設定された担当者名は、コマンド `xConfiguration UserInterface ContactInfo Type` で上書きされている場合があります。これによって、連絡先の不一致に関する診断警告が発生します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus UserInterface ContactInfo Name
*s UserInterface ContactInfo Name: "MySystem"
** end
```

Video status

xStatus Video

ビデオ ステータスのトップ レベルの概要を示します。

xStatus Video ActiveSpeaker PIPPosition

画面上のアクティブ スピーカー™の画像の位置を示します。

返される結果の値スペース:

UpperLeft/UpperCenter/UpperRight/CenterLeft/CenterRight/LowerLeft/LowerRight

例:

```
xStatus Video ActiveSpeaker PIPPosition
*s Video PIP ActiveSpeaker Position: UpperCenter
** end
```

xStatus Video Input

ビデオ入力ステータスのトップ レベルの概要を示します。

xStatus Video Input Connector [n] Connected

指定したコネクタに何かが接続されているかどうかを示します。すべての接続を検出することはできません。

返される結果の値スペース:

False/True/Unknown

例:

```
xStatus Video Input Connector 1 Connected
*s Video Input Connector 1 Connected: True
** end
```

xStatus Video Input Connector [n] SignalState

指定した入力の信号状態を示します。

Unknown: 信号フォーマットが不明です。

OK: 信号が検出され、信号フォーマットはサポートされています。

Unsupported: 信号は検出されましたが、信号フォーマットがサポートされていません。

返される結果の値スペース:

OK/Unknown/Unsupported

例:

```
xStatus Video Input Connector 1 SignalState
*s Video Input Connector 1 SignalState: OK
** end
```

xStatus Video Input Connector [n] SourceId

コネクタが関連付けられている入力ソースの ID を示します。

返される結果の値スペース:

整数 (Integer)

例:

```
xStatus Video Input Connector 1 SourceId
*s Video Input Connector 1 SourceId: 1
** end
```

xStatus Video Input Connector [n] Type

どのコネクタ タイプであるかを示します。

返される結果の値スペース:

Composite/DVI/HDMI/Unknown/YC

例:

```
xStatus Video Input Connector 1 Type
*s Video Input Connector 1 Type: HDMI
** end
```

xStatus Video Input MainVideoSource

メイン ソースとして現在使用されているローカル ビデオ入力を返します。メイン ビデオ ソースは xConfiguration Video DefaultMainSource コマンドを使用して設定されます。

返される結果の値スペース:

整数 (Integer)

例:

```
xStatus Video Input MainVideoSource
*s Video Input MainVideoSource: 1
** end
```

xStatus Video Input Source [n] ConnectorId

入力ソースに関連付けられているコネクタの ID を示します。

返される結果の値スペース:

整数 (Integer)

例:

```
xStatus Video Input Source 1 ConnectorId
*s Video Input Source 1 ConnectorId: 1
** end
```

xStatus Video Input Source [n] FormatStatus

ビデオ入力ソースの解像度フォーマットのステータスを示します。

返される結果の値スペース:

Ok/OutOfRange/NotFound/Interlaced/Error/Unknown

例:

```
xStatus Video Input Source 1 FormatStatus
*s Video Input Source 1 Resolution FormatStatus: Ok
** end
```


xStatus Video Input Source [n] FormatType

ビデオ入力ソースの解像度フォーマットのタイプを示します。

返される結果の値スペース:

Unknown/AnalogCVTBlanking/AnalogCVTReducedBlanking/AnalogGTFDefault/
AnalogGTFSecondary/AnalogDiscreteTiming/AnalogDMTBlanking/AnalogCEABlanking/Digital

例:

```
xStatus Video Input Source 1 FormatType
*s Video Input Source 1 Resolution FormatType: Digital
** end
```

xStatus Video Input Source [n] MediaChannelId

内部使用専用。

返される結果の値スペース:

整数 (Integer)

例:

```
xStatus Video Input Source MediaChannelId
*s Video Input Source 1 MediaChannelId: 2
*s Video Input Source 2 MediaChannelId: 3
** end
```

xStatus Video Input Source [n] Resolution Height

ビデオ入力ソースの解像度の高さ (ピクセル単位) を示します。

返される結果の値スペース:

0~3000

例:

```
xStatus Video Input Source 1 Resolution Height
*s Video Input Source 1 Resolution Height: 1080
** end
```

xStatus Video Input Source [n] Resolution RefreshRate

ビデオ入力ソースの解像度のリフレッシュ レート (Hz) を示します。

返される結果の値スペース:

0~300

例:

```
xStatus Video Input Source 1 Resolution RefreshRate
*s Video Input Source 1 Resolution RefreshRate: 50
** end
```

xStatus Video Input Source [n] Resolution Width

ビデオ入力ソースの解像度の幅 (ピクセル単位) を示します。

返される結果の値スペース:

0 ~ 4000

例:

```
xStatus Video Input Source 1 Resolution Width
*s Video Input Source 1 Resolution Width: 1920
** end
```

xStatus Video Monitors

モニタ レイアウト モードを返します。

Single: 同じレイアウトがすべてのモニタに表示されます。

Dual: レイアウトは 2 台のモニタに分散されます。

DualPresentationOnly: 最初のモニタにはコールのすべての参加者が、2 番目のモニタにはプレゼンテーション (存在する場合) が表示されます。

Quadruple: レイアウトは 4 台のモニタに分散されます。これにより、各リモート参加者とプレゼンテーションがそれぞれ個別のモニタに表示されます。

返される結果の値スペース:

Single/Dual/DualPresentationOnly/Triple/Quadruple

例:

```
xStatus Video Monitors
*s Video Monitors: Single
** end
```

xStatus Video Output

ビデオ出力ステータスのトップレベルの概要を示します。

xStatus Video Output Connector [n] Connected

デバイス (ディスプレイなど) が出力コネクタに接続されているかどうかを説明します。ディスプレイがスタンバイ モードに入ると、エンドポイントはそれを検出できない可能性があります。その結果、ディスプレイが物理的に接続されていても、コネクタのステータスは `False/Unknown` に戻ります。

`True`: デバイスはビデオ出力コネクタに接続されています。

`False`: 何もビデオ出力コネクタに接続されていません。

返される結果の値スペース:

`True/False`

例:

```
xStatus Video Output Connector 1 Connected
*s Video Output Connector 1 Connected: True
** end
```

xStatus Video Output Connector [n] ConnectedDevice CEC DeviceType

コーデックが検出した HDMI 出力に接続されている CEC 対応デバイスのタイプを示します。

この情報は、HDMI 出力に接続されているデバイスに CEC 機能が設定されており、コーデックで `xConfiguration Video Output Connector [n] CEC Mode` がオンに設定されている場合にのみ使用できます。

返される結果の値スペース:

`Unknown/TV/Reserved/Recorder/Tuner/Playback/Audio`

例:

```
xStatus Video Output Connector 1 ConnectedDevice CEC DeviceType
*s Video Output Connector 1 ConnectedDevice CEC DeviceType: TV
** end
```

xStatus Video Output Connector [n] ConnectedDevice CEC PowerControl

コーデックが HDMI 出力に接続されている CEC 対応デバイスを制御しているかどうかを示します。

この情報は、HDMI 出力に接続されているデバイスに CEC 機能が設定されており、コーデックで `xConfiguration Video Output Connector CEC Mode` がオンに設定されている場合にのみ使用できます。

返される結果の値スペース:

`Unknown/Ok/In progress/Failed to power on/Failed to standby`

例:

```
xStatus Video Output Connector 1 ConnectedDevice CEC PowerControl
*s Video Output Connector 1 ConnectedDevice CEC PowerControl: Ok
** end
```

xStatus Video Output Connector [n] ConnectedDevice CEC PowerStatus

HDMI 出力に接続されている CEC 対応デバイスの状態を示します。

この情報は、HDMI 出力に接続されているデバイスに CEC 機能が設定されており、コーデックで `xConfiguration Video Output Connector CEC Mode` がオンに設定されている場合にのみ使用できます。

返される結果の値スペース:

`Unknown/Ok/In progress/Failed to power on/Failed to standby`

例:

```
xStatus Video Output Connector 1 ConnectedDevice CEC PowerStatus
*s Video Output Connector 1 ConnectedDevice CEC PowerStatus: Ok
** end
```

xStatus Video Output Connector [n] ConnectedDevice Name

モニタ EDID で定義されているように HDMI ポートに接続されているモニタの名前を示します。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus Video Output Connector 1 ConnectedDevice Name
*s Video Output Connector 1 ConnectedDevice Name: "G2420HDBL"
** end
```

xStatus Video Output Connector [n] ConnectedDevice PreferredFormat

モニタ EDID で定義されているように HDMI ポートに接続されているモニタの優先入力形式を示します。これは必ずしもコーデックが送信している形式ではありません。

返される結果の値スペース:

文字列

例:

```
xStatus Video Output Connector 1 ConnectedDevice PreferredFormat
*s Video Output Connector 1 ConnectedDevice PreferredFormat: "1920x1080@60Hz"
** end
```

xStatus Video Output Connector [n] MonitorRole

ビデオ出力コネクタに接続されているデバイスにどのビデオ ストリームを表示するかについて説明します。

First/Second/Third: マルチモニタ設定でのモニタの役割。単一モニタ設定では、First、Second および Third の間に違いはありません。

PresentationOnly: アクティブな場合プレゼンテーション ビデオ ストリームを表示します。

Recorder: ローカル メイン ビデオを含むすべての参加者を表示します。アクティブであれば、プレゼンテーションも表示されます。

返される結果の値スペース:

First/Second/Third/PresentationOnly/Recorder

例:

```
xStatus Video Output Connector 1 MonitorRole
*s Video Output Connector 1 MonitorRole: First
** end
```

xStatus Video Output Connector [n] Resolution Height

ビデオ出力コネクタの解像度の高さ (ピクセル単位) を示します。

返される結果の値スペース:

120~3000

例:

```
xStatus Video Output Connector 1 Resolution Height
*s Video Output Connector 1 Resolution Height: 1080
** en
```

xStatus Video Output Connector [n] Resolution RefreshRate

ビデオ出力コネクタの解像度のリフレッシュ レート (Hz) を示します。

返される結果の値スペース:

1 ~ 300

例:

```
xStatus Video Output Connector 1 Resolution RefreshRate
*s Video Output Connector 1 Resolution RefreshRate: 60
** end
```

xStatus Video Output Connector [n] Resolution Width

ビデオ出力コネクタの解像度の幅 (ピクセル単位) を示します。

返される結果の値スペース:

176~4000

例:

```
xStatus Video Output Connector 1 Resolution Width
*s Video Output Connector 1 Resolution Width: 1920
** end
```

xStatus Video Output Connector [n] Type

コネクタのタイプを示します。

HDMI: HDMI コネクタです。

DVI: DVI コネクタです。

返される結果の値スペース:

HDMI/DVI

例:

```
xStatus Video Output Connector 1 Type
*s Video Output Connector 1 Type: HDMI
** end
```

xStatus Video Presentation PIPPosition

画面上のプレゼンテーション イメージの位置を示します。

返される結果の値スペース:

UpperLeft/UpperCenter/UpperRight/CenterLeft/CenterRight/LowerLeft/LowerRight

例:

```
xStatus Video Presentation PIPPosition
*s Video PIP Presentation Position: CenterLeft
** end
```

xStatus Video Selfview FullscreenMode

セルフビューが全画面表示モードで設定されているかどうかを示します。

返される結果の値スペース:

On/Off

例:

```
xStatus Video Selfview FullscreenMode
*s Video Selfview FullscreenMode: Off
** end
```

xStatus Video Selfview Mode

セルフビュー モードがオンに設定されているかどうかを示します。

返される結果の値スペース:

On/Off

例:

```
xStatus Video Selfview Mode
*s Video Selfview Mode: Off
** end
```

xStatus Video Selfview OnMonitorRole

どのモニタにセルフビューが含まれているかを特定します (存在する場合)。

返される結果の値スペース:

First/Second/Third/Fourth

例:

```
xStatus Video Selfview OnMonitorRole
*s Video Selfview OnMonitorRole: First
** end
```

xStatus Video Selfview PIPPosition

画面上のセルフビュー イメージの位置を示します。

返される結果の値スペース:

UpperLeft/UpperCenter/UpperRight/CenterLeft/CenterRight/LowerLeft/LowerRight

例:

```
xStatus Video Selfview PIPPosition
*s Video Selfview PIPPosition: LowerRight
** end
```

第 6 章 付録

起動スクリプトについて

コーデックには 1 つ以上の起動スクリプトを追加できます。起動スクリプトには、コーデックを起動するたびに起動手順の一部として実行されるコマンド (xCommand) とコンフィギュレーション (xConfiguration) が含まれています。一部のコマンドとコンフィギュレーション (xCommand Boot など) は起動スクリプトに含めることができません。

起動スクリプトを作成して管理するには、コーデックの Web インターフェイスを使用します。

Web インターフェイスおよび起動スクリプトの詳細については、ご使用の製品向けの管理者ガイドを参照してください。

SystemTools コマンド

注: systemtools コマンドはコーデックの管理制御に使用され、コマンドライン インターフェイスからのみ使用できます。Systemtools はコーデックのプログラミングには使用しないでください。

必須パラメータ (山カッコ): <text>

オプション パラメータ (角カッコ): [text]

サポートされるコマンド タイプを概観するには、「systemtools ?」と入力します。

例:

```
systemtools ?
idefixversion
touchpanelversion
license
network
ntp
pairing
passwd
pki
rootsettings
securitysettings
securitystatus
selectsw
sudo
whoami
```

コマンドの使用方法を表示するには、コマンドの末尾に疑問符を付けます。

例:

```
systemtools network ?
usage: network ping <hostname> | traceroute
<hostname> | netstat | addr | ifconfig
```

systemtools idefixversion

コーデックに接続しているタッチ コントローラのソフトウェア バージョンを返します。

systemtools touchpanelversion

接続しているタッチ コントローラに必要なソフトウェア バージョンを返します。CE8.0 以降にアップグレードするときに使用されます。

systemtools license list

コーデックのすべてのライセンスを一覧表示します。

systemtools license show <name>

名前によって明示されたライセンス ファイルの内容を示します。
<name>: ライセンス ファイルの名前。

systemtools network ping <hostname>

Network デバッグ コマンド。
<hostname>: ホストの IP アドレスまたは URL。

systemtools network traceroute <hostname>

Network デバッグ コマンド。
<hostname>: ホストの IP アドレスまたは URL。

systemtools network netstat

Network デバッグ コマンド。

systemtools network addr

システムの IP アドレスをチェックします。

systemtools network ifconfig

Network デバッグ コマンド。

systemtools pairing unpair

Cisco TelePresence タッチ コントローラとのアソシエーションを削除します。

systemtools passwd

ログイン ユーザのパスワードを変更します。

systemtools pki list

コーデックの証明書と CA リストが存在している場合に、それらを一覧表示します。

systemtools pki delete <cert-name>

コーデックの証明書と CA リストが存在している場合に、それらを削除します。
<cert-name>: 証明書の名前。

systemtools securitysettings jitc

JITC に準拠するようにセキュリティ要件を設定します。
コーデックに適用するパスワードと PIN ポリシーを設定します。

systemtools securitysettings isjitc

現在の設定が JTIC に準拠していることを確認します。

systemtools securitysettings default

セキュリティ設定をデフォルトに戻します。

systemtools securitysettings ask

個別のコンフィギュレーションを照会します。このコマンドを発行すると、各ポリシーを個別に表示できます。

- 現在の値を保持するには、Enter キーを押します。
- 特定のポリシーを変更するには、番号を入力して Enter キーを押します。
- デフォルト値「0」は、制限がないことを示します。

Max failed login attempts [0]?

- ユーザが非アクティブ化されるまでのログイン失敗回数。

Suspend-time after max failed login attempts (minutes) [0]?

- ログイン試行の失敗回数が最大数を超えてから、ユーザが非アクティブ化されるまでの分数。

Max simultaneous sessions total [0]?

- Web に同時にログインできるユーザの最大数、および ssh/Telnet に同時にログインできるユーザの最大数。

Max simultaneous sessions per user [0]?

- ユーザごとの最大同時セッション数。

Number of passwords to remember [0]?

- 新しいパスワードとして再使用できない以前のパスワードの数。

Number of PINs to remember [0]?

- 新しい PIN として再使用できない以前の PIN の数。

Maximum time between password renewals (days) [0]?

- ユーザが更新期間内にパスワードを変更しなかった場合、そのユーザは非アクティブ化されます。

Minimum time between password renewals (hours) [0]?

- ユーザはこの制限時間内に 1 回だけパスワードを変更できます。

Maximum time between PIN renewals (days) [0]?

- ユーザが更新期間内に PIN を変更しなかった場合、そのユーザは非アクティブ化されます。

Minimum time between PIN renewals (hours) [0]?

- ユーザはこの制限時間内に 1 回だけ PIN を変更できます。

Maximum time between logins (days) [0]?

- ユーザがこの制限内にログインしなかった場合、そのユーザは非アクティブ化されます。

Max consecutive equal digits in PINs [0]?

- PIN における同一数字の最大連続桁数。

Minimum number of digits in PINs [0]?

- PIN の最小桁数。

Maximum number of digits in PINs [0]?

- PIN の最大桁数。

Max consecutive identical characters in passwords [0]?

- パスワードにおける同一文字の最大連続数。

Minimum number of characters in passwords [0]?

- パスワードの最小文字数。

Maximum number of characters in passwords [0]?

- パスワードの最大文字数。

Minimum number of lower-case letters in passwords [0]?

- パスワードの小文字の最小数。

Minimum number of upper-case letters in passwords [0]?

- パスワードの大文字の最小数。

Minimum number of numerical characters in passwords [0]?

- パスワードの数値文字の最小数。

Minimum number of special characters in passwords [0]?

- パスワードの特殊文字の最小数。

Minimum number of character groups in passwords [0]?

- パスワードの文字グループの最小数。

Minimum number of character changed from previous password [0]?

- 以前のパスワードから変更する最小文字数。

systemtools securitystatus

コーデックのセキュリティ ステータスを示します。

systemtools selectsw

使用可能なソフトウェア イメージから使用するイメージを選択します。ソフトウェア イメージを変更すると、コーデックが再起動されます。

引数を指定しない場合: 使用可能なソフトウェア イメージのバージョンが一覧表示され、どれがアクティブであるかが示されます。

image name: この名前のソフトウェアに切り替えます。

systemtools sudo on

現在のセッションのユーザ ロールを指定されたユーザのロールに変更します。

<username>: sudo ユーザの名前。

<password>: sudo ユーザのパスワード。

systemtools sudo off

サインインしているユーザのユーザ ロールに戻します。

systemtools whoami

サインインしているユーザの名前と ID、およびそのユーザが保持しているロールを一覧表示します。

接続解除原因タイプについて

コールが切断されると、次のパラメータが記録されます。接続解除原因タイプは、接続解除イベント (xEvent) で使用されます。

CauseValue	独自仕様。CauseType および CauseCode の使用を推奨します。
CauseType	コールが切断された理由を示します。値スペース: {OtherLocal, LocalDisconnect, UnknownRemoteSite, LocalBusy, LocalReject, InsufficientSecurity, OtherRemote, RemoteDisconnect, RemoteBusy, RemoteRejected, RemoteNoAnswer, CallForwarded, NetworkRejected}
CauseString	原因コードの説明。
CauseCode	接続解除の原因コードは SIP および Q.850 で定義されています。
CauseOrigin	SIP、Q.850、internal

例:

```
xEvent DisconnectEvent

*e CallDisconnect CauseValue: 1
  CauseType: "LocalDisconnect"
  CauseString: ""
  OrigCallDirection: "outgoing"
  RemoteURI: "firstname.lastname@company.com"
  CallId: 89
  CauseCode: 0
  CauseOrigin: SIP
** end
```

シスコ Web サイト内のユーザ マニュアル

Cisco TelePresence 製品のユーザ マニュアルは、<http://www.cisco.com/go/telepresence/docs/> で入手できます。

適切な製品が見つかるまで、右側のペインで製品カテゴリを選択します。以下の順にパスをたどってください。

*Collaboration Room Endpoints >
Cisco TelePresence MX シリーズ*

または、次のショートリンクを使用してマニュアルを検索します。<http://www.cisco.com/go/mx-docs>

ドキュメントは、次のカテゴリに編成されます。

インストールとアップグレード > インストールとアップグレードガイド

- ・ *インストールガイド*: 製品のインストール方法
- ・ *スタートアップガイド*: システムを稼働させるために必要な初期設定
- ・ *RCSI ガイド*: 法令準拠および安全上の注意

保守と運用 > メンテナンスとオペレーション ガイド

- ・ *スタートアップガイド*: システムを稼働させるために必要な初期設定
- ・ *管理者ガイド*: 製品の管理に必要な情報
- ・ *CUCM での CE エンドポイントの管理*: 本製品を Cisco Unified Communications Manager (CUCM) とともに使用するために実行するタスク

保守と運用 > エンドユーザ ガイド

- ・ *ユーザ ガイド*: 製品の使用方法
- ・ *クイック リファレンス ガイド*: 製品の使用方法

Reference Guides > Command references

- ・ *API リファレンス ガイド*: アプリケーション プログラミング インターフェイス (API) のリファレンス ガイド

リファレンス ガイド > テクニカル リファレンス

- ・ *CAD 図面*: 測定値付き 2D CAD 図面

Design > Design Guides

- ・ *ビデオ会議室に関するガイドライン*: 会議室の設計とベストプラクティスに関する一般的なガイドライン
- ・ *ビデオ会議室に関するガイドライン*: 認識される音質の向上のために実行すべき事項

ソフトウェア ダウンロード、リリースと一般情報 > ライセンス情報

- ・ *オープン ソース ドキュメント*: 本製品で使用されるオープンソース ソフトウェアに関するライセンスおよび注意事項

ソフトウェア ダウンロード、リリースと一般情報 > リリース ノート

- ・ *ソフトウェア リリース ノート*

Intellectual property rights

このマニュアルに記載されている仕様および製品に関する情報は、予告なしに変更されることがあります。このマニュアルに記載されている表現、情報、および推奨事項は、すべて正確であると考えていますが、明示的であれ黙示的であれ、一切の保証の責任を負わないものとします。このマニュアルに記載されている製品の使用は、すべてユーザ側の責任になります。

対象製品のソフトウェア ライセンスおよび限定保証は、製品に添付された『Information Packet』に記載されています。添付されていない場合には、代理店にご連絡ください。

The Cisco implementation of TCP header compression is an adaptation of a program developed by the University of California, Berkeley (UCB) as part of UCB's public domain version of the UNIX operating system. All rights reserved. Copyright © 1981, Regents of the University of California.

ここに記載されている他のいかなる保証にもよらず、各社のすべてのマニュアルおよびソフトウェアは、障害も含めて「現状のまま」として提供されます。シスコおよびこれら各社は、商品性の保証、特定目的への準拠の保証、および権利を侵害しないことに関する保証、あるいは取引過程、使用、取引慣行によって発生する保証をはじめとする、明示されたまたは黙示された一切の保証の責任を負わないものとします。

いかなる場合においても、シスコおよびその供給者は、このマニュアルの使用または使用できないことによって発生する利益の損失やデータの損傷をはじめとする、間接的、派生的、偶発的、あるいは特殊な損害について、あらゆる可能性がシスコまたはその供給者に知らされていても、それらに対する責任を一切負わないものとします。

このマニュアルで使用している IP アドレスおよび電話番号は、実際のアドレスおよび電話番号を示すものではありません。マニュアル内の例、コマンド出力、ネットワーク図、およびその他の図は、説明のみを目的として使用されています。説明の中に実際のアドレスおよび電話番号が使用されていたとしても、それは意図的なものではなく、偶然の一致によるものです。

ハード コピーおよびソフト コピーの複製は公式版とみなされません。最新版はオンライン版を参照してください。

シスコは世界各国 200 箇所にオフィスを開設しています。各オフィスの住所、電話番号、FAX 番号は当社の Web サイト (www.cisco.com/go/offices) をご覧ください。

Cisco and the Cisco logo are trademarks or registered trademarks of Cisco and/or its affiliates in the U.S. and other countries. To view a list of Cisco trademarks, go to this URL: www.cisco.com/go/trademarks. Third-party trademarks mentioned are the property of their respective owners. The use of the word partner does not imply a partnership relationship between Cisco and any other company. (1110R)

シスコのお問い合わせ先

シスコの Web サイトでは、シスコの世界各地のお問い合わせ先を確認できます。

URL: ▶ <http://www.cisco.com/web/siteassets/contacts>

シスコシステムズ合同会社

〒107-6227 東京都港区赤坂9-7-1 ミッドタウン・タワー

<http://www.cisco.com/jp>

お問い合わせ先: シスコ コンタクトセンター

0120-092-255 (フリーコール、携帯・PHS含む)

電話受付時間: 平日 10:00~12:00、13:00~17:00

<http://www.cisco.com/jp/go/contactcenter/>